

を日本に特派し、銀行業者間に了解を得たのであるが、個々の貸出しに關して正金、住友兩銀行支店の嚴重なる貸出し條件に該當し得るものなく、急を告ぐ多數要求者の満足に値するものは少なかつた。よつて止むを得ず州外及國方面に同胞進出の適地を求め、實地踏査を行つた所、加州に代はるだけの適當な土地は見出すべくもあらず現狀維持に萬全の策を講ずるより方法は無い結果となつた。

二、徹底排日後の同胞社會

邦語學園への壓迫

米國に生れた邦人第二世は、米國市民なる故に米國公立學校に於て米國式の教育を受け其生活様式及び思想は日本人と大いに異なるものあり、故に英國及び米國の慣習に通ずるところ少なき初代移民たる父と母と第二世との間には、自然意志の疏通を缺くに至るは當然のことである。この兩者の間隔を補ふ爲に、日本語學園が設けらるゝに至つた。併し初代移民が未だ永住の決心をなさざる時代に於ては、日本語學園なるものゝ機能は母國に歸りたる時の準備の意味も多分に含まれて居たことも肯かれる。

斯の如くしてハワイに於ては一八九八年最初の日本語學校が設立せられ、其後日本移民の増加と共に漸次増加し、今やハワイ全島に散在する邦語學園は百五十を越えるに至つた。而して其生徒数は三萬人に達せんとして居るが、加州に於ける日本語教育機關の設立は數年遅れ、一九〇三年（佐野佳三—日本學院）桑港に開設され、南加羅府に於ては一九〇七年羅府ベツレヘム教會（現合同教會と合同以前の教會）に於て、東京香蘭女學校出身の山本尉夫人に依て開始されたものが先驅である。其後漸次増加して一九二五年には南加州を合して既に百校に近く、其生徒數約五千に達するに至つた。なほ加州以外の沿岸諸州にも數十の日本語學園が存在し、シアトル市に於ける邦語教育は其設備と共に最も進歩せるものと評がある。

米國は歐洲大戰參加の結果國民の不統一なること、及び米國內に英語を解せざる多數の人民の存在することに留意し、其結果所謂米化運動（Americanization Movement）を起し、米國內に在住する人々に米國の歴史、憲法、政治を理解せしめ、完全なる米國市民を養成し國內の統一を圖らんとした。

其結果特に外國語學校の存在は、米化運動の妨害なりとの見解を持つに至り、その爲め學園側は種々壓迫を蒙る結果となつた。特に大戰後未だ反獨感情の強烈であつた爲に、ドイツ語學校は特に壓迫を受けた。從來日本語學園の一部には、其教育が日本に於ける國民教育と同様なる形式内容を有し、日本の忠君愛國思想を其儘鼓吹するものとして批難されつゝあつた。従つてこの國語學校取締問題は米化運動によつて拍車をかけられる結果を招き、ハワイに於ては一九二〇年、加州に於ては一九二一年外國語學校取締法が制定され、日本語學校の認可、教師の資格、教科書、教授時間は總て專任學務監督官に依つて監督せらるゝこととなつた。

更に加州に於ては、上院議員インマンの提出せる以前の取締法よりも一層苛酷なる外國語學校取締法が提出せられ、上下兩院を通過して知事の署名を得る迄になつた時、恰もネブラスカ州に於て制定せられた私立外國語學校取締法が、米國大審院に依つて違憲の判定を受けたのである。其理由は外國語學校取締法は外國語學校教師の職業の自由と、語學を獲得せんとする生徒の機會及兩親の子供に對する教育の自由等に干渉するものであつて違憲であると云ふのであつた。是に依て加州の取締法も自然消滅の形となり、更に一九二六年六月ハワイに於ける取締法も亦大審院に依つて違憲の判決が下され、茲に立法によつて外國語學校を取締らんとする總ての企ては水泡に歸り去つたのである。

新移民法實施と日會の證明權消失

新移民法の實施によつて、證明權が停止された結果地方の日本人會及び中央日本人會等は、其資源を失ふに至り、

勢ひ自足自立の途を講せざるを得なくなつた。在米日本人會は法務部を新設して、或筋より七千弗の年額補助を得ると共に、各地方に會員組織を以て、略ぼ同額の財源を得、以て更生の途を辿らんと計劃したが、或筋の補助は見込なきに至り、地方會員募集によつて小規模の實行案を樹てたが、一般の共鳴する所とならず財源に窮するに至つた。

▲東汽、郵船と合同 一九二六年東洋汽船は、四月十三日の太平洋丸を最終として日本郵船會社に併合された。

▲暴徒邦人を襲ふ 一月二十五日排日暴徒の一味は中加ウツドレーキの岡村次郎吉キャンプを襲ひ、邦人労働者の追放を強請した。(六月十七日被告ピーター以下四名有罪判決を受く)。

▲牛島重爾逝く 日本訪問を企て南加友人往訪中であつた牛島重爾は病氣再發、一九二六年三月二十七日羅府病院に於て長逝。故人は在米日會會長として在職十餘年、ボテトー・キングとして全米に其名を馳た。

(一九二七年十二月十七日在日によつてサンマテオ日本人墓地に建碑さる)

△鮎卵の輸入放殖 ロックフェラー財團により日本産鮎卵百八十萬個は、石川千代松博士の斡旋によつて輸入放殖さる。

大正 天皇崩御

十二月二十五日(一九二六年)

今上天皇陛下御踐祚

元號を昭和と改元さる

平和人形使節交換

日米親善關係の恢復に、有ゆる機會を捉へて努力せる米國基督教會同盟幹事ギユリックは、全米より平和の使者として集めたる人形、數多を日本に贈り、親善増進に努めた。文部省は關屋學務局長をして之を横濱に出迎へしめ、國內の小學校に分與して贈寄の意を明かにした。日本よりも之が答禮として全國生徒より

一錢宛の據金をなし、五十八個の純日本の盛裝の人形を特製「青い眼をした御人形」の答禮として佐々木豊次郎帶同渡米、沿道の諸州にて内覽に供し、一九二七年十二月降誕節贈り物として華府に於て松平大使の手を経て米國の好意に酬ひた。この舉は兩國人間の感情の融和に貢獻するところがあつた。

株式會社試訴勝訴

羅府日本人醫師會より、藤井整及びライト辯護士を代理人として提出した「株式會社病院設立」の件は、一部の反對を押して試訴を起したものであつたが、一九二七年(昭和二年)五月二十一日の判決、即ち農業に關せざる商行爲によれる株式會社の組織は、日米條約に遵據して、市民權の有無に關せず條件の具備によつて市民同様の權利を享有することを得」との判決を得て勝訴に歸した(加州檢事總長ウエツプは之を不當として控訴したが、一九二八年四月合衆國大審院に於て重ねて邦人側に有利の決定を受けた)。

野口英世醫博逝く

一九二八年五月二十一日(昭和三年)突として悲報は世界の人心を撲つた。正五位勳四等帝國學士院會員にして、米國ロックフェラー醫學研究所の最高幹部に列し、グアヤキル並びにキトー兩大學の名譽教授の待遇を受け、病理細菌學者として世界に名聲洽ねかりし野口英世は、黃熱病菌研究のためアフリカの西海岸に於て研究中、その研究完成に近づき、近く歸米の途に上らんとした矢先、自ら黃熱菌に犯されて長逝した。此の報世界に傳はるや世は擧げて科學界のため彼の長逝を惜しみ、紐育セントルカ病院本部は執行委員會を開き、元檢事總長ウエーカーシヤム及びトイスラー(日本セントルカ病院長)等發起人となり、五百萬弗の野口記念資金の募集をなすこととなり、其他全米に於ける新聞紙は均しく學界の功勞者たる野口博士の犠牲的死を惜まざるはなかつた。

米國大統領は「國寶」を失へりと悼み、天皇陛下よりは特旨を以て、勳二等旭日重光章を授けて其死を飾り給ふた。明治九年奥州の貧家に生れ、三歳にして爐の猛火中に轉落し、左手足に大火傷を負つて不具者となつた野口は、二十五歳にして友人血脇守之助の援助を得て渡米、刻苦精勵二十八歳にして米國は公費を以て、歐洲に研究のため派

遣した。この光榮は益々不屈不撓の精神に鞭ち、遂にその大成をなすに至つた。享年五十三歳。福島縣耶麻郡翁島村の出身である。左に記するは米紙の痛惜の意を代表する二つである。

「野口英世博士は代用教員より身を起して世界的學者となつた。蓋し異數と謂ふべし。この地上に於て科學の傳説の存續する限り博士の事業は永遠に残る」(紐育ウオールド紙)

「野口博士の死は世界の大損失である。彼は病菌征討の總帥であつた。多く立て並べる山賊に等しい馬上軍人の銅像を除いて野口博士の銅像を上位に建てよ。」(紐育アメリカン紙)

副島墨國に惨死す

新世界新聞の創立者にして、バイオニアの一人、また多年同胞社會に貢献した副島八郎(鐵堂)は、その主宰の週刊紙「北辰」を大澤榮三に譲渡し、南加に於て木下準一郎等によつて組織されたる墨國某土地會社に關係し、余生を墨國開發に捧げ以て邦人發展の一助たらしめんと決心し、友人等の諫言をも排し、同土内山外海と共にソノラ州エルモシヨ市より三十五哩を隔てたるエリ・カリサルに移住、幾多の不便と闘ひつゝ開拓を続け居たところ、一九二八年八月十九日兇漢(以前使用人たりしメキシコ人労働者)は財貨掠奪を企て日中副島の居を尋ね、夜間再び引返して先づ副島をビストルを以て銃殺し、内山に命じて現金なきため百ペソの小切手を書かした。めでたいで同人をも惨殺し、自動車を奪つて遁走した。然るに無人の郷に等しき土地の事として惨事の發見されたのは十日間の後であつた。エルモシヨ日本人會は此慘狀を知り直ちに役員の總動員を行つて其跡始末及び犯人逮捕に警官と協力し、其結果數日にして犯人を捕縛し附近に於て銃殺の刑に處した。兇報一度桑港に傳ふるや、友人等は救世軍小林政助を派して事情を調査せしめ、現地日本人會等にも謝意を致し桑港に於ては追悼會を催し、サンマテオ日本人墓地に記念碑を建立した。

御大典と在米同胞

今上天皇陛下御即位の大典(十一月)を舉行せらるゝや、各團體は奉祝會を催し、

且つ邦人中心團體より左の献上品を申出で御採納の榮に浴した。

米國刊行名著書籍二百一種(四百三十冊)	在米日本人會
圖書室什器一組	南加中央日本人會
黃金製萬年筆	サンデゴ日本人會
特製日本語聖書一冊	在米日本人基督教徒
佛書	桑港佛教會

此の外個人よりも献上するものがあつた。

△叙勳と表彰 安孫子久太郎及古屋政次郎、勳五等瑞寶章を賜ふ、坂田龜喜は移民功勞銀牌、香川常吉、紺殺養章、何れも内務省下附、其他日本産業協會より産業上の功勞者として堂本譽之進、小池實太郎、杉原軍造、坂田龜喜等々表彰さる。

出淵大使沿岸巡視

一九三〇年(昭和五年)五月九日、出淵駐米大使は吉田官補を帶同して加州に來訪、羅州より佐藤羅州領事夫妻もこれに加はり、沿岸を経て同十一日來桑、翌十二日には市長ロルフ並びにロバート・ダラーと共に桑港日本人基督教青年會々館起工式に臨み、中北加州を視察同十五日オレゴン州視察の途についた。

澁澤子爵薨去

日米親善をモットーとし、生涯を通じて日米兩國間に貢献する處多大であつた、澁澤榮一子爵は一九三一年十一月十一日東京に於て薨去した、享年九十二歳、彼の友人として將又在米同胞の知己の感ありしスタンフォード大學前總長ジョルダン博士は彼に先立つ月餘、九月十九日八十歳を以て永眠した。博士は勳二等旭日中綬章を賜つた親日家であつた。

オリムピック大會

一九三二年(昭和七年)七月三十日、十萬五千の觀衆を收容する羅州の大競技場で

第十回世界オリムピック大會は開催された。相競ふ三十九ヶ國の代表選手は何れも粹を抜いた猛者揃とて各種競技は眞に手に汗を握らしむる大熱戦であつた。参加せる日本代表選手は役員を除いて百三十一名、選手數に於ては米國に次ぎ世界第二位を占めた。其の結果は期待せる程の戦績はあげ得なかつたが、水泳に於ては遂に世界選手權多數を獲得し、水泳日本の聲價を高からしめた。在留邦人は日本選手が優勝して日の丸高くメーンマストに掲げられ、國歌「君が代」が嘯唳と奏せられる壯觀に感激したのであつた。

金門桑王の架橋起工

一九三三年二月二十六日、桑、金門灣を扼する、對岸へ、世界最大の無柱橋が架せられ其の起工式がブレシデオ兵營内のクリシーフキルドに於て地鎮祭を兼ねて舉行された。二萬人の大行列が市内を練り歩き種々な祝賀餘興が開催され、参加者二十萬人であつた。世界一の稱ある金門と同様の桑王架橋も一九三六年十一月十二日開通式を舉行し、各國人の行列花車の競技、夜は邦人街に於て演藝會を盛大に催して祝意を表した。

經濟界動搖とモラトリアム

大戦後の米國經濟界は、戦時好況を持続する事能はず、一九二〇年以來農産界の不況は深刻化し、一般市況に影響を及ぼし遂に一九三三年（昭和八年）二月頃に至つて、銀行の閉鎖倒産相次ぎ、ミシガン州其他にモラトリアムが宣言された。加州に於ても、三月二日午前より三日間のモラトリアムを知事は宣言し、州内各銀行に三日間の支拂停止を命令して現金の引出しを禁ずると共に左の方法により大恐慌の襲來を防いだ。

一、加州より他州に現金の流出を禁ず。

二、州内の經濟的窮狀にある地方銀行を救助し其の期間に對策を講ぜしむる事。

以上の銀行休業日滿期後と雖も開店出來得るもの其の半ばにして依然整理を名として、取引休止のもの多く全米に於て倒産銀行二百幾十に達した。

郵船船賃値下げ

經濟界の趨勢に鑑み日本郵船會社は一九三三年三月十三日秩父丸より左の通り船賃の値下げを斷行した。

從來大洋丸は一等横濱、桑、港、間二百八十五弗なりしを、三十五弗値下、三等船賃は淺間、龍田、秩父のイーデツキ、五弗下げ、桑、横間五十五弗、羅、府、横、濱間六十弗となつた。

禁酒法解禁の道程へ

一九三三年三月中央議會に於て、麥酒法通過、即ち三・二の酒精を含めるビール法三百十六對九十七票にて通過し、米國禁酒法は實質的に廢棄へと歩を速め、ローズベルト大統領は三月二十日新法案に署名し四月七日から酒類販賣は許可さるゝに至り十三年振りに日本酒が續々と輸入さるゝ事になつた。

松岡洋右全權訪米

世界の檣舞臺ゼネーブ國際聯盟會議に於て日本を代表して、奮闘し遂に聯盟脫退の一幕を演じて歸朝の途を米國に取つた松岡洋右全權は、一九三三年（昭和八年）三月二十四日紐、育、埠頭着上陸せんとするや、支那人五十餘名、邦人十餘名の一團が邦語及び支那語の大旗をかゝけて示威運動を試み、一支那人は機に乗じて全權を狙撃せんと試みしも警官によつて、未然に逮捕され、事なきを得た。

猶松岡全權ボストン行の際も、軌道に赤黄の布片で覆ふた二本の鐵パイプを以て障礙を試みんとしたのを發見され列車轉覆の企てに非ずやと騒がれたのであるが結局支那人のイヤガラセ程度であらうと云ふに落着した。

松岡全權は吉澤書記官、八辻外務屬、其他渡邊、河上等を従へ、聯合通信社加藤特派員等と共に四月十日桑、港に着しフェヤモント・ホテルに入つた。同夜ドリームランド會館に於て、桑、港、日本人會主催の講演會に臨み、四千の聴衆に二時間餘の熱辯を揮ひ、嘗て修學したオレゴン大學訪問の爲めポートランド市に赴き同市に於て恩人のため墓碑を建立して歸朝した。

排日漁業法案否決

一九三三年加州議會に市民權なきものに二十五弗課稅法案及釣魚其他鳥獸狩獵禁止

案は、提出者シーゲールによつて延期撤廢卓上放置の形となり、一八八〇年四月十二日通過し法律として現存する、歸化不能者の漁業權禁止の法律は四月十九日漁業委員ウキルソンの發議によつて下院は之れを無効となし、上院に於ても撤廢案を認容した。如斯加州議會開會毎に排日的漁業案の提出されるその裏面には好ましからざる動機の存することを忖度するに難からぬものがある。

市俄古大博 と日本茶寮

一九三三年六月一日より開催の、市俄古大博覽會（日本茶宣傳のため、日本茶業組合中央會議所理事三橋四郎次一行は、五月十七日龍田丸にて渡米、茶のサービスマガール十數名を帶同、經費二十五萬圓を投じ、専ら日本茶の宣傳に當つた。此大博覽會は各國獨特の色彩と内容を有し、八十五の建物、費用總額二千五百萬弗、大統領により五月二十七日開館式を舉げた。

デンバー美術館 と邦人主事

デンバー市廳三階に新設された美術博物館は一九三三年五月十七日開館祝賀式を舉ぐる事、市長、及び市内の美術同好の士が多數出席した。邦人にして之の種方面に推薦されたのは之を以て嚆矢とする。

邦人社會事業 と御下賜金

天皇皇后兩陛下には一九三三年（昭和八年）十月、在米同胞間に於ける社會事業中功績顯著なるものに對し、官内省を経て左の御下賜金を賜つた。（桑港救世軍の恩賜を受けたるは一九三三年にして以下は一九三四年である）

金壹封 桑港 日本人救世軍社會館建築費補助金

御内帑金一封 布哇日本人慈惠會、桑港 加州日本人慈惠會、羅府南加小兒園、羅府 日本人會社會部、沙港 日本人會社會事業部、紐育 日本人社會事業部

新渡戸博士逝く

一九一三年の加州排日法案通過時代の頃より在米日本人問題に興味と同情を有し、熱心な

る研究を進めると共に、日米交換教壇を通じて諸大學に東洋講座を設けしめ、その他屢々巡回講演によりて、日米親善と理解の増進に努め、一九三一年の如きは加州大學に於て二十回の連続講演に毎回五百の聽講生を引きつけたる碩學新渡戸稻造博士は一九三三年十月、バンブ太平洋會議に、日本首席代表として出席し、其の歸途病を得てピクトリア病院に入院、加療中十月十五日横隔膜の腫物手術を受けたがその経過面白からず遂に永眠するに至つた。享年七十二歳、博士の永眠は均しく日米の學界をして痛惜措く能はざらしむるものがあつた。長くも天皇陛下には生前の功勞を嘉せられ勳一等瑞寶章を賜ふた。

同月桑港 沙港各地で夫々嚴肅なる追悼式が執行され、在留民多數が參列した。晚香坡大學の校庭には日本燈籠に生前の功績を彫めたる紀念燈が建設され、同市邦人庭園師一同の好意になれる日本樹木が移植されあたりを飾つておる。

ストーチ博士永眠 桑港 基督教會牧師ストーチ博士は一九三四年十月十一日ポスト街の自宅に於て胃潰瘍のため永眠した。享年七十八歳。

博士は安政三年四月二十九日オハイオ州クリブランド市に生れ、二十五歳ペン大學哲、醫科卒業、宣教師としてシヤムに赴任し後五年辭して桑港に來り、一八八六年邦人間の傳道に着手、傳道局より朝鮮宣教を命ぜられたるも、沿岸に於ける邦人間の傳道を使命と感じ、長老教會附屬青年會を設立して専ら邦人青年の指導に任じた。其の後日本人長老教會總理に任ぜられ加州の地に十三ヶ所の教會を設立した。隱退後ポスト街の土地家屋を提供してストーチ記念館として同胞社會のために献げた、一九二四年功に依り勳五等に叙せられ、大正天皇より御紋章附煙草入を拜受した。十五日リホームド教會に於て葬儀執行、羅府エバゲリン墓地に葬つた。

布哇邦人五十年祭

明治十八年布哇に官約移民が送られて以來、一九三五年二月十七日は五十年に達したので布哇全島邦人は此の日を期して一大祝典を舉行し、先人に感謝し後輩二世に訓ゆる處があつた。布哇に日本人の

足跡を印したる史實は西紀一八〇六年（文化三年）である、同年正月伊豆下田港を出帆した藝州豊田郡木谷浦五百石積の稻若丸、平原善松一行がそれであつた。（乗組員六名は廣島、二名は岩國）出航當日より海化に出逢ひ、漂流中三月二十日オランダ船に救はれ、五月五日ホノルルへ上陸し、滞在九十餘日メリケン船にて支那マカオに送られ、更にオランダ船にて日本長崎に着したのは一八〇七年六月であつた。布哇には其の後に於ても屢々邦人漂流者が寄港した史實がある、明治元年に至つて謂ゆる元年者百五十三名の移民の渡布が行はれ、其後暫らく跡を絶ち明治十八年に至つて官約移民として渡布した人々が今日の基礎となつて、布哇邦人社會を形成するに至つたのである。

大學に於ける

日系市民協會は加州内の各ハイスクールに日本語學課程の設置運動を州學務局に試みてゐる。其の成功は容易に得らるべくもないかも知れないが、これが實現すれば邦人の家庭にとつては、日本語習得の上に一大光明を齎すものと見られてゐる。

日本語研究

現在大學教育を受けつゝある邦人二世學生中にも邦學研究課目を取るもの若くは希望者漸増せんとするが、左の大學では既に東洋講座を設け其の間には邦語教育研究をなさしめつゝあるものもある。一九三五年當時左記の人々が講師として就職しておつた。

- ハーバード大學 岸本講師、華州大學 巽講師、須大學 市橋俊、加州大學 ワン女史、エール大學 荒川教授、布哇大學 原田助

日本産業協會表彰

伏見宮殿下を總裁に戴く日本産業協會では、在米同胞中産業上に貢献せるものを表彰して斯道獎勵に資しておるが、一九三七年（昭和十二年）迄に左の人々が表彰されてゐる。

貿易及移民事業	表彰年	受表彰者氏名
	大正十三年	件 新三郎
		飯田龜喜
		ポートランド

日本雜貨及農業	昭和九年	央州	フツドリバー	南 彌 右 衛 門
貿易				森 文 五 郎
農業				迎 田 勝 馬
				江 藤 爲 治
				荒 谷 節 夫
				堂 本 譽 之 進
				安 井 益 男
				竹 岡 大 一
				小 池 實 太 郎
				田 中 孝 平
				奥 田 平 次
日本食料品輸入業	昭和十二年	桑	港	東 ヶ 崎 菊 松

南部八州散在の同胞數

五年現在

- 在米日本人は全米に亘つて散在せざる處は無いのであるが南部八州に於ける在米同胞數テキサスを含める其の家庭數六十にして、テキサス以外の在留者數は左の如きものである。（一九三五年現在）
- △ルイジアナ州 一九人 △アーカンソー州 三人 △アラバマ州 三人 △ジョージヤ州 五人 △オクラホマ州 一〇人 △テネッシー州 二人 △南カロライナ州 七人 △フロリダ州 一人

市民權喪失日

系女子復權

米國市民權を有する婦人にして、一九二二年九月二十二日發布のケーブル法により市民權喪失（市民權ある女子も市民權なき男子と結婚したる場合市民權喪失）したるもの復權運動が行はれつゝあつたが、一九三五年に至りハルミサノ案が米國上下兩院を通過して同年以後市民權を恢復する事になつた。

安孫子久太郎逝く 一九三六年（昭和十一年）五月三十一日日本新聞社長安孫子久太郎が加州大學病院に於て逝つた。一八八四年渡米以來滿五十有二年の彼の生涯は同胞社會の爲めに終始した。一九二八年功勞に依り勳五等を賜つた。

高齢者と歸米二世 加州在留同胞者間に約六千人の獨身且つ高齢者（六十歳以上）が居住するものと見らる、其の多くは恒心を失ひ恒産に缺けたものである。而も之等の人々は競争場裡の敗者であると云ふに留つて、曾ては同胞社會構成の一要員であつたことは云ふまでもない。彼等の老後に關して同胞社會は充分なる關心を拂ふべきであらう、現在州内邦人中二萬五千の生産能力あるものに對して、約七萬の非生産者（老人、婦人、小兒）あり、其の生産能力の低下は想像に餘りあるものがある。其の間二世の進出著しきものがあるとしても、日本に在住する日系米人の歸米は重要な輸血劑として歡迎交渉を續くべきものであらう。（一九三六年）末以前の歸米二世は毎年約五百人であつたが近年は稍々増加して八百五十人前後となつておる。

一九二八年より同三五年に至る歸國統計を見るに、

年次	入國者數	歸國者數
一九二八	三、六二六	三、三四九
一九二九	三、〇六五	二、七三〇
三〇	二、七三二	三、一三〇
三一	二、三〇六	二、八二八
年次	入國者數	歸國者數
一九三一	一、一七六	二、七三一
三二	九二六	二、一四一
三三	一、一七〇	二、二九〇
三四	一、三三六	二、〇〇六

排日案と日系市民 一九三七年加州議會に幾多の排日案が提出された。その議案は
 △市民に對し獨立學校に於ては外國語を教ゆべからず △外人漁業禁止法案 △オレンヂ郡二哩以内海岸に於て網漁を禁ずる案 △州内の鰯肥料を州外に搬出禁止 △鰯肥料全禁案 △鰯漁期を一ヶ月短縮案（漁期十一月より翌

年三月末迄を）△鰯船制限案 △カツオ、バラクダ、シーバス禁漁案
 以上州會に現れたる排日法案に對し、日系市民協會（北加代表者會）は一九三七年二月二十五日バイセリヤに委員會を開催百五十名出席し、運動資金據出、排日案件中、邦人に最も影響ある漁業案、土地法案、東洋人の法人組織禁止案の三件に對し、撤廢運動を進むることに一決した。

「註」桑港沖に出漁する十四隻の邦人鰯船期間五ヶ月間の收入約八十萬弗、乗員百三十人、是等の人が市内に消費する金額は二十萬弗と稱さる。鰯漁業は邦人漁業中閉却を許さぬ重要なものである。

日系在郷軍人會支部 日系市民協會は一九三〇年以來、日系在郷軍人の市民權運動に活動したのであつたが、一九三五年六月市民權獲得に成功した。「日系在郷軍人市民權許可案」上院通過、下院は六月十八日通過、大統領署名、其の結果五百名近くの有権者を生じ、一方在郷軍人はアメリカン、リヂオン支部組織に邁進、加州大會の決議に基き日本人支部を一九三六年五月設置し「タウンセント・ハリス」支部と命名し、第一支部長に塚本敬太郎が就任した。

兵務者會結成 一九三七年（昭和十二年）八月二十一日、桑港に於て米元次一郎、藤本觀太、井上晋、島本彦一、其の他兵役義務者三十餘名が發起人となり、北加の兵務者に呼びかけ大團結の下に銃後後援を計り、金門ホールに集合、會するもの數百、大會成立を告げ、井上晋治を議長として左の決議を通過した。

「我等在米日本兵役義務者は現下の日支事變に際し極力祖國恤兵部を援助することを期す」
支那人の日貨排斥 日支事變の益々擴大するや、一九三七年十月十六日桑港在住の支那人及び支那人に同情する外國人數百名は排日文字を列ねたる旗幟を手にし、グランドアベニューの日本人美術雜貨商店前に於て示威を行ひ、惡罵を浴せつゝ行進するので警察は解散を命じ其の一名を拘引した。數日前から支那人は少女を使囑

してピケットを日本人商店に張らした折柄、警察の禁止命令があつたので當日の大デモになつた次第であるが引き続き執拗な態度を以て日貨排斥に狂奔今日に及んでおる。

國民使節續々訪米

日支事變の國民使節として高石眞五郎、伍堂卓雄（獨乙）松方幸次郎（米國）大倉喜七郎（伊國）芦田均等は同一九三七年十月二十七日來米し、埠頭にて各新聞記者を引見メッセージを語つた。私設大使の格で山田わかも渡米、在留同胞在住地を巡講して時局を語り啓發する所があり東行して華府に大統領夫人を訪問して歸朝した。此の外十一月十七日、笠井重治代議士及鈴木文治、桑港日本人會主催の講演會に臨み、時局談を試みた。又高石眞五郎十一月二十七日セントフランシス・ホテルに桑港市内米人記者及び通信員、極東關係者等を招待晚餐を共にして時局を語り了解を深め東部各地を歴訪事變の真相を闡明して歸朝した。

時局委員會活躍

日支事變の勃發以來、米人間の對日空氣、日に増し險惡を加へ、日本品のボーイカッターその他、日米間の親善を阻害する問題、風評の續出に、桑港を中心として一九三七年九月組織されたる時局委員會は鋭意日米親善工作に努力、實蹟見るべきものがあつた、その運動資金二萬五千弗も各地方日會の協力により順調に募集された、委員長は在米日本人會長高橋一雄である。委員會の組織一九三七年九月。

桑港萬國博覽會協贊會

一九三八年四月愈々明年度開催の萬博に對し、邦人側に於ても大博協贊會を組織し、大々的に日本宣傳、時局にも資する處あらんとし、豫算案の組み立て、活動の方法を協議した、同會は名譽顧問に鹽崎總領事を、會長に高橋一雄（郵船支店長）副會長官崎、寺尾、塚本、金澤、井上、神崎等をあげた。

桑港及紐育大博覽會

一九三九年紐育及桑港に於ける兩大博は、日本の参加によつて殊更意義附けられたる觀が深かつた。同年二月天日日本政府代表着桑以來、協贊會の協力により桑港大博開場祭の二月十四日には各國人の一大行列が行はれ、日本人側は桑日バンドを先頭に「花トンネル」の少女九十人。「踊り屋臺」等を出

し邦人一千名の市中行進は斷然光彩を放つた。會期中左の催しが行はれ何れも歴倒的成果をあげた。

△教師謝恩會 三月二十日金門大博内に桑港日本人會主催、協贊會後援の公立學機教師招待會行はれたが會場日本館内狹隘を感じるの來客であつた。晚餐を供し、各種の餘興は特に喝采を博した。

△佛教デー 四月二日佛教デーを催はし、三百の雅兒行列は數百の入場者を驚かした。花祭り露天劇場の演藝、夜間は八時より佛音頭三百の少女が踊つた。

△大博日本デー 天長節の佳節を以て桑港大博日本デーは行はれ、邦人二千餘參列、午後二時駐米大使堀内謙介は十九發の禮砲に迎へられ會場着、スター少將指揮の米國陸軍の閱兵式に臨み、レデオ放送を試み、日本館内に於て各國政府代表及加州朝野の名士に會し、日本人行列に参加した。大博開期中に於ける日本デーは出色のものであつた。殊に色彩を加へたものは大博女王邦人カンテストによつて選ばれたる十五名の二世麗人であつた。

堀内大使は短期の滯桑時を利用して多くの米國人に折衝して好感を與へた。大使今回の西下は他面在米同胞狀態視察にあつたので、羅府着以來寧日なく活動した。

△紐育大博開場式 四月三十日開場、入場者六十萬人、大統領開場式參列、日本館は異彩を放つて好評を博した。若杉總領事及天日政府代表の斡旋による、第一日日本館參觀者二十五萬人。

△日米親善觀光デー 六月十日桑博日本館内に於て萬博協會、國際觀光局、桑日合同主催の下に、市廳、警察、移民局、消防局等々の米人を主賓に約五百名招待、ビール、サンドウィッチの餐應及各種の餘興主客共に觀を盡した。註 大博は十月二十九日閉會日本館も同日閉會式を上ぐ。

全加州邦人農業者大會 一九三九年六月十六日より、在米日本人會主催の下に、日系市民農業者大會開催、二世農家代表五十餘名出席し左の件々を議了した。

△農業組合組織の件、△各地方に於て農業見學團組織、△交換見學によつて産業上の開發を計る事、△毎年大會開催の件、△共同販賣及購買組合結成の件、

△翌十七、十八日桑港佛教會に於て一世農業家百三十餘名出席左の決議をなした。

△日系市民に農業を奨励すること、△講演會及講習會を開くこと、△共同販賣購買組合を作ること、勞働者の需供調整△統制法と農家に及ぼす影響の研究、△全加州大會實行委員設置、△統計の作製、

市民協會北加聯盟大會

一九三九年七月一日より四日間、北加州に在る各市民協會は、桑港、基督教會、年會館に聯盟大會及敬老會を催ほし、二重國籍問題及排日法案對策其の他に就て協議し六十歳以上のバイオニヤ數十人及二百名の來賓を佛教會ホールに會し、一夕の慰問懇談の時を持つた。二世が日を追ふて同胞社會の中心に進出し、民族問題に、日米親交問題に、社會改善に協力するに至つたことは著しく注目を惹くに至つた。敬老會に於ても最年長者に記念帖を贈つて表彰する所があつた。

日米通商條約廢棄通告

一九三九年七月二十七日米國政府は日米通商航海條約の廢棄を日本に通告した。在米日本人は非常なショックを感じ影響するところ甚大なるも事態を靜觀し慎重なる態度を保持して時局に善處すべく對策を練つた。

州會に現はれたる排日案

加州議會は恰かも排日法の提出を年中行事の一と心得て居る様である。筆者は想ふに其防止方法に於ても何等かの缺陷があるのでないかと觀する節がないでもない。在米同胞は宜しく日系市民と懇談して、徹底的に理解を以て州會に對すべきでなからうか、一九三九年の州會にも、ターナー下院議員によつて、現行土地法を修正し、加州日本人農家に徹底的強壓を加へんとする案及び排日漁業案二案が提出、萬一斯る案の通過を見れば邦人の漁業は全滅せざるを得ないのである。州會なるものが飽迄邦人の鬼門であることは米國人のために惜しむ可きことである。上記ヨーテ排日漁業案は五月末採決の結果、四二對二四で否決された。

第二編 在米日本人史各篇

第一章 在米日本人の農業

概説

在米日本人の農業發展の経路を見るに、早くも一八六九年（明治二年）に於て既にこれに手を染めてゐる。即ちスネール（ドイツ人或ひはオランダ人と言はる）なる外人が、約二十名の日本人を引卒して渡米し、加州エルドラド郡ゴールド・ヒルに於て茶の栽培を企てたことが記録に存してゐる。蓋しこれを以て在米邦人の農業着手の先驅者とすべきであらう。但しこの先驅團の事業は不幸にして失敗し、越えて一八七五年（明治八年）には薩藩士長澤鼎が米國留學を志して渡米、後ち目的を變へて永住を決定し、ワシントン・D・Cより加州サンタローザに來り先づ四百英町の土地を購入して農業を經營した。後ち長澤は着々事業に成功し二千英町の土地を所有、葡萄を栽培し、能力五十萬ギャロンの大醸造所を造り、葡萄酒の醸造をなしつゝ白人間に日本人の優秀手腕と實力を示した。然しながらこれらの例は要するに先驅者としての史實であり、なほ邦人の農業に對する卓越手腕を發揮したのは遙かに後年のことに屬する。即ち邦人が米國に於て農業界に頭角を現はし來つたのは長澤の着手後二十年、一八九五年頃より一九二〇年頃に至る二十五年間と觀るのが妥當であらう。然もこの二十五年に於ける邦人農業の伸展は目覺しきものがあり、その生産額は年額四千萬圓、或ひは第一次世界大戰末期よりその後の數年間に於ては實に年額一億弗といふ

巨額の收穫を産出したのであつた。

斯る長足發展の素因を釋ねるならば多くの理由を發見し得るのであるが、歸するところは農を尙ぶわが國民性、乃至その優秀なる才能技術が米國の良土を得て斯く伸展したものと云ふ他なく、また我大和民族が早くより農業立國の民であり、米國渡航者の過半はその農業出身者であつて、單に不拔の技能を有するのみならず、計算を外にして農作物を愛育するといふ國民性をも指摘せねばならぬ。斯くして農業は在米邦人の最大最高の産業となり、發展の根幹をなし、實に在米邦人はこれに依つて立ちこれに因つて生活しつゝありと云ふも過言でなく、同時に米國に對しては大の貢獻をなし來り、現になしつゝある。この事は以下隨所にこれに觸れ、また別にこれを詳記するであらうが、本篇は斯る輝かしき在米邦人の大産業の全貌を敘誌し得ざることを遺憾とするも、同時に邦人産業こそは日本人史中の一篇に掲ぐべく餘りに大であり廣範である。當に他日特に農業史の出現を俟つべきであり、本篇の如きは實にその沿革の大綱を敘し得たに過ぎないのである。

加州の農業概観

在留同胞の農業に關係してゐる數は可成廣く、山中部即ち、ユタ、アイダホ、ワイオミング、ネヴァダの諸州並にワシントン、オレゴン、アリゾナ、テキサス其他の諸州に亘つてゐるが、其最も關係深きは加州であつて、加州の同胞農業を知ることにて、殆ど米國の全般を知ると云つて過言でない。故に先づ加州農業の概況を述べ、同胞農業の狀態に及び、次で他州の同胞農業狀態を述ぶるの道筋を取る。

加州の氣候と地味 加州の地味は太平洋岸に於ける細長い地帯で、北緯三十三度から四十二度に亘つてゐる。東方はシーラ・ネヴァダ山脈が連り、西方にはシヤスタの高峰から出づるコースト山脈があり、此の二大山脈は南テ

ハチャビーに於て合して一つとなるが、右二大山脈に抱かれた形は恰も船の如く、其中には約七萬方哩の平原を持つ。南にはサンオーキン河が流れその流域一帯の平原をサンオーキン平原と云ひ、北にはサクラメント河があり、その流域一帯をサクラメント平原と稱する。此二大平原が地味に最も肥沃であるが、其他にコースト山脈の間に介在する幾多の小平原がある。即ちソノマ、ナツパ、ヴァカヴィル、ユカイヤ、サンタクララ、サリナス、サンタマリアの各平原がそれである。

テハチャビー以南は以北の平原と異り、概ね乾燥せる土砂で、半熱帯の作物耕作に適合する。併し近年灌漑設備大に整ひ、諸種の野菜果物が栽培されるやうになつた。けれども地味は北部に比すれば遙かに劣る。即ち北部は砂質壤土または粘質壤土をなし、土地到る處肥沃である。また「出來土」が非常に深く或る所は六七呎以上に及び、普通の所でも三四呎はある。これ加州に諸種の果物がよく發育結實する所以である。

氣候は東方シーラ・ネヴァダ山麓地方及び南加の一部を除くの外は、殆ど劃一で、最も暑熱の高きはフレズノの百十度乃至百十五度、レッドブラフの百七十八度、最も寒きはクインシーの五六度、年平均温度五十六七度である。故に果實野菜の栽培には最も適し、此點米國何れの州も加州を凌ぐものなし、この故に加州の開拓は漸く十九世紀後半より生産舞臺に加入したに過ぎないが、今日に於ては既に米國第一の果實野菜の生産地と稱せられるに至つた。左に主要農産物の耕作期間を示す。

品種	植付又ハ蒔付	收獲	品種	植付又ハ蒔付	收獲
アルファアーフ	自十月至翌年三月	五月ヨリ十月マデ	アスパラガス	十一月ヨリ二月マデ	三月ヨリ七月マデ
パレー	十二月ヨリ四月マデ	五月ヨリ八月マデ	ピンズ	四月ヨリ五月マデ	九月ヨリ十一月マデ
キヤベージ	自九月至翌年五月	自六月至翌年四月	キヤーロット	九月ヨリ五月マデ	九月ヨリ十一月マデ
オニオン	二月ヨリ三月マデ	九月ヨリ十一月マデ	ポテト	九月ヨリ六月マデ	自九月至翌年一月

セロリ	六月ヨリ七月マデ	九月ヨリ十二月マデ	スクウオツシュ	四月ヨリ五月マデ	八月ヨリ九月マデ
シユガビーツ	一月ヨリ六月マデ	七月ヨリ十二月マデ	スウキートポテト	五月ヨリ六月マデ	九月ヨリ十月マデ
トメト	一月ヨリ五月マデ	七月ヨリ十一月マデ	ワタメロン	四月ヨリ五月マデ	七月ヨリ九月マデ

摘要アルファアブアは四回刈取、ビズはブラツクアイ最も早く、ワシントン最も晩し、オニオンは最も早きは六月

本表に於て加州は氣候の關係より、農耕期間が如何に永いかを知ることが出来るであらう。

加州農業の特色

加州の農業は大農にも小農にも適する。近年盛んである米、綿、ポテト、葡萄、砂糖大根、麥、コーン等は大農に屬し、果樹、野菜、苺類は小農組織で、後者は手先きの器用な日本人農業者にも最も適し、勞働者としても到る所で歓迎される。斯く加州の農業は集約的に適し、またさうした方向に進みつゝある。

農業經營の方法

加州に於ける農業經營法は大別して四つとすることが出来る。即ち一は土地を所有し耕作するもの、二は現金借地によるもの、三は歩合耕作、四は耕作を請合ふもの之れである。

(一) 土地を所有し耕作するもの

これは自ら土地を所有し家屋、農具一切を具し、農業を經營するもので、農家として理想的のものである。

(二) 現金借地によるもの

此方法は他人の土地を、現金小作料を支拂ひ一定の期間耕作するもので、その期間は普通三年乃至五年であるが、時に一年或は二年であることがある。其期間は全く隨意である。而して其小作料の支拂ひは前金にて一時に支拂ふもの、或は二期三期四期に分納するものと二種がある。

(三) 歩合耕作

これは多くの場合地主が家屋、水其他農具の一部を提供し、收穫物を歩合で分配する方法で、地主に六分、耕作者に四分の場合があり、契約により其反對の場合がある。それは一つに契約條件による。

(四) 耕作を請合ふもの

これは單に勞力と技術を提供して耕作するのであつて、歩合の場合もあり、給料にボ

ーナスがつくものがある。此方法は農業者としては働きに毛の生えた位なもので興味なきものである。

加州の灌溉

加州の農業は天與の土地氣候に恵まれ、即ち偉大な自然力に恵まれて居るが、夏期に於て雨無き爲灌溉に負ふところ尠なくない。古きを釋ねるとこの方法は既に古代インデアンによつて多少行はれたが、スペイン領となり、宣教師の手によつて灌溉工事が施された事蹟がある。但し近代的灌溉設備を見たのは今よりも七、八十年前南加アナハイムの米獨植民地に於て起されたもので、順次に其區域を擴大し、一九〇〇年の統計に依つて見ると、人工の灌溉河溝の數は、千九百十三、延長五千六哩に達し、灌溉面積百廿四萬八千七百七十八英加に及んでゐる。而して一九〇五年には面積二百萬英加上り、正に加州農耕地の三分の一を潤ほすに至つた。灌溉設備の最も大なるものを摘記するとサンオーキン平原の諸川を利用せるもので、灌溉面積的百萬英加、サクラメント平原の八十九萬五千英加、其後に起こされたものとしては、サクラメント平原の中央運河(灌溉工事廿萬英加) ヨーロー郡の工事、(灌溉面積十萬英加) ビューテ郡給水工事(灌溉面積廿一萬英加)、南加方面の約廿一萬英加、帝國平原の四十五萬英加等であるが、爾來灌溉設備は漸次進んで、一九二八年には全加州の灌溉面積は五百萬英加に達し、目下起工中の加州中央平原水利工事が完成の曉は更に廣大な面積が加へられることになる。

加州の灌溉設備は、一九〇〇年より一九二八年までが最も長足の進歩をなしたと見られるが、其進歩の状態を數字に現すと左の如くである。

一九一〇年	二、六六四、一〇四英加	一九二五年	四、七〇〇、〇〇〇英加
一九二〇年	四、三一九、〇四〇英加	一九二八年	五、〇〇〇、〇〇〇英加

農業發達の統計

加州の農業は其發達経路からすると、一八九〇年以後である。故に左に一八九〇年以降一九二〇年に至る農業發達の比較表並びに一九二四年に至る加州主要農産物の作付反別比較表を掲げて其推移を明かにす

加州農園發達比較對照表

農園數	一九二〇	一九一〇	一九一九	一九〇九
農園面積(單位英加)	一一七、七六〇	八八、一九七	五二、八九四	二二、四二七、二九三
農園內作付面積(同)	二九、三六五、六六七	二七、九三一、四四四	一一、三八九、八九四	一一、二二二、八三九
一農園當平均面積(同)	一一、八七八、三三九	三一六	四〇五	四〇五
一農園當平均作付面積	二四九	一二九	一二九	一二九
全農園價格(單位千弗)	三、四三一、〇二一	一、六一四、六九四	三六、四九三	七七七、三八一
農耕機械器具價格(同)	一三六、〇六九	六六、六三二	三、四一七	一四、六八九
自家經營農園數	八七、五八〇	三、四一七	一八、一四八	
委任經營農園數	四、九四九			
小作農園數	二五、一四一			

加州主要農產物作付反別比較表

穀類	一九二四	一九二三	一九一九	一九〇九
苽類	三、九五九、一五〇	五、二四八、〇〇〇	五、八七六、〇〇〇	四、七七八、〇九二
野茶類	二一九、七七〇	二一三、九五〇	一六七、三四〇	五二、一五六
落葉果實類	五一九、八六二	四九八、七五八	三二六、四六六	二六二、八三六
柑類	二四三、〇一七	二三八、四九八	一五三、〇四二	八五、七五一
堅果類	一二七、二一一	一二二、六七〇	九三、八二一	五七、二四五
葡萄類	五二八、四一九	四四八、八三一	三四六、〇〇〇	二四〇、一六三
合計	五、五九七、四二九	六、七七〇、七〇七	六、九六二、六六九	五、四八六、二四三

(備考) 前表所載の作付反別は何れも實際上の收穫を見たる地域の面積を掲げたもので、作付地域中凶作等の關係上收穫する

に至らざりし面積を算入し居らず、故に右の比較表は同時に當該年度に於ける農作物状況の全般をも知るに足る。表中の穀類の部に於て一九二四年度の作付反別著しく減少したのは、同年甚しき旱魃の悪影響を受け、實際に收穫を見た地域の減少を示すものである。尙試みに一九二五年度に於ける果實栽培反別を見るに、其の果實園に於ける全栽培地面積は百九十萬九千四百四十四英加であるが、實際に結實して收穫し得らるべき地域は次表の如く百五十四萬九千餘英加となるが如き例である。

種	實の成りたる分	實の成らざる分	合計
落葉果實類	五五七、〇〇九	二四七、二八五	八〇四、二九四
柑類	二四七、四三四	一一二、七二八	二七〇、一六二
堅果類	一四二、九二八	六八、四四九	二一一、三七七
葡萄類	六〇一、九四三	七一、六六八	六七三、六一一
合計	一、五四九、三一四	四一〇、一三〇	一、九五九、四四四

(備考) 右の表に於て見る如く葡萄の栽培地反別は、實際に實の成りたる部分より見れば果實栽培の第一位を占めてゐるが、之に反し單に全般の栽培地面積より見れば落葉果實類第一位に在り。

一九二四年頃は作付地面積の増加、就中果樹園及葡萄園に於ける栽培地域の増加に伴ひ、收穫高漸増の一方であるが夫れより前十數年に於ける收穫高を示せば左の通りとなる。

年次	穀類	果實類	年次	穀類	果實類
一九二四	六、八九二、七〇〇	三、〇一九、二〇〇	一九二〇	八、二八二、五二六	二、六四四、五五〇
一九二三	八、三一六、五〇〇	三、六五三、五〇〇	一九一九	八、一三四、七四九	二、六五一、〇五〇
一九二二	八、一四七、一八六	二、九九七、五〇〇	一九〇九	六、四六一、〇七二	二、一〇八、三〇七
一九二一	八、二三一、九一六	二、一五三、三〇〇			

(備考) 前表に於て果實は一九二四年度分を除き逐年收穫増加の趨勢にあるも、穀類に就ては收穫高略々一定して居る。右表中には掲載せざるも米及棉花の收穫高著しく増加の傾向は特に注意すべである。

次に加州に於ける農産物の各個に付て見るに牧草の栽培は最も重要な地位を占め、一九二四年頃の年産額一億四百六十六萬弗に達し逐年増加した。次はオレンヂの栽培で年産額四千萬弗以上である。一九二四年頃ワイン葡萄栽培の急激なる増加を示したのは酒類醸造の盛に行はるゝ反映とも見られる。今左に最も重要な加州農産物十五種について一九二三年及び一九二四年に於ける收穫價格を示す。

主要農産物十五種收穫高

順位	種類	一九二三	一九二四
一	培養牧草	七三、七一〇、〇〇〇	一〇四、六五九、〇〇〇
二	オレンヂ	四九、〇〇〇、〇〇〇	四〇、三二〇、〇〇〇
三	大麦	二三、一四八、〇〇〇	一一、六九三、〇〇〇
四	ライズン	二〇、三〇〇、〇〇〇	一四、四〇〇、〇〇〇
五	豆	一八、七七六、〇〇〇	一一、七二一、〇〇〇
六	小麦	一七、四五〇、〇〇〇	二二、〇五〇、〇〇〇
七	ワイン葡萄	一七、一二〇、〇〇〇	一八、二四〇、〇〇〇
八	テーブル葡萄	一五、四七〇、〇〇〇	一五、二九〇、〇〇〇
九	ブルーモン	一三、〇〇〇、〇〇〇	一四、六四〇、〇〇〇
十	レモン	一〇、七七一、〇〇〇	八、九九一、〇〇〇
一一	胡桃	一〇、〇〇〇、〇〇〇	九、〇三〇、〇〇〇
一二	棉花	九、三四七、〇〇〇	一〇、〇八四、〇〇〇
一三	桃	九、一二〇、〇〇〇	一一、二〇〇、〇〇〇
一四	馬鈴薯	八、七三六、〇〇〇	八、七七八、〇〇〇
一五	糖菜	七、九三八、〇〇〇	七、八二六、〇〇〇

(備考) 右の收穫價格は原産地相場を示すもので、右相場は年に依り收穫數量の多寡に依りて變動を免れざるを以て、收穫價格の増額は必ずしも收穫高の増大を示さざること勿論であるが亦全般の趨勢を卜するに足るものと云はなければならぬ。

尙右と同様に一九〇九年以降に於ける加州農産物の原産地に於ける全收穫價格を大別すれば次の如くなる。

種別	一九〇九	一九一九	一九二三	一九二四
穀類	九五、七五七、〇〇〇	二九二、一四六、〇〇〇	二〇〇、〇〇九、〇〇〇	一九四、三三三、〇〇〇
落葉果實類	一八、九九三、〇〇〇	九九、九五八、〇〇〇	四八、六四五、〇〇〇	五五、五六二、〇〇〇
柑類	一五、九二九、〇〇〇	四九、七〇〇、〇〇〇	五九、七七一、〇〇〇	五四、九六〇、〇〇〇
堅果類	二、九四九、〇〇〇	一八、六四五、〇〇〇	一一、八六〇、〇〇〇	一一、七九〇、〇〇〇
葡萄類	一〇、八四七、〇〇〇	七三、三二五、〇〇〇	五二、八九〇、〇〇〇	五四、六九〇、〇〇〇
野菜類	六、四一四、〇〇〇	三三、四一一、〇〇〇	六二、六六八、〇〇〇	四八、九八六、〇〇〇
合計	一五〇、八八九、〇〇〇	五六七、一八五、〇〇〇	四三六、八四三、〇〇〇	四二〇、三二〇、〇〇〇

前表に於て見る如く一九二四年度に於て穀類は農産額全額の四割六分二厘を占め、果實類及葡萄園作は四割二分二厘、又野菜作は一割一分六厘に當つてゐる。尙一九〇九年及一九二四年に於ける農産物の全作付反別及全收穫價格の百分比率を大別表示せば左の如し。

種別	一九〇九	一九二四
穀類	作付反別割合 八割七分三厘	收穫價格割合 六割三分五厘
落葉果實類	四分八厘	一割二分六厘
柑類	一分六厘	一割六厘
堅果類	一分	二分
葡萄類	四分四厘	七分二厘
野菜類	九厘	四分一厘
合計	作付反別割合 一〇〇%	收穫價格割合 一〇〇%

帝國平原 六、〇一一 同 其他産 二、五二〇
 キヤンタルワス 一、五四八 キヤラツツ 四六六
 セルリ 三、七八二 キユカムバース 四七七
 帝原レタース 八、八六九 其他産レタース 七、六二四
 ビース織詰 二〇八 ビース食卓用 二、七九二
 合計 六千〇二十三萬三千弗

千九百廿七年度加州農産數量

穀類 其他(アはアツシエル)

植付區域 收穫
 コーン 七七、〇〇〇英町 二、六一三、〇〇〇同
 ホキート 八一、〇〇〇同 一三、六四二、〇〇〇同
 オート 一四七、〇〇〇同 四、一九〇、〇〇〇同
 パーレー 九九四、〇〇〇同 二七、三三五、〇〇〇同
 米 一六四、〇〇〇同 九、一〇四、〇〇〇同
 雜穀 九六、〇〇〇同 四、二二九、〇〇〇同

果實

植付區域 收穫
 林檎 五五、三二五英町 七、七四六、〇〇〇箱
 ベヤース 五八、一三八同 一八六、〇〇〇噸
 ビーチス 一五〇、八二二同 四九七、〇〇〇同
 杏 八〇、七二四同 一八七、〇〇〇同

スピニチ織詰 五三一 スピニチ食卓用 四九五
 織詰トメト 三、三二二 織詰トメト用 三、五九三
 帝原西瓜 四五六 西瓜其他産出 一、二八八
 アニオンズ 二、四二〇 其他の野菜 二、二四〇

ビーンズ 二七四、〇〇〇同 四、六六二、〇〇〇ブ
 ヘ 一、六二九、〇〇〇同 四、三二五、〇〇〇噸
 ポテト 五二、〇〇〇同 七、六九一、〇〇〇ブ
 薩摩 一二、〇〇〇同 一、三六二、〇〇〇ブ
 甘蔗 五五、〇〇〇同 四四六、〇〇〇噸
 ハツブス 五、五〇〇同 八、八五五、〇〇〇封度
 棉花 一二七、〇〇〇同 九〇、〇〇〇捆

ブルーンス 一六五、一九九同 二一一、〇〇〇同
 プラムス 三三、八二七同 五七、〇〇〇同
 チェリース 一二、五九三同 一二、〇〇〇同
 レイズン葡萄 三四九、六六〇同 一、三七三、〇〇〇同
 食卓葡萄 一四五、五八〇同 四八八、〇〇〇同

最近に於ける加州農業狀態

加州政府の統計に依ると、一九二六年度の加州農産額は、穀類其他(フィールド・クラブ)は一億五千八百二萬弗

果實は二億三千五百一萬四千弗、野菜六千廿三萬三千弗、合計四億五千三百廿六萬七千弗であつた。以下其内譯を示す。

内譯穀類其他

(單位千弗) (單位千弗)
 コーン 二、六六一 ホキート 一五、六二〇
 オート 二、四三四 パーレー 一八、七二二
 米 一〇、四六二 雜穀 二、五八〇
 ビーンズ 一七、二二〇 一六一、三〇三
 合計 一億五千八百〇二萬弗

野生ヘー 一、二三八 馬鈴薯 九、一三八
 甘藷 一、二八〇 甘蔗 三、〇二九
 ハツブス 一、八七一 棉花 八、七三九
 棉油 一、二一七

(單位千弗) (單位千弗)
 アップル 五、一七五 ベヤース 七、二四五
 ビーチス 二一、〇九九 エツプリカット 一、〇八八
 プルーンズ 一五、〇〇〇 プラムス 一、七七五
 チェリース 三、六〇〇 レイズンズ 二一、七六〇
 合計 二億三千五百〇一萬四千弗

レイズン生葡萄 四、五八〇 食卓葡萄 九、五七五
 酒葡萄 一八、三六〇 オレンジス 八七、三〇〇
 レモンズ 一四、四〇〇 フキツグス 一、〇七八
 オリ、ナス 七八四 アモンズ 四、七二五
 ウオルナツ 七、二〇〇

(單位千弗) (單位千弗)
 アスパラガス 一七、二九 アスパラガス織詰 三、五二〇
 アスパラガス生 四、七三三 ビーンズ織詰 二、五九
 食卓用 九四〇 キヤーパーチ 一、二〇一
 ビーンズ食卓用 一八五、五四三同 不作
 オレンヂ 一八五、五四三同 不作
 フキツグス 四五、一三二同 良作

レモン 四三、一七九同 不作
 オリ、ナス 二四、六七〇同 良作
 アモンズ 八七、〇七四同 一二、七〇〇噸
 ウオルナツ 七四、七二三同 四二、〇〇〇同

野菜

菜(一九二六年分)

植付區域 收穫
 アーテチヨク 一一、七六〇英町 一、二二六、〇〇〇噸

アスパラガス織詰 四八、三〇〇同

五三、一〇〇噸

現時に於ける加州の穀類、野菜、果物の耕作統計

レタス(其他地方) 三七、一〇〇同 五、五六五、〇〇同
 雑穀 二、六八〇同 三、二〇〇同
 食卓ビニチ 二、一五〇同 七、三三三、〇〇同
 雑穀スピニチ 七、三二五同 三二、八五四同
 食卓 二、二九〇同 九一六、〇〇〇同
 雑トメト 三二、二五〇同 二〇六、四〇〇同
 食卓 一七、四〇〇同 三、三二一、〇〇〇同
 西瓜(帝國平原) 六、〇〇〇同 四、五六〇同
 西瓜(其他地方) 六、八二〇同 三、〇〇八同
 バムダアニオン 二、八五〇同 九二一、〇〇〇同
 其他玉葱 六、二五〇同 一、七八一、〇〇〇同

(註) 前記の中アチテチヨクは四十封度。食卓用アスパラガスは廿四封度入クレイト。キヤベチは廿四封度入ハムパース。カリフラワーはボニー・クレツ。レタスは四打クレツ。食卓ビニチは三十六封度入ハムパース。スピニチは廿四封度クレツ。食卓トメトは卅六封度入ラツグ。貨は貨車。クはクレツ。ボクはボニークレツ。

種目	英加及收量		耕作面積と産額(一九三七年—一九三九年)		量(單位千)
	英加	收	英加	收	
同食卓	七、九八〇同	一、四五二、〇〇〇ク	一九三七	一九三九	呼稱
青ビシ	三、〇〇〇同	六四五、〇〇〇俵	一九三八	一九三九	呼稱
同雑穀	七〇〇同	三、二〇〇噸	一九三七	一九三九	呼稱
キヤベチ	六、四八〇同	四、二一〇同	一九三九	一九三九	呼稱
甜瓜(帝國平原)	三、三〇〇同	四、六六〇、〇〇〇ク	一九三七	一九三九	呼稱
甜瓜(其他地方)	八、三八〇同	一、五七五、〇〇〇同	一九三七	一九三九	呼稱
カリフラワー	一〇、五〇〇同	三、二二四、〇〇〇ボク	一九三七	一九三九	呼稱
キヤラ	一、九七五同	六〇三貨	一九三七	一九三九	呼稱
セロリ	八、五五〇同	一、八三五、〇〇〇ク	一九三七	一九三九	呼稱
甜瓜	三、五六〇同	一、二、三一二噸	一九三七	一九三九	呼稱
レタス(帝國平原)	二、八〇〇同	四、九〇〇、〇〇〇ク	一九三七	一九三九	呼稱
レタス(其他地方)	二、八〇〇同	二、八五〇同	一九三七	一九三九	呼稱
カリフラワー	一、〇〇〇同	七四九	一九三七	一九三九	呼稱
オ	八三二	六〇	一九三七	一九三九	呼稱
小	一一〇	七四九	一九三七	一九三九	呼稱
大	一、〇五〇	一一一	一九三七	一九三九	呼稱
米(穀)	一三二	一一二	一九三七	一九三九	呼稱

種目	英加及收量		耕作面積と産額(一九三七年—一九三九年)		量(單位千)
	英加	收	英加	收	
フラックスシート	四〇	三六	一九三七	一九三九	ブツシエル
グレソソハム	一四五	一四五	一九三七	一九三九	ブツシエル
豆	三八六	三三九	一九三七	一九三九	百封度入サツク
綿花	六二〇	三三一	一九三七	一九三九	ベール
カトシシズ	六八	七二	一九三七	一九三九	ブツシエル
ボテ	一一	一三	一九三七	一九三九	ブツシエル
甘藷	七	六・七	一九三七	一九三九	封度
ハツブス	一、四九九	一、五〇六	一九三七	一九三九	封度
テームヘ	一三四	一六二	一九三七	一九三九	封度
砂糖大根	六八八	七二八	一九三七	一九三九	封度
アルファルファ	六〇〇	六〇六	一九三七	一九三九	封度
グレナンヘ	一七〇	一八七	一九三七	一九三九	封度
ワイルドヘ	一六	一七	一九三七	一九三九	封度
アルファルファ種子	一六	二四	一九三七	一九三九	封度

甜瓜 帝國平原	二八	三二・五	五、一五二	三、五七九	クレーツ
甜瓜 其他ノ地方	一〇・一	一一・二	二、〇七一	二、三九七	クレーツ
人・參 秋作	八・八	八・六	二、八四〇	二、〇九八	クレーツ
人・參 春作	一二・四	一二・八	二、八四〇	三、一二四	クレーツ
カリフラワー 秋多作	六・五	六・四	二、一〇二	一、九〇五	クレーツ
カリフラワー 春作	八	七・六	二、五六〇	二、五六七	クレーツ
セロリー 秋多作	九・八	九	二、六八一	一、七二〇	クレーツ
セロリー 春作	三・四	二・九	一、三七七	一、八二四	クレーツ
セロリー 夏作	一・八	一・六	一、三七七	一、五二二	クレーツ
胡瓜 ビツクルス	二	一・四	一、一四四	八	クレーツ
胡瓜 食卓用	二	二	四二〇	五〇〇	クレーツ
ガリリツク	二・三	二・二	一五〇	一五四	クレーツ
レタス 帝國	二・八	二・一	二、八三四	四、二〇〇	クレーツ
レタス 春作	三・四	四・五・七	三、二四四	五、〇二七	クレーツ
レタス 夏作	一・六・三	一・六・七	二、三六四	二、六二二	クレーツ
レタス 秋作	二・六・八	二・八・三	四、一五四	四、二三八	クレーツ
アニオン バムダ	一・三	一・三	一八八	二六六	クレーツ
アニオン 中手	一・八	一・五	二六一	三九〇	クレーツ
アニオン 晩手	三・一	四・六	六二八	一、〇九九	クレーツ
ビー 罐詰用	三・七	二・五	二七七	二・七五	クレーツ
ビー 春作 帝國	四・五	五・八	四二七	六六七	クレーツ
ビー 春作 他地方	二・六・四	三・三	一、七一三	二、八〇五	クレーツ
ビー 秋作	一・一	七・七	一、〇四五	一、〇〇一	クレーツ
ビー 秋作 帝國	四・二	二・五	一〇五	一五〇	クレーツ
ベパー ベル	二	二・五	五四六	六三六	クレーツ

ベパー 乾燥用	三・六	三・八	二	三・六	噸
ベパー 罐詰用	三・三	二・九	一・二	九六	噸
スビニチ 食卓	一・四	一・二五	四・六	四・三八	噸
スビニチ 罐詰	九・四	七・九	一、五二六	一、九五〇	噸
草 南加	一・八	二・一	三二〇	二・八	噸
草 北加	三・二	三・三	五一七	三二八	噸
トメト 罐詰用	四・六・五	五・四	二八三	五四四	噸
トメト 帝國	三	三・五	八四〇	三二九	噸
トメト 夏作	八・九	九・五	二、四九二	七〇〇	噸
トメト 北加	五・九	六	一、五〇四	二、九一一	噸
トメト 南加	一〇	七・三	二、五五〇	一、三三四	噸
西瓜 帝國	七	六	三、二九〇	一、五三三	噸
西瓜 其他地方	一〇	九・八	七、二九三	三、五七〇	噸
其他の野菜	二・九	三〇	一三〇	七、六三四	噸

種年	産額及價格	産	額(單位千)	呼稱	價	格(單位千圓)
アイモンド	一九三五 九・三	一九三六 七・六	一九三七 二〇	噸	一九三五 三、六〇四	一九三六 三、〇五五
アツプル	一九三五 五、一六三	一九三六 四、八八七	一九三七 五、五三九	アツシエ	一九三五 二、四七八	一九三六 二、五九〇
エツアリカト	一九三五 二・六	一九三六 三・八	一九三七 三・一	噸	一九三五 九、〇三〇	一九三六 九、三三二
アツオカド	一九三五 五・三	一九三六 六・二	一九三七 五・三	噸	一九三五 八、九三三	一九三六 一、五〇七
チエリ	一九三五 一・五	一九三六 二・三	一九三七 二・六	噸	一九三五 一、八七五	一九三六 二、三三六
フェイス食卓用	一九三五 一〇・三	一九三六 二・二	一九三七 三・〇	噸	一九三五 五、七六	一九三六 三、三六
フェイス乾燥用	一九三五 二・四	一九三六 三〇	一九三七 二・八・七	噸	一九三五 一、〇三三	一九三六 一、五〇〇

葡萄酒	五七二	四七三	六三二	六四一	五八八	同	六、七九	六、七九	八、二六	一三、二五一	八、〇七七
葡萄酒用	三七五	三四	四一六	四一七	三七〇	同	五、三五〇	八、二二三	九、〇六九	七、九五七	五、五八七
葡萄酒用ニシ	四三六	一九〇	四一九	二八三	二四七	同	五、〇五八	三、六八六	八、八八三	四、二四五	四〇、六六
葡萄酒用	二〇三	一八二	二四七	二九〇	三三三	同	二、三三七	二、六六六	五、四八七	三、一八〇	三、三三八
葡萄酒用	七、七九	一、三〇	九、三六〇	一、七四四	一、八〇〇	同	二、一六六	一、三九	一、二〇	八三八	八二〇
葡萄酒用	一四、四六九	一三、三三四	一六、六八〇	一七、九〇七	一五、一八〇	同	一八、五七六	三、三六七	三、七四六	一三、一〇五	三、二九六
葡萄酒用	一八、三四〇	一六、五九三	一九、三三四	二二、三四五	二二、六八〇	同	二四、一七三	三三、五〇一	三三、三三七	二二、四四四	二七、四六九
葡萄酒用	三三	二七	三六	四四	三三	同	一、五九四	一、六八五	一、九三八	一、九二九	一、六七〇
葡萄酒用	二八八	三三七	三七〇	三三三	三六五	噸	七、七四七	九、一三三	一四、〇九七	二、一八八	七、二九八
葡萄酒用	一四一	一七五	一八八	一七九	二〇四	噸	三、七九	四、七三二	四、七〇〇	三、四〇一	四、三六六
葡萄酒用	一四六	二四	二〇二	二三四	二二五	噸	四、〇八八	五、七二四	五、三六六	五、〇三九	五、九六四
葡萄酒用	一七	三六	三三	四八	三三	噸	四、九	七〇三	五、六	四、九七	一、五〇
葡萄酒用	四八	六四	六六	六三	六九	噸	一、七六六	一、九二七	二、七六	一、七八五	一、九三
葡萄酒用	二八	一五九	二四九	二八八	一八四	噸	一四、九六四	二、七〇	一三、四四六	九、四〇八	二、六九六
葡萄酒用	五三	四三	五八	四五・三	五三	噸	一〇、五〇	九、〇七	一〇、四〇〇	一〇、五七	九、一六九

加州農業發達の経路

加州農業の概観は簡單ながら前節に述べ盡したと信するが故に、以下、加州が如何に今日の如く農業上發達を來したかの経過に就て述べるであらう。史によると加州と云ふものが米國に知られ、世界に知られたのは、一八四八年米墨戰爭の後であつて、該戰爭の講和條約議定の十日前、ジェームス・マアシャルがサクラメントの城主サター將軍を訪問の途次、偶然アメリカン河のほとりに於て金鑛を發見した。此報が忽ち四方に飛び各國から一攫千金を夢みる人々が雲霞の如く加州に押寄せ、其翌一八四九年には既に八萬以上の移住者があつたと云はれる。當時加州の農業は

微々たるもので、これら移住者を養ふことが出來ず、食料は他州又は他國から輸入したものであると言はれ、後に加州の詩人としてその詩才を讃へられたオーキン・ミラーの如きも當時金鑛地に荷車の馭者として働いたと傳へられる。また物價の高かつたことアップルが一個二弗五十仙であつたと云はれるを見ても一端を窺ひ得る。

斯くの如き農産物の異常な高價は必然的に農業界の發展を刺激し、其翌一八五〇年頃より逐次に農業が開始せられた。約十年を経て小麦の耕作が始まり、土地の肥沃はその收量の饒多をもたらし州内に供給して尙且つ剩餘を生じ、貨物船を備入れて歐洲諸國へ輸出を開始するに至り、一八九六年を以て輸出の絶頂に達した。

一八七〇年頃より麥耕作の他に羊の飼育が盛んとなり、多くの羊毛を生産することになつたが、一八七六年には大陸横斷鐵道が開設せられ、小麦、羊毛以外に有利な農産物の栽培が行はれることとなつた。一面に於ては加州の土地豊饒なるを聞いて東部諸州よりの移住者多く、且つ多額な投資も行はれ、茲に於て亂雑な粗放農業は面目を一新し、集約的専門の農業が行はれるに至つた。

是より果樹農園時代が現出されたのであるが、當時既に大陸横斷鐵道は完成し、鐵道敷設に使はれた支那人勞働者は加州各地に散在し開拓の事業に携はつた。先づソノマ、ソラノ、サクラメント、フレズノ、ブラサー、ビユーテ、コルサ、テハマ等の諸郡が、盛んに果樹を栽培するに至つた。當時支那人勞働者数は九萬人と稱せられたが、現在等は諸郡には必ず支那人街があり、往年血氣の壯者であつた彼等も今は年老ひて二世、三世の代となつてゐる。一八七〇年以降は移住者の數が逐次に増加し、土地需要が旺んとなり、従つて大耕地は漸次分割されるに至つた。而して灌漑工事の進展と共に農業組織は整頓し、大陸鐵道の運輸方法の改良は果物の販路擴大を促し、生産組合販賣組合等も生れ、一八九〇年頃には既に加州は果實王國の形を造つた。而して日本人の果樹園に初めて入つたのは一八八八年の春と云はれてゐる。

一八八〇年より一九〇〇年に至る加州農業の進歩は實に著しきもので、政府に於ても大に農産物の品種品質の改良及び耕作方法等に就いて助長政策を執り、農業の發達を促したることにより、穀物にしても果物野菜にしてもその品種を増し、農業州加州の風貌を具へるに至つた。其時代日本人は鐵道、炭山、砂糖大根、果物摘採等の労働に従事し、獨立の農業を営むものは極めて尠なかつたが、労働者として支那人労働者の缺乏を補ひ順次にその技術を認められるやうになつた。

一九〇〇年頃より牧草アルファルファの耕作が追々盛んとなつた。是れに伴つて畜産業が隆盛を來し、殊にデージー事業の發達は牛乳諸製造機關の設立を促進し、一般農業の發達と相呼應し益々盛大ならんとしてゐる。此時代に於ける日本人は從來の浮草的労働者の地位より、一躍して收穫分配、及び現金借地の方法によつて果物、野菜園經營に進出するもの漸く多く、その持つ技能を逐次に發揮するに至つた。

一方に於て獨立的農業に進出すると共に土地所有熱が相當昂まり北加中加に於ては土地を購入する者が増加した。一九〇二年時の領事土野季三郎の調査に依ると、日本人にして土地を所有するものは宅地を合せて九百〇七英加であつた。而してその大部分は葡萄園、莓園で野菜園の所有者はなほ未だ皆無であつた。

一九一〇年より二〇年に至つて、加州の農業は全く圓熟の域に達し、種類に於ても數量に於ても農業州加州の面目躍如たるものを示すに至り、之と同時に各地に産業組合の設立を見、農業の根柢を愈々固からしめた。併しながらその經營方法に於ては肥沃の廣野が殆んど無限に開かれ、土地を得るに比較的自由なところより、自然投機的な農に走り、時に生産過剩を招來する弊があつた。例へば葡萄の如きは當時その耕作面積七十萬英加に上り、生産過剩の處分に當事者は頭を悩ました。斯かる折から歐洲大戰の勃發となり、從來の農業過剩品は忽ち消費される結果となり、更に生産獎勵が行はれた。即ち生産物は片端より需要に追はれ、一九一七、八年頃は如何なる物品も販路の非ざるはな

く、當時穀一封度が實に七、八仙に奔騰した。他は推して知るべしで、日本人間に一躍二十萬、五十萬、七十五萬弗と云つた米成金が出来たのは此時代である。

歐洲大戰勃發以來好況に煽られた加州農業は、大戰の熄むと共にその反動的な不況に直面せねばならなかつた。戰爭に疲れた歐洲諸國は急激に購買力を失ひ、その爲め米國において殆ど無制限に擴大した農業施設は如何ともし難き状況に達した。斯くて農業黄金時代は去つて加州の農界も沈滞を極め、農家は以前の健實農業に立ち還らざるを得なくなつた。

回顧すれば一八四九年に、一千萬弗以上の食料品を州外より輸入した加州が、總て生産の増加著るしく一八五〇年以降州内の需要を満たし、尙且つ殘餘を輸出するに至り、一九一九年度に於ては實に總額七億五千萬弗を示す輸出州となつた。而して在留日本人は同年代に於て加州全輸出の約十分の一を生産してゐる。當時人口三百萬人の加州人中、その廿分の一にも足らざる日本人が斯くの如き大生産をなしたことは、畢竟するに日本人の勤勉にしてその技術の他人種に勝れたる證左とすべきである。爾來嚴峻なる排日土地法と社會的壓迫あるに拘らず、日本人の耕作する農園は常に青く、その生産物はまた常に他人種のを凌いで優良であつた。人爲による排日法、或ひは不法壓迫も結局に於て加州の耕地より邦人を分離し得ないことは、邦人の持つ卓越手腕と實力の大を明示するものに他ならない。

日本人農業發展の経路

農園労働時代

日本人が米國に足跡を印したのは、既に述べた如く半世紀の昔に屬するが、初めは學生或は祖國に於て志を得ざりし政治家などが渡米したに過ぎず、所謂産業移民としての邦人の渡航は明治卅三年頃即ちハワイ移民が米大陸へ轉航し來つた時代より始まる。當時米國に於てはクリヴランド大統領時代が終り、共和黨のマッキ

ンリー大統領が就職し産業保護政策を執つたことにより、諸産業の勃興を促したが、一八八二年（明治十五年）に實施せられた支那人排斥法が効を奏し、新たに渡航する支那人なく、既に米國に在留せるものは歸國し又は死亡して漸次其數を減ずるに至つた。一方に於て從來支那人によつて耕作された果物、野菜は、右の事情によつて労働者の激減を來たし、これを白人労働者に需めんには彼等は概ね農業労働を好まず、都市に走るの傾向を帯び、然も彼等は天資粗剛で果物野菜の如き細心緻密を要するもの、耕作者に適せず、茲に於て加州の農業は支那人に代るべき労働者の急需を告ぐることになつた。この時に當つて日本人は其缺を補ふことに於て最も適當であり、一面加州農産界に取つても頗る好都合であつた。

加州の主要農産たる果物は、その栽培より摘採に至るまで、手工的技術と熟練を要し、且つ生産品其ものが腐敗し易きものなるが故に、凡て敏捷な取扱ひを要する。此點に於ても日本人は支那人に勝り到る所に歓迎され、支那労働者に取つて代ることが出來た。斯くて果物園労働を手中に收むるや、次いで野菜園に手を染むることとなつたがこれも同一理由により容易に斯界に手腕を發揮するに至つた。一旦日本人労働者を使用した米人地主は、邦人の勤勉にして義理堅く、耕作に當つて進歩を圖つて止まぬところから競ふて日本人を使用し、小作人たらしむることに努めた。斯くて我同胞の農業第一期時代は過ぎた。

歩合耕作時代

第一期時代に於て加州の土地に親み、耕作上技術と熟練を得た在米邦人は、労働によつて多少の資金蓄積を見たので、地主仲買人の信用を利用して歩合耕作方法に進んだ。これは既に概論に於て述べた如く、耕作だけを爲し、作物の分配を爲す方式で損益の幅が狭いだけに頗る安全な方法である。而し地主としては邦人が栽培技術に優れて居るところより自然收穫の分配が多き結果となり、地主自らの耕作より結局に於て好成绩となるので舉つて同胞農業者を歓迎した。

現金借地時代

同胞の獨立農業が圓熟し來ると共に、資力も加はるに至つたので、愈々本格的獨立農、現金借地に進み日本人農業は愈々本格化し來つた。當時の實情から見ると彼上の耕作方法は邦人側に於て相當の資金を要するも、夙に農園に於て優秀の信用を有する邦人に對しては地主側に於ても多くの便宜を提供した。即ち耕地を邦人に貸與することは、その耕地を益々肥沃良園化する所以であるを知つて、現金借地ながらも幾多の便宜を與へ、また仲買人は日本人に厚意を示し置くことによつて、收穫期に於て優良の生産品を入手し得る結果となり、自己の營業上に有利となるところより舉つて便宜を與へた。故に日本人は比較的少額の資金を以て大事業をなし遂げ得たのである。

土地所有時代

農業習得時代より歩合耕作、現金借地の時代を経た在加州邦人は、農業として理想的とも云ふべき土地所有時代に到達した。加州に於て土地を所有することは極めて容易であつて、初め四分の一乃至十分の一の地代を拂込み、殘額は八年或は十年に年賦として拂へばよい。而かも其拂込み金は年々の收穫物より支拂ふので、恰も現金借地の如き方法によつて所定の期間内には完全に自己の所有地となるのである。斯くて明治卅五、六年頃より土地購入者が續々出で、一九〇九年（明治四十二年）には既に加州に於て二萬英加の土地が日本人の手に歸した。併し一九一三年に排日土地法が制定され、また一九二〇年には加州一般投票によつて日本人は歩合耕作、借地契約ともに禁止されるに至つた。（第四篇排日史参照）。而もこの徹底的排日の原因の一つには在米邦人の農業ほか各業に於ける伸展を目撃して米人間に一種の危機の生じたことによることも事實である。また在米邦人今日の幾十年を経來つた結果であり、現在の基礎を築くに至つた裏面には纏綿たる哀傷の幾多事實が存する。左にその一例を引いて此間の事情を窺ふ一助とする。

一九〇六年頃、邦人農業の發展途上にあつた當時日本より、米國漫遊の一旅客が、東行の途、車窓より見るに一農園の木蔭に幼児を入れた箱が置かれてあり、附近に粗衣を纏つた邦人夫妻が農耕に従事しつゝあるを目撃した。旅行者は東行後「排日は日本

人自身が作りつゝあり、排日をなすものを咎むには當らない」と言つた。當時在留邦人は排日家に素材を提供せざらんことに努め、日本人會の如きも特にこれに注意しつゝあつたが、右述の幼児放任の如きも止むなき事情の存在した故であつた。即ち夫妻のみの家庭は幼児をも農園に伴ひ來る他はなかつたのである。斯ることは邦人農家の過去にあつては隨所にあつた事實であり、同時にこの苦闘を経たが故に今日の邦人農業の基礎は成つたのである。

加州各地の邦人農業發展経路

概説

日本人が如何なる経路または如何なる段階を経て加州農業界に不拔の地盤を贏ち得たかは既に述べたが、以下少しく右を敷衍、これを地域的に検討し、どの方面から發展の手が伸ばされたか、左にその主要地域の状態に就て述べることにする。

而して先づ日本人が農園に足跡を印した最古の地の一つとした知られるバカヴィル地方の状態より述べるであらう。ソラノ郡バカヴィルは一八六五年西班牙人ヴァーカなる者が初めてこの地に移住し、家畜業を營んだ。此地の名は右のヴァーカより轉じてバカビルと稱するに至つたものである。其後四、五年後ロビンソン一行が移住し來つたが、之が即ち同地の先驅開拓者である。當時同地一帯は未だ公有地であつて、一英加につき七十五仙の登記料を納め加州政府の登記を受けることによつて土地を所有することが出來た。

ロビンソン等はバカビル地方は土質並に氣候の關係より必ず果物栽培に適するものと豫定し、先づ桃・杏の栽培を試みた。果して豫想通りの成績を擧げたので、其後白人及び支那人の移住するもの多く、遂に果物生産地として今日の盛況を呈するに至つた。

同地方邦人の發達

バカヴィルに於ける日本人發展の端緒はウッドランドに於て農業に失敗したアモア及びゴードマンの二人は一八八七年(明治廿年)バカヴィルに來り、新たに土地を購入し高知縣人傍待米太郎、梁石元照及

び岩代登弘等と共同にて蜜柑の試作を企てたに初まる。二年後の一八八九年の夏には果物摘採の爲め約六十名の日本人労働者が同地に集つた。之れ日本人が農業労働者として稍々存在を認められた最初であるが、當時の給料は一日一弗で冬期は九十仙位であつた。而して翌一八九〇年夏には一躍三百人に増加し、其後年々その數を加へ一八九六年の夏には九百人乃至一千名に達し、冬期閑散の時に尙三百名を下らず、從つて順次定住するものも多くなつて來た。

借地耕作始まる

一八九三年(明治廿六年)高知縣人竹崎犀吉、和歌山縣人小畑千代楠、同寺浦松楠の三名共同してイー・イー・ケレーなる者の所有園(杏・桃)五十二英加を現金二千八百弗にて借地した、これが同地方に於ける日本人借地耕作の嚆矢である。翌一八九四年和歌山縣人皆部梅太郎、同小畑千代楠の二名は再び同一果樹園を現金借地したが、不幸にして同年は大陸横斷鐵道工夫の大同盟罷業に際會し、果物を東部市場へ輸送することが出來ず、全く失敗に終つた。夫れがため一時日本人借地耕作の發達に一頓挫を來すに至つた。

日本人排斥運動起る

一八九四年の大陸横斷鐵道同盟罷業者は其期間の永きに連れ飢餓に瀕し、續々加州に流入しこれが爲めバカヴィル地方の良民は甚だ苦んだ。故に同地方並びにウインターズ地方の民兵は武装して其暴行を未然に防がんとし、兩者の間に險惡な情勢を醸したが、暴行團は同地方に於ける日本人の農業を嫉視し、屢々キャンブを襲撃し人心恟々たるものがあつた。併し幾干もなくして罷業の鎮定するに及んで、格別大事を惹き起すに至らなかつた。越えて一八九七年に至り、四圍の情勢より再び借地耕作を開始するに至り、和歌山縣人本田貞吉、外四名はダビソンなる者の果樹園百七十英加を(桃三十、チェリ七、トメト五、葡萄五、杏三十、ブラム十八英加)を現金三千四百弗にて借地耕作した。同年は成績頗る良好であつたので、日本人の借地耕作は再興の勢ひを示し、年々増加の一途を辿つた。

當時の小作法の特異性

日本人が小作を始めた當時は現金借地には相違ないが、極めて寛大なもので、契約と

同時に四分の一乃至五分の一の小作料を支拂ひ、農具修繕費及農具は地主の負擔に歸し、小作人は僅少の資金で着手することを得、且つ相當に仕事が進んだ後は、地主より自己の食料、雇人の給料を一時借入れることも出来た。以て如何に日本人が地主に信用を受けて居つたかと思はれる。斯くして邦人農家は土地を大切に、作物を愛し、優良なものを生産するに成功し、順次耕作面積を擴大することに邁進した。

左に一九〇〇年より一九〇六年に至る同地方日本人の耕作面積及び労働者数を表に依て示す。

一九〇〇年より一九〇六年に至る日本人耕作面積並に労働者数 (單位エーカー)

年 代	櫻 桃	葡萄	アップル	梨子	プラム	野菜	枯草	無花果	合 計	日本人小作 地就働者数	白人耕作地 就働者数
一九〇〇年	七	八〇	二〇	五〇	一〇	九五	三〇	五八	〇	三五〇	四五名
一九〇一年	一七	一一五	三五	二二	五	一五二	五〇	〇	三	五七八	一一三名
一九〇二年	三〇	二四五	四五	二四七	一八	四三八	八一	〇	五	一、二一四	二五二
一九〇三年	三五	三一九	一〇六	四三七	二五	五四六	九五	〇	六	一、五六九	二九二
一九〇四年	四二	四三五	一三六	五八七	五二	七二二	九五	〇	七	二、〇七六	一七五
一九〇五年	四二	五六七	一八四	六六一	七五	七〇三	一〇一	〇	九	二、三四二	三五一
一九〇六年	七二	五九七	一八七	七四三	九八	七一一	一三一	〇	九	二、五三八	—

ワツソンビル及サリナス地方の農業と日本人發展状態

砂糖大根と日本人 一八八八年(明治廿一年)スプレックル砂糖會社は、ワツソンビルに製造會社を起し、バハロ・バレーに砂糖大根栽培を奨励した。これが爲め同平原に砂糖大根耕作が勃興し、同會社は四年後に製造能力を六百五十噸に増し、漸次年と共に其能力を增大した。

一八九三年五月大阪府人木村作三が同地方に入り、農業の請負をなして多くの同胞がその下に就働したが、これが

同胞の砂糖大根畑に就働した最初のものであつた。當時サリナス平原の砂糖大根耕作面積は僅かに五十英加内外であつた。

一八九六年野田音三郎、高尾庄太郎及び尾上善八等がサクラメントよりサリナス平原に移り、砂糖耕作請負をなしたが、これが日本人が砂糖大根耕作に手を染めた初めてのことで、後ちボルトガル人、支那人の手より本産業を邦人の手に握るに至つた端緒である。當時耕作英加数は約六百英加上り、日本の耕作従事人員百三十名と云はれてゐる。其年馬場小三郎はヘブロン所有地二百五十英加上に砂糖大根を栽培したが、當時の契約価格は一噸につき一弗廿五仙であつたことである。

サリナスのスプレックル砂糖會社は、前年の不作に鑑み、大に灌漑の方法を講じ、耕作改善を試みたが、其結果未曾有の豊作を現示し、日本人耕作者の利益を収めた。これは一九〇一年(明治卅四年)のことであるが、其年の契約価格は一噸に一弗乃至一弗五十仙であつた。

事業發達と推移 一九〇二年(明治卅五年)は前年に引續き豊作であり、相當の利益を収めたので、耕作請負業者間に競争が起り、互に低廉な賃金で契約をなしたので、利益は得られなかつた。翌一九〇三年は砂糖大根耕作者は結束してスプレックル會社と交渉を開始し、大根受渡し値段の昂騰を計つたが、交渉不調に終り、爲めに一同申合せて耕作を廢した。

然るに隣村サリナスは平調に事業を續けて着々と成績を挙げ、一九〇四年度の同地並びにキャストロビル地方を含めた同胞の借地による砂糖大根耕作面積は八百三十五英加上に及んだ。然るに前記ワツソンビルは僅かに百五十英加の耕作を見たのみであつた。併し其翌一九〇五年には再び耕作を始むるものが續出して來た。

薄荷作と日本人關係

今日ワツソンビルは草莓ストロー・ベリーの名産地となつてゐるが、其歴史を繰ねると

一八七七年（明治十年）ゼームス・ウオタースなる人物が、東部より苺苗を携へ來つて同地に栽培を試みた。これがワツソビルに於ける苺の始祖であつて、一八八〇年に初めて桑港の野菜市場へ苺を出荷した。その時得たる苺の代金は一箱につき廿弗、最低十一弗と云ふ額であつた。當時同地方の苺園は僅かに十四英加であつたが、本業の利益あることが判つたので年と共に増加し、一八九三年頃には二百七十二英加に上つた。日本人の苺に手を染めたのは同年頃であつたが、多く従事するようになったのは一八九五年頃である。邦人のストロー・ベリー耕作者の増加とともに灌漑方法が改良され、其持つ技能と相俟つて苺生産量は約倍加するに至つた。正に同地方苺産業に一新紀元を作つたものと云へる。

苺折半小作始まる 一八九五年岡山縣人西村仙右衛門外數名は、共同してハフキンスの所有土地廿二英加に收穫折半の契約で苺を植へた。これ折半耕作小作法の嚆矢である。併し其二年間は市況面白からず、遂に一八九八年に小作を廢して時期の來るを待つことになつた。

左に明治廿年（一八九二年）以降同地苺産業の盛衰を表に依て示す。

一八九二年（明治二十五年）	二七二英加	ストロベリー	ラズベリー
一八九五年（同二十八年）	五二二同	一〇〇エーカー	
一九〇一年（同三十四年）	七〇〇同	同	
一九〇二年（同三十五年）	八四〇同	同	
一九〇三年（同三十六年）	八〇〇同	同	
一九〇四年（同三十七年）	六七〇同		
一九〇五年（同三十八年）	七〇〇同		五〇〇（他種類）

サンノゼ地方の農業と日本人關係

サンノゼ（佐市）は桑港に接近し氣候も地味も良いので、加州の中でも早くから開拓を見た所であるが、日本人労働者の入つたのも早かつた。一八九〇年（明治廿三年）の冬兵庫縣人大石徳太郎は、日本よりクリスマス贈答品を輸入し、行商してサンノゼに至り、同市第五街サンノゼ果物雜物會社のデキソンと契約、湯淺銀之助、林憲三、木村久太郎、岡周逸等都合十六名を同會社に働かしめた。尤も其前年より少數の日本人は働いて居つた。

日本人借地の嚆矢 大石の來る一年前塚本松之助、佐藤九藏、及岡田皆吉の三名が共同して市外に少許の土地を借り受けて植木園を開いたが、これが日本人土地借地の嚆矢である。其翌年前記大石徳太郎はこれを譲受けて爾後水く經營した。如上の経緯から同地に日本人労働者が逐次増加し、その翌一八九一年には約百名に達し、廿四年には二百名、一八九二年には三百名同九三年には五百名に上つた。當時同地方の有名な果物耕作者ヒュームは、一八九三年に初めて日本人労働者を使用した。その優秀なるを見て他にも邦人を雇傭するものが出來、一八九四年には日本人労働者數は一躍一千名に達した。爾來年と共に數を増し一八九五年には其數二千三百人となり、先住の支那人労働者の地位を奪つて、同地農園労働界を風靡した形ちであつた。

果物耕作と日本人 一九〇〇年大石徳太郎はサンノゼ附近のベリアサに於て八十五英加の果物園を三千弗の現金を以て借地した。これ日本人の果物園借地經營の嚆矢とする。而して其年の業績は生果として市場へ出したのは好結果を収めたが、その大部分が乾燥用ブルーンであつた爲め、其年創立されし加州ブルーン耕作者組合失敗の飛沫を受け悲境に陥るを餘儀なくされた。其翌一九〇一年には大石卓藏、山本幾太郎、永井某の三名は共同してライツ村に於てブルーン、葡萄、アップル園廿五英加を折半契約にて經營したが、これも遂に好成績を擧げ得ずして事業を停止

するに至つた。

苺耕作と日本人 アルビソは地味氣候の關係より、苺耕作に適してゐることは夙に知られて居つたが、一八九二年に大石誠造が初めて此地に十英加の苺園を折半の契約にて耕作を開始した。爾來年々増加して、一九〇六年には三百九十五英加となつた。本業の経過を見るに、十四年の期間内には相當事業の消長があつた。例へば一九〇三―四年の如きは耕作英加數の増加に伴れて生産過剩を來たし、消化の思はしからざるところより耕作者は相當苦境に陥つた。だが耕作者中には妻帯者が比較的多かつたので轉業するもの少なく、時機の再來を待つて順次事業の根底を固め、卅八、九年と好況に巡り合ひ成功を見るに至つた。

野菜耕作と日本人 一九〇一年和歌山縣人森田助二郎外四名が四十英加の土地を現金六百五十弗で借地し、これにトメト、アニオンを耕作した。これがサンノゼ地方に於ける日本人が借地による野菜耕作を試みた最初である。而して同年和歌山縣人清水某外二名が均しく四十英加を折半契約でトメトを栽培したが、これが折半契約による野菜耕作の初めである。日本人は野菜を耕作するには特技を持ち、他人種の及ぶところでないが、その勤勉力行によつて更に成績を揚げるに至つた。併しこれにも素より消長があつた。左に表を以て其間の推移を示す。

	一九〇二年	一九〇三年	一九〇四年	一九〇五年
現金借地面積	七一	七一	七一	七一
折半耕地面積	八〇	二二〇	四五〇	二四三
合計	一五五	四三〇	八八五	四八九

種物耕作と日本人 加州初期に於ける種物採取地として有名であつたのはサンノゼ地方とサクラメント及びサクラメント河下地方であつた。日本人がサンノゼ地方に於て種物耕作に手を染めたのは一九〇〇年であつて、同年サ

ニペールのモース農園に廿五名の日本人が入つて労働した。同農園は六百英加の大農園で、當時支那人労働者の就働するもの八十名に及んだ。其翌年には日本人就働者激増し他二個農園を合せ百五十名となつた。一九〇二年には更に三百名の多きに及んだ。而して一九〇三年には大石徳太郎、船引三一ほか二名は前記モース農園六百英加を請負つて耕作をなし、而も良好の成績を挙げたので大に地主の信用を増し、其翌一九〇四年には同地方耕作面積二千八百英加のうち日本人の請負耕作は九百十餘英加に及んだ。斯くして支那人は日本人労働者のために、順次その労働範圍を縮少せしめられた形ちとなつた。

當時請負は如何なる方法に依つたか、其請負値段その他は以下の如きものであつた。即ちその方法は砂糖大根請負と大同小異で、地主に於て土地種子を提供し、又農具一切も地主これを提供し、請負者は植付け、草取り其他收穫に至る凡ての労働を提供、収入はアニオン（葱）は收穫種子一封度に付七仙五厘乃至八仙、スキートビーは二仙半乃至四仙、レタス十仙、最初は更に値段が良かったが、後ち右の通りの値段となり、請負者としては利益を得ることも容易でなかつた。併し後に我種物耕作者の發展が茲に胚胎したことを思はねばならぬ。

アラメダ郡の農業と日本人

アラメダ郡に於ける日本人農業關係は、野菜果物と云つた普通農業よりも寧ろ花園業を以て始められた。即ち一八八七年の春長野縣人吉池寛、和歌山縣人堂本兼太郎の兩人により創業せられたものであるが、吉池寛は四年三月オー克蘭市第廿二街にてリンデン街とチエスナット街の間なる空地半英加を借り植木、石竹、菊等を栽培した。其成績が良好であつたので、五年後の一八九二年五月オー克蘭市第十六街停車場附近に一英加餘を借地し、これに移轉、盛んにカーネーション栽培を試みた。また堂本兼太郎は等しく一八八七年五月オー克蘭市キヤストル街にて

第三街近くに一英加を借地し、矢張り植木、石竹、菊を栽培したが、成績頗る良好であつたので事業擴張の必要に迫られ、オークランド市の東方メルローズに四英加の土地を購入し、同所に移轉すると共に大に事業の發達を圖つた。これが日本人が花園業として土地を購入した嚆矢である。

日本人が普通農業に關係したのは一八九七年であつたが、由來同郡の農産物は主として砂糖大根、胡瓜、トマト、グリーンピース、葱、アスパラガス等にして、果物としてはアップリカ、ブルーム等を擧げ得る。一八九七年島井芳太郎、引土楠太郎の兩人はブレザントンに於て初めて砂糖大根の請負耕作をなし、其翌年フレッド植松なる人がアルバラド附近に於て等しく請負耕作をなし、更に翌一九〇〇年には安孫子久太郎、馬場小三郎、山口彌太郎の三名共同して請負耕作をなしたが大した成功を勝ち得なかつた。然し順次経験を積むと共に利益を得るようになり、一九〇四年には多くの請負耕作者が現はれ、爲めに競争低廉の請負ひをなすもの續出、多くの利益を収むるに至らなかつた。元來アラメダ郡は大都市桑港を近くに控へ、加ふるに地味氣候が良いので地價も高く従つて借地料も高かつた。其上先住ポルトガル人が早くより根を張つて居り、日本人として此方向の發展は至難であつた。

胡瓜及トマト耕作 此兩種は地味に適し頗る立派な出來榮えであり、當時耕作面積は既に五千英加に及んでゐた。日本人の本業に携はつたのは一八九九年岡山縣人片岡國太郎がマウントエデンに於て胡瓜五英加、トマト八十英加の歩合耕作を始めたのが先驅で、これと相前後してサンレアンドロ、サンロレンゾ、ヘイワード、デコート、アルバラド、セントビル、ニューワク等の各地へ人夫を供給するもの現れ、且つ歩合耕作を爲すものが續出した。是等の耕作は日本人には適合したものであつたため、好成績を擧げ、地主の信用を増し、同胞耕作面積は實に二千三百餘英加に及んだ。同地方に於ける同胞農業發達の内面には、各該請會社が同胞の農業的技能を認め、競つて便宜を與へたことなどは閑却し能はざる一事である。

サクラメント平原に於ける日本人農業

フロリンと邦人 フロリンは州都サクラメント市を南に十里の地點にあり、その開拓されたのは比較的近年のことであつた。但し一八九五年（明治廿八年）頃には同地白人の苺耕作面積は約二百英加に及び、鞏固な組合を設けて生産物は盛んに北部並びに東部諸州へも送つて居つた。當時日本人は孰れも労働者として働いて居つたが、漸次耕作技能の優秀なるを認められ、馳て本業獨占の端緒を開いた。現在に於ては學校あり、教會あり、恰も日本人村の觀を呈してゐる。

日本人の借地耕作 一八九八年（明治卅一年）廣島縣人中川健次郎兄弟は一英加五弗の借地料を拂ひ、廿英加を借地してこれに苺を栽培し、次で同縣人寺田某亦六英加の苺園と收穫折半の方法で、葡萄園十英加を借地耕作した。これが同村に於ける借地耕作の元祖である。元來同村は地味良いと云ふ程ではないが、苺栽培に適してゐると共に耕作方法宜しきを得たので發達を來たし、廣島、和歌山縣人が最も多い。

日本人發展の經過 前述の如く同地には先住白人が苺を栽培、組合を設けて本業組合の形ちであり、隨つて後より來つた日本人をして強敵視し、資金の融通をなさざるのみならず、排日的態度を執つた。然るに當地にオープンハムと稱する人物があり、これが日本人の苺栽培技術を見抜いて資金の融通を始め幾多の便宜を與へたので、日本人苺産業は驚くべき發展を示した。これは同村として忘るべからざる事實であるが、オープンハム自身も日本人の耕作に成る苺を取扱ふことによつて大いに利益を得るところがあつた。而して邦人の苺耕作は一八九九—一九〇〇年頃は耕作面積四百英加に達し、正に全盛期とも云ふべく、白人耕作者は邦人發展振りの鮮かさに一驚を喫した位であつた。斯る發展振りを知つた當時、桑港總領事上野季三郎は安孫子久太郎等と謀り、フロリンの發展助長の爲め邦人の苺組

合を組織することにした。此報一と度び四方に傳はるや、同村に集り来るもの多く翌一九〇一年には邦人耕作の毒園は一躍一千英加に達するに至つた。爲めに一九〇三—〇四年には生産過剰となり農家は非常な苦境に陥り、その打開策の一方法として古株を掘り返し、或は耕作を中止するものが出来、一九〇四年の暮れには六百八十英加に減じ、翌年には少しく殖えて七百廿三英加となつて大體に需要供給の均衡を保持し得るに至つた。

葡萄栽培と日本人

葡萄過剰に苦んだ餘波として、苺より葡萄園に轉ずるもの簇出し、一九〇四年フロリンにおける日本人葡萄耕作面積は四百英加であつたが、其翌卅八年には四百五十英加に増加した。本業は苺と相違して多くの資金を要せず、然かも請負耕作に至つては容易に着手し得るからでもあつた。

河下地方の農業と日本人

サクラメント平原の野菜賣庫と云はる、河下地方は、地味肥沃の上に水運の便を有してゐる。即ち同地方にはサクラメント、サンオーキンの二大河を始め、モークルン、ドライ・クリーキ等の大小諸川が錯綜交又する所で、多くの島を以て成る地方である。此地が天然の沃土であり農耕に適すると知つた資本家は競つてこれを買収し、堤防を築き排水工事を施し、今日の河下一圓の良園が出来上つたのであるが、其主要産物は果物、野菜、ビーンズ、ポテトで、殊にアスバラガスの産出を以て有名である。

日本人の入耕

日本人が初めて此地に入つたのは、一八六九年（明治廿二年）の頃で、東京府人石坂公麿が労働者五十餘名を引き連れて、ニューホップのハツプス摘採に従事したのが最初である。

爾來日本人労働者の数は増加したが、一八九一年までは一人の小作者も無かつた。當時の日給は一八九〇—九一年の頃は一弗卅仙であつたが、一八九二年には八十仙に低下した。その理由は農産物の市價不況であつたからで、此状

態は一八九一年まで続いた。

日本人小作の元祖

一八九一年愛知縣人鶴見藤四郎はグラント島に於て小作を始めた。これが同地方に於ける小作の元祖である。小作面積は五百卅英加で、其方法は農具、種子、飼料一切地主持ちで、小作人は労働を提供し、收穫の三分を受けた。同年同島に於て熊本縣人村田某はタック・シャープの土地百五十英加を借り受けアスバラガスを小作した。其條件は鶴見と略ぼ同一で分配法はアスバラガス一封度につき二仙づゝ支拂ふと云ふのであつた。アイルトン方面では一八九四年アンドラス島に於て廣島縣人増井清太郎が果物・野菜の小作を始めた。種類はナツメキ、アニオン、トメトで、分配條件は農具地主持ちで半々であつた。同方面に於ける果物耕作は増井及び野澤杉松が最初であり、コートランド附近では愛知縣人伊藤初太郎が最初である。以上は河下に於ける日本人創業の初幕であるが、其後日本人は一介の労働者より順次小作者に進んだ。斯くて一九〇四年（明治卅七年）には左の耕作面積を示すに至つた。

年次	折半借地		借地耕作		労働者數
	人員	地積	人員	地積	
一九〇四年（明治三十七年）	二五四	八、七五〇	一〇二	九、一〇五	一、七〇〇
一九〇五年（明治三十八年）	三六〇	一〇、〇七一	一九八	一〇、三三七	二、一〇〇

即ち一九〇四年に於ける日本人折半並に現金借地總面積は一萬七千八百五十五英加で、耕作者三百五十六人。其翌年には二萬〇四百八英加、耕作者五百五十八人に増加した。

日本人と他人種の耕作比較

以上に述べ來つた如く、各地に於ける日本人農家の活躍は目覺しきものあり、日本人關係の地域に在つては事實に於て優秀の成績を挙げ地主の信頼愈々厚く、漸次白人及び支那人耕作者は其地盤を蠶食するに至つた。即ち一九〇五年（明治卅八年）にはサクラメント市以西ウォルナツグロヴに至る農園中、

その十分の八は實に日本人の手に依て耕作され、又アイルトン地方に於ては十分の四が日本人、十分の五が支那人、十分の一が白人の耕作であつた。日本人が折半耕作を始めて僅かに十年、其面積二萬英加以上に昇り、而かも年々發展の一途を辿り他人種の耕作領域を蠶食するに至つたことは、實に長足の伸展と言ふべきであつた。

當時同地方の借地料及びシエヤーは土地の良否並びに契約の巧拙によつて幾分の差はあるが、大體に、一英加の借地料一ヶ年十弗、シエヤー借地は農具地主持ちでポテト、ビーンズ、果物は五分五分、アニオン六分、瓜類五分五分、アスパラガスは植付けを負擔して六分、單に手入れが四分であつた。

其他の近所農園　パーキンス、メービユー、ミールス、フエヤーオーク方面に於てハツプス及び果物園に日本人が就働したのは可成り久しき以前からであるが、同方面に於て日本人が小作したのは一九〇四年に五百英加あり、其翌年には一千英加に上つた。同年廣島縣人沖健次は初めてハツプス栽培に手を染めたが、日本人のハツプス栽培は同人が最初である。本業は他の作物と異なり創業に多大の資金を要するが故に従來邦人が容易に手を出すことが出来なかつたものである。

ブラサ郡地方　ブラサ郡、ベンリン、ニューキヤツスル、ルーミス方面に日本人の移入したのは頗る古いが、小作の始まつたのは一九〇五、六年の頃で、五年は現金借地、シエヤー借地合せてニューキヤツスルが八百九十八英加、ベンリンが九百十六英加、ルーミスが三百卅二英加であつた。同年は果物の市價昂騰で耕作者は利益を得るもの多く、進んで土地を購入するものが簇出した。

メリスビル地方　メリスビル、ビツグス、チーコ方面は一九〇四―〇五年頃までは邦人労働者は可成多かつたが、借地耕作者は比較的少なく、當時只ビツグスに於て二、三百英加、メリスビルに於て二、三百英加、少し廻つて一九〇四年にコルサに拓農社なるものが起り、千二百英加を借地して豆、コーンを栽培した。此地方にそれより數

年後日本人によつて米作が試みられ、第一次歐洲大戰を前後して、米成金簇出、黄金の波を漂はした地方である。加州の北に米作が可能なることが初めて日本人の手により立證され、無機鹽分多きため遺棄されてゐた廣大な不毛の地が、一躍美しき米田と化し、加州農産業に更に何百萬弗の収益を差加へたことは偉大なる功績で、正に加州産業史上に特筆大書すべきことである(別項本章末尾参照)。兎に角此地方は桃、スーモンズ、ブルーム、ビーンズ、米の産地として有名であり、日本人労働者も相當に多い。

スタクトン地方の農業と日本人

スタクトン(須市)河下と云へば一般に知れ渡つた農園地帯であるが、これはサンオーケン河の流域に散在する數十の群島より成る三角洲を總稱するのである。此地方に日本人が初めて入つたのは一八九五年頃で、福岡縣人牛島謹爾及び熊本縣人松本萬龜が先驅者であつた。牛島は初めブラツ島に農園を經營したが、二年後にタイラ島に移つた。松本がシャーマン島の開墾に着手したのは、一八九二年頃であつたが、當時河下一帯は渺茫たる沼地にして到る所蒲が繁茂し農耕地としての價値は全然認め得なかつた。其後堅牢なる堤防が築かれた爲め、小にしては數百英加、大にしては數千英加の島々が出来、曩日價値なかりし沼地は一轉して無比の美園と化した。而して斯る開墾の背後には前記牛島及び松本を始め多くの日本人の手が加はつたから其功勞没すべからざるものがある。

同地域の邦人發展　日本人の力が多く加はり名耕地と化した須市河下地方は、先づ日支人の手によつて小作式は折半耕作の方法により經營せられたが、一九〇一年頃には耕作面積四萬五千英加に及んだ。主なる農産品種はポテト、玉葱、ビーンズ等で、日本人の多く入込んだのはサーゼント、キャナル、ブラドホード、ジョセ、バイロンビクトリア、フランク、オールジョンズ、リンジ、オーウード、ホーランド、キャトル、ウエブツラク、キングシマ、ホ

その十分の八は實に日本人の手に依て耕作され、又アイルトン地方に於ては十分の四が日本人、十分の五が支那人、十分の一が白人の耕作であつた。日本人が折半耕作を始めて僅かに十年、其面積二萬英加以上に昇り、而かも年々發展の一途を辿り他人種の耕作領域を蠶食するに至つたことは、實に長足の伸展と言ふべきであつた。

當時同地方の借地料及びシエヤーは土地の良否並びに契約の巧拙によつて幾分の差はあるが、大體に、一英加の借地料一ケ年十弗、シエヤー借地は農具地主持ちでポテト、ビーンズ、果物は五分五分、アニオン六分、瓜類五分五分、アスパラガスは植付けを負擔して六分、單に手入れが四分であつた。

其他の近所農園 パーキンス、メーヒュー、ミールス、フエヤーオーク方面に於てハツプス及び果物園に日本人が就働したのは可成り久しき以前からであるが、同方面に於て日本人が小作したのは一九〇四年に五百英加あり、其翌年には一千英加に上つた。同年廣島縣人沖健次は初めてハツプス栽培に手を染めたが、日本人のハツプス栽培は同人が最初である。本業は他の作物と異なり創業に多大の資金を要するが故に従來邦人が容易に手を出すことが出来なかつたものである。

ブラサ郡地方 ブラサ郡、ベンリン、ニューキャツスル、ルーミス方面に日本人の移入したのは頗る古いが、小作の始まつたのは一九〇五、六年の頃で、五年は現金借地、シエヤー借地合せてニューキャツスルが八百九十八英加、ベンリンが九百十六英加、ルーミスが三百卅二英加であつた。同年は果物の市價昂騰で耕作者は利益を得るもの多く、進んで土地を購入するものが簇出した。

メリスビル地方 メリスビル、ビツグス、チーコ方面は一九〇四—〇五年頃までは邦人労働者は可成多かつたが、借地耕作者は比較的になく、當時只ビツグスに於て二、三百英加、メリスビルに於て二、三百英加、少し廻つて一九〇四年にコルサに拓農社なるものが起り、千二百英加を借地して豆、コーンを栽培した。此地方にそれより數

年後日本人によつて米作が試みられ、第一次歐洲大戰を前後して、米成金簇出、黄金の波を漂はした地方である。加州の北に米作が可能なることが初めて日本人の手により立證され、無機鹽分多きため遺棄されてゐた廣大な不毛の地が、一躍美しき米田と化し、加州農業に更に何百萬弗の収益を差加へたことは偉大なる功績で、正に加州産業史上に特筆大書すべきことである(別項本章末尾参照)。兎に角此地方は桃、スーモンズ、ブルーム、ビーンズ、米の産地として有名であり、日本人労働者も相當に多い。

スタクトン地方の農業と日本人

スタクトン(須市)河下と云へば一般に知れ渡つた農園地帯であるが、これはサンオーキン河の流域に散在する數十の群島より成る三角洲を總稱するのである。此地方に日本人が初めて入つたのは一八九五年頃で、福岡縣人牛島謹爾及び熊本縣人松本萬龜が先驅者であつた。牛島は初めブラツ島に農園を經營したが、二年後にタイラ島に移つた。松本がシャーマン島の開墾に着手したのは、一八九二年頃であつたが、當時河下一帯は渺茫たる沼地にして到る所蒲が繁茂し農耕地としての價値は全然認め得なかつた。其後堅牢なる堤防が築かれた爲め、小にしては數百英加、大にしては數千英加の島々が出来、曩日價値なかりし沼地は一轉して無比の美園と化した。而して斯る開墾の背後には前記牛島及び松本を始め多くの日本人の手が加はつたから其功勞没すべからざるものがある。

同地域の邦人發展 日本人の力が多く加はり名耕地と化した須市河下地方は、先づ日支人の手によつて小作式は折半耕作の方法により經營せられたが、一九〇一年頃には耕作面積四萬五千英加に及んだ。主なる農産品種はポテト、玉葱、ビーンズ等で、日本人の多く入込んだのはサーセント、キャナル、ブラドホード、ジョセ、バイロンピクタリア、フランク、オールジョンズ、リンジ、オーウード、ホーランド、キャトル、ウエブツラク、キンダシマ、ホ

ールデン、マンダビル、マゴドナルド等の諸島であつて、河下廿五萬英加の二割は日本人農家の經營に屬して居つた。牛島謹爾は此所を地盤としてポテトを作り、總てポテト・キングと云はるゝに至つた。

土地法と邦人農業 加州に於て外人土地法の制定せらるゝや、從來日本人と密接の關係を持つてゐた河下デルタ土地會社は、一時日本人を解雇し、之に代ふるに白人農業者を入れんとして盛んな勧誘に努めたが、如何せん同地は尙交通不便、衛生、電燈の設備完全ならず、白人農家の移住を誘導するに至らず全く失敗に歸した。斯くて日本人が河下の地域を去るに及んで同地方の農業は一頓挫を來たすに至つた。

須市附近の農園 デルタ土地會社の冷遇により河下を出た日本人農家は、順次スタクトン市郊外の農園に移るに至つた。從來須市郊外の野菜園は主としてイタリア人の手によつて經營されて居たが、一九一四年（大正三年）頃より平岡三之助、板家安太郎等が續々郊外に移り、續いて西にフレンチチャンプの日本人植民地を形成、東にレーストラクトの植民地を形成するに至つた。

ローダイ方面 一九〇二—〇三年頃ローダイの地味が葡萄に適することが判り、葡萄栽培が盛んに行はれた。當時日本人の借地耕作面積は二、三百英加に過ぎなかつたが、日本人にして果物を賣買するものが相當多かつた。當地の葡萄は品質よく特にトーケイ種は最も有名である。

フレズノ地方の農業と日本人

フレズノ地方は夏時暑熱高きところとして有名であるが、十九世紀の末葉既に葡萄の好適地として知られ、現在に於てはフレズノ市を中心として周圍卅哩四方は葡萄園を以て満たされてゐる。從て其産額も多く全米國の生産中九パーセントを占めて居り、乾葡萄のみにも廿五萬噸に及び世界各國に輸出されてゐる。

葡萄産業と日本人

フレズノ地方へ初めて日本人の足跡を印したのは、一八九〇年（明治廿三年）で、同年北加バカビル、ウインタースに日本人農業組合が組織せられ、野田晋三郎は同組合より卅名の労働者を引き連れ、フレズノに派遣せられた。而して當時ベーカーフィールドに居た峰島儀一及松岡謙等も之に加へた。翌一八九一年には中畑六郎、中川小二郎、鍋島某等外數十名も亦労働者として入つた。同年神川理一は一個の労働者として同地に來り、其翌一八九二年に彼等は同地に食料雜貨店を開いた。

當時同地方の労働者は殆ど全部が支那人であつて、葡萄摘採期には三、四千人の支那人労働者が集つた。葡萄の摘採期は八月下旬に始まり約二ヶ月の短期に於て全部の收穫を終了せねばならぬ。摘採は請負仕事であるから、經驗あり俊敏の活動家は僅に五弗を得ることが出來た。斯る仕事には日本人が最も適して早くより園主の認むる所となり、一八九七年頃には既に支那人を凌いで、日本人労働者の數三千名に及んだ。當時短期間に多額の金を獲得するはフレズノであるとし、各地より邦人労働者が集まつたもので、一ヶ所に斯の如く多くの邦人労働者の集まつたことは全加州何處にもなかつた。

日本人の土地購入 一八九一年フレズノ地方へ日本人が入込んでより約十年間は労働者として信用を得て來たが順次仕事に馴れ且つ葡萄栽培に經驗を持つに及んで漸次小作に進み、或は土地を購入して本格的に農業に従事するやうになつた。

明治卅四年廣島縣人隅田資一は四十英加を、また同縣人阿部才吉は四十英加の土地を共にフアラに於て購入しこれに葡萄を植付けた。これ同地方に於ける日本人土地購入の初めである。爾來土地購入小作耕作者が續出し、一九〇四—〇五年には四千三百英加餘に及んだ、左に土地所有並に小作英加數を示す。

歳次
一九〇四年（明治三十七年）
一九〇五年（明治三十八年）

土地所有
四三九
一、〇三五

借地耕作
二、五八五
三、三〇三

合計
三、〇二四
四、三三八

南加州に於ける農産業と日本人

南加州七郡はモハベ山脈を境として地勢風土を異にし、北加に比し氣候温暖である所より、春の走り野菜や半熱帯の果物を産する特徴を持つてゐる。而して地勢の關係より北加に於けるが如く、農耕地の規模絶大ならず、従つて集約農業に適し、加ふるに灌漑の設備はり、益々其特殊生産に向つて發展した。

一九〇五年頃日本人の手によつて經營された農園は、砂糖大根二千四百四十英町、セロリ千八百四十九英町、青物類千二百八十英町、苺六百七十八英町、メロン類三百四十五英町、ヘイ二百九十七英町、農牧畜家禽百三十四英町、計七千卅一英町であつた。

南加州に於ける邦人労働者 南加州に邦人の家屋を見始めたのは北加のそれより遙かに後年に屬し、またその南加在留邦人は初め家庭内労働者が最も多かつた。一九〇六年當時の調査では農園労働者は約五千人（柑橘類及び果物摘採二〇〇、砂糖大根一〇〇〇、セロリ八〇〇、苺六〇〇、青物耕作六〇〇）で、このほか電気鐵道工夫は千五百人の多きを數へた。

羅府附近の野菜耕作 南加に於ける日本人野菜業は、初め羅府（ロスアンゼルス）市を中心として其郊外に小規模に始められたものであつたが、羅府の人口が増加するに従つて、漸次發展して今日の盛況を見るに至つたものである。本業は元來支那人の獨占的專業であつたが、日本人がこれに手を染むるや支那人を凌駕して益々發達し優良の野

菜は日本人の手によつて續々産出されるやうになつた。而して羅府の發展と共に自然野菜業は廣く市外に延び、其地帯はホイッテヤ、モンテペロ、シヤーマン、ハリウッド、ガバンザ、イーグルロックに亘つて盛んに耕作されるに至つた。

南加の苺と日本人 南加に初めてストローベリーの栽培されたのは随分古いものであるが、最初は白人農家が副業として試みたに過ぎない。初め作られたのはガーデンナーであつて、四、五年後にトロピコ、並びにモネタ地方に栽培されるに至つた。而して南加のベリー業は北加フロリンの苺産業に刺戟せられて擴大を見た。日本人のこれに手を染めたのは一九〇〇年頃であつたが、特有の優秀技術を發揮して頗る良品を産出した。然も當時市價は好況を續けたため耕作面積は急速に増加し、一九〇四年——五年には左の如き數字を示して逐次獨占化する趨勢を呈し來つた。

地 名	一九〇四年耕作面積	一九〇五年耕作面積	増 加 數
トロピコ	二百〇五英加半	四百九十二英加半	二百八十七英加
モネタ	九十五英加	百七十二英加半	七十七英加半
合 計	三百英加半	六百五十五英加	三百六十四英加半

セロリ耕作と邦人 南加の農産中セロリは頗る有名であつたが、殊にスマルザは加州唯一の生産地とまで云はれた。創業は一九〇〇年頃であつたが、當時他に競争地が無い爲め本業は常に相當の利益を收めて來た。日本人は初め労働者として働いてゐたが、本業が利益あることが判ると、小作耕作を始める者が續出し、千九百五年頃には大した勢力を持ち、總耕作面積の八分を占むるに至つた。而して植付け收穫共に日本人の手によると云ふわけで、日本人ならではならぬことになつた。而して其耕作面積は一九〇四年には既に六百九十四英加、其翌年には一躍千五百五十英加に増加した。

南加沿岸の砂糖大根 一八九九年五月桑港に於て和歌山縣人津田立一及び新潟縣人安孫子久太郎等は相謀つて

弘益社なるものを組織し専ら邦人間に農業を奨励するに努めた。翌年弘益社はサンタマリアのユニオン製糖會社と契約して、同會社經營の大根園に労働者を供給することになり、同年二月池田五六、梅田松五郎等二名の監督の下に、學生労働者約五十名を同地に送り込んだ。一九〇一年森銀之助はテンブルトンより來り、初めて該會社と大根栽培の契約を結んだ。これ同地方に於ける大根契約耕作の嚆矢である。爾來各地より同地に集り來るもの年と共に多く、一時同地方に於ける砂糖大根の耕作は殆ど日本人の手によつてなされるの盛況を呈した。これと前後してオックスナード製糖會社も亦日本人を使用することになり、猪瀬伊之助、馬場小三郎等は栽培契約または労働者供給の業に従事し盛んに日本人労働者の參來を促し、同地に日本人農業の基礎を造るに至つた。

帝國平原の農業 帝國平原（インベリアル・ヴァレー）の農業は一九〇五年頃は未だ試験的時代であつた。當時の作物は葡萄、メロン類、スキート・ポテト、野菜、養鶏等であつた。當時日本人の耕作面積は三百〇七英加であつた。其後柑橘類等も試作されるやうになり、殊に、レタスの試作が良好であつた爲め同業が逐年増大し、帝國平原のレタスとして有名となつた。

コーチラ平原の農業 一九〇六年頃同地にキャンタロープの栽培を試みたところ、頗る立派なものが出來たので、これを東部へ出荷して好評を博した。其理由は他地方より成熟が早く品質が優良であることに基因する。其後灌漑設備の完備と共に耕作面積が大に増加し、今日の盛況を來たすに至つた。日本人の同地方へ入つたのは可成り古いと云はれてゐるが、一九〇五年には既に、三百四十五英加が耕作されて居た。

同地方の日本人農業に關し特筆すべきことは、同地の農業組合に於ては、全然日本人を白人組合員と區別せず、會議には日本人代表者を列席せしめて議事に當らしめた。之れが爲め耕作上、白人耕作者と肩を並べ公平に事業を營むことが出來、同平原日本人農業の發展を促した。而して餘力を帝國平原にまで延ばし、今日の盛況を見るに至つたのである。

一九〇五年度の加州日本人耕作面積

吾人は加州各地に亙つて日本人發展の由來を述べて來たが、大體に於て一九〇六年以前を以て、加州に於ける日本人農業發展の初期と見做し、左に同年の耕作面積の統計表を掲げこれを明確ならしめんとする。

一九〇五年度の加州に於ける日本人耕地表（單位エーカー）

地方別	所有	現金借地	折半耕作	不明	合計
バカヴィル方面	一八五	二、六五四	一、七五八	四、五九七
サクラメント方面	四五〇	一九、九九五	一三、二一一	三七、七六七
フレズノ方面	一、〇九五	三、七三三	四、八二八
南加州方面	四八七	四、二八七	二、三二二	七、三三〇
ワットソンビル方面	八	三、五六五	三、五七三
サンノゼ方面	一四	四六九	七六七	一、五三二
アラメダ郡方面	七一	五五五	一、三六五	一、九九一
雜部	二〇	二〇
總計	二、四四二	三五、二七八	一九、四七三	四、四八五	六一、六七八

表中「不明」の部に黒點あるは請負を示す。
右表に依れば日本人農業中心點が當時サクラメント方面であつたことを知ることが出来る。

日本人農業の發展期

一九〇五年より同二九年までを以て日本人農業の發展期と觀ることを得るが、以下にそれらの統計により其發展の

状態並びに事業の推移を述ぶることとする。

自一九〇五年 至一九〇八年 日本人農業状態

一九〇五年より一九〇八年に亙る三年間の日本人の加州に於ける農業の發展は驚くべきもので、一九〇八年の調査によれば加州に於ける當時の日本人農業面積は十五萬四千八百〇二エーカー半（日本の反別に換算すれば約六萬二千七百町歩）で、うち所有地一萬五千四百四十一エーカー半、現金借地面積五萬五千九百七十一エーカー半、歩合小作地五萬七千五百七十八エーカー半、請負耕作地面二萬六千三百三十八エーカー半であつた。之を前半年度即ち一九〇七年度の加州日本人農作地面に比べると、所有に於て一千二百九十九エーカー半を、歩合小作に於て九千三百五十二エーカー半を、又請負耕作に於て一萬三千七十九エーカー半を増し、現金借地に於て九百十八エーカー半を減じ、都合二萬三千五百十一エーカー半の増加となつてゐる。今地方別に依り一九〇五年以後四年間の加州日本人農業地面を示せば左の如くである。

地方	年度	所有	現金借地	歩合耕作	請負耕作	小計
アラメダ地方	一九〇五年	七二二	五五五	一、三六五	六四五半	一、九九一
	一九〇六年	九二半	六四二	二、四二〇	三、五一五	三、七九九
	一九〇七年	八七半	九六〇	三、七三九	三、〇七二	八、三〇一
	一九〇八年	九八半	七三三	五、一一六	三、〇七二	九、〇一九半
サンノゼ地方	一九〇五年	一四六	四六九	七六七	五一〇	一、八九二
	一九〇六年	一四六	一、五六七	八二五	二、〇一九	二、五三八
	一九〇七年	二三八半	九一九	八六二	二、〇一九	二、〇一九
	一九〇八年	二五〇半	一、六二三	一、三六八	三、二四一	三、二四一

地方	年度	所有	現金借地	歩合耕作	請負耕作	小計
ワッソソビル地方	一九〇五年	二八八	三、五六五半	二〇〇	七、五五二	三、五七三半
	一九〇六年	二八八	四、七五一	四六九	八、五四四	一、二、五三一
	一九〇七年	一九一	五、六七三	一、二〇八	一、二、三三	一、四、七一一
	一九〇八年	二〇五	四、八八四	一、七八五	一、一、二二三	四、六二四
ヴァカヴィル地方	一九〇五年	一八五	二、六五四	一、二二三	六、四五三	四、七九二
	一九〇六年	二〇五	三、三六四	一、二二三	六、七五三	六、七五三
	一九〇七年	三三八	二、七五三	三、二六九	四、一一一	三、七、七七
	一九〇八年	四六〇	三、〇二四	一、三、二二一	一〇、五〇六	四、八、四六八
サクラメント地方	一九〇五年	四五〇	一九、九九五	一三、九〇七	四、五〇六	六二、五七八
	一九〇六年	六一四	二三、四四一	三〇、二九四	四、八、四六八	六二、五七八
	一九〇七年	一、三五八	三〇、九三六	三〇、五四六	四、八、四六八	四、八、四六八
	一九〇八年	一、二六八	一六、七二八	三〇、五四六	四、八、四六八	四、八、四六八
大和植民地	一九〇五年	一、二八〇	三、七三三	二、三三六	三、二二五	一、二、八〇
	一九〇六年	三、二二五	二、一〇八	三、三三二	三、二二五	三、二二五
	一九〇七年	三、二二五	二、一〇八	三、三三二	三、二二五	三、二二五
	一九〇八年	三、二二五	二、一〇八	三、三三二	三、二二五	三、二二五
フレズノ地方	一九〇五年	一、〇九五	二、一〇八	二、三三六	三、二二五	四、八二八
	一九〇六年	二、七一二	一、七九六	三、三三二	三、二二五	七、一九六
	一九〇七年	四、〇九九	三、九七七	八、〇六五	三、二二五	九、二一七
	一九〇八年	五、七四五	三、九七七	八、〇六五	三、二二五	一七、七八七
南部加州地方	一九〇五年	四八六	四、七七八	二、三三六	三、二二五	七、八六〇
	一九〇六年	一、五九二	五、九五二	三、七六五	三、二二五	一四、七〇六
	一九〇七年	二、三四一	〇、二八八	五、七九五	三、二二五	一八、七二四半
	一九〇八年	一、五一〇	〇、九〇七半	二、九七九半	三、二二五	一五、三九七
スタクトン地方	一九〇五年	二〇八	一、〇一〇	三、八九五	三、二二五	二〇、三〇二
	一九〇六年	二〇八	一、〇一〇	三、八九五	三、二二五	二〇、三〇二
	一九〇七年	二〇八	一、〇一〇	三、八九五	三、二二五	二〇、三〇二
	一九〇八年	二〇八	一、〇一〇	三、八九五	三、二二五	二〇、三〇二
其他の地方	一九〇五年	三、二八〇	三、〇〇〇	三、八九五	三、二二五	二、三、四〇〇
	一九〇六年	二、一〇七	三、四七九	三、八九五	三、二二五	五、九七一一
	一九〇七年	二、一〇七	三、四七九	三、八九五	三、二二五	五、九七一一
	一九〇八年	二、一〇七	三、四七九	三、八九五	三、二二五	五、九七一一

一九〇五年	二、四四二	三五、二五八半	一九、五七二半	四、七七五	六二、〇四八
一九〇六年	八、六七一	四一、八五五半	二四、八二六	二三、一〇〇	九七、六五〇
一九〇七年	一三、八一五	五六、八八九半	四八、二二八半	一三、三五九	一三一、二〇三半
一九〇八年	一四、六四六半	四四、五三八半	五三、九二四	二〇、九五〇	一三四、〇五九
計					

(備考) 一九〇七年以前のスタクトン地方の分は櫻面都地方に加算したり

以上の統計に依ると、日本人の農業が如何に進歩の速かであつたかが知られる。即ち所有農作地は、一九〇五年に僅かに二千四百餘エーカーであつたのが、一九〇八年には一萬四千六百餘エーカーとなり、四年間に約六倍の増加を見、現金借地は、一九〇五年に三萬五千二百餘エーカーであつたのが三年後には四萬四千五百餘エーカーに及び、四年間に二割餘の増加を見、歩合小作は、一九〇五年に一萬九千五百餘エーカーなりしもの、一九〇八年には五萬三千九百餘エーカーとなり四年間に約三倍の増加をなし、又請負耕作は一九〇五年に四千七百餘エーカーなりしもの、一九〇八年には二萬〇九百エーカーとなり、四年間に約四倍の激増をなし、一九〇五年に總農作地六萬二千餘エーカーなりしもの、一九〇八年には十三萬四千餘エーカーとなり、四年間に約二倍餘の増加を見た而して更に地方別に見ると、當時加州で日本人農業の最も盛んであつたのはサクラメント・ヴァレーで、サン・オーキン・ヴァレー(フレズノ地方、スタクトン地方、大和植民地)之に次いでゐた。就中サン・オーキン・ヴァレーは耕作面積廣く、且地味氣候等各種の農作物に適するを以て他地方に比し、日本人土地所有者多く、將來益々發展すべく囑望せらるゝ所である。

自一九〇八年 發展狀態 至一九一七年

其後の十年間即ち一九〇八年より一九一七年迄の間には第一次加州土地法の制定あり、一九一三年に日本人の土地所有は禁止せられ借地は三ヶ年に限定されたが、これによつて受けた打撃は豫想の如く甚しからず、土地所有及耕作

面積も非常の増加を示した。即ち一九一八年の調査に依ると一九一七年度加州日本人農産高は概略五千五百萬弗で之を全加州農産高約五億弗に較べて其一分を占め、更らに之を其農産能率に就て見ると、全加州の既墾農園約一千二百萬英町で、其一英町當り產高平均約四十二弗弱なるに對し、日本人の農耕地は三十九萬餘英町にして其平均高は實に百四十一弗強を示し、全州平均能率に比し約三倍半の高率を示した。是れ全州平均の場合に劣等地多く、日本人の農耕地は概して優秀のものなるに由るとともに、日本人が農業者としての卓越せる技術を有してゐるからであつてこの事實は米人一般の認むるところであつた。

所有地と耕作面積比較 當時加州農業者(經營主)の數は概略六萬五千人で、日本人は約八千人であつたから其比例は八と一に當り、米人の一人前土地所有高は平均二百英町に當るに對し、日本人の所有地は總農業者に對し三英町七分五厘、即ち其約百分の二に當り、耕作面積は米人の平均百八十五英町(所有者も耕作主と見て)に對し日本人は四十八英町弱、即ち約其二割六分に當つた。素より日本人は當時全加州を通じて一萬四五千英町を所有するに過ぎなかつたので、日本人の耕作面積は米人の所有地數と二重となるが、茲には農業經營者としての見地より其數字を比較したのである。

日本人農産高の分配 日本人農業者一ヶ年間の収入は約五千五百餘萬弗の多額なるに反し、其の實際所得、純益は極めて少額で其分配の割合は借地料二割五分、一千三百七十五萬弗、農耕賃金四割、二千二百萬弗、收穫及び收穫物包裝費二割、一千百萬弗、維持費食料等七分五厘、四百十二萬五千弗、純益七分五厘、四百十二萬五千弗の割合であつた。是れ一に借地料高價の結果で、今若し借地料なる一千三百七十五萬弗を以て一英町百三四十弗の地を購入し、之を開拓するとせば、年々十萬英町に近き土地が日本人の所有となるべき筈であつた。更らに之を實行的に考慮し、若し一般大農園が採りつゝある十年々賦仕拂方法によつて土地を購入するとせば、前記二割五分當り借地料の半額を

土地代として支拂ひ、其四分の一を利子及税金として支拂ふも猶ほ總支拂金は借地料の七割五分にすぎない。其の餘の二割五分、即ち三百四十三萬七千五百弗は自己所有農園の改良費として使用したる上、地價百五十弗として十年間に約四十六萬英町、平均百弗とすれば六十九萬英町を得、直ちに之を經營して其年より年々農産物を以て生活しつゝ、且つ其土地代を支拂ひ得るだけの餘裕を有するのであつた。十年々賦支拂法は加州に於ける過去の土地賣買法の失敗に鑑み、農家が其畑より土地代の殘金を支拂ひ得る事を目標として定められた者で、日本人の能率を以てせば素より確實に之を實行し得るものであつた。即ち日本人農業者八千人全部が年々支拂ふ借地料だけにて各年々六英町乃至九英町の土地を所有し得るに拘はらず、此法を棄て、廣き借地農業を營むものゝ多かつたことは、全く永住心の缺乏に原因し在留民の發展上洵に遺憾事と云れた。

加州日本人經營農園面積及び栽培品種別耕作一覽表(一九一八年九月) (加州中央農會調査) (一英加は日本の約四反二十四歩に當る)

各地名	農園經營面積		土地所有		借地耕作		贖負耕作		英町計數
	戸數	面積	英町	面積	英町	面積	英町		
北港	一五	
東港	
小計	
加州中央	

栽培品種別耕作面積	果物		蔬菜		菜	
	英町	面積	英町	面積	英町	面積
葡萄
其他果物
野菜
蔬菜
菜
小計
加州中央

栽培品種別	耕地面積(承前)		其他	總計
	種別	面積		
米
砂糖
牧草
椰子
パフ
植木
雜草
養蠶
牧畜
苗木
綿
空地
合計

南加州	小計	華村	沿岸其他	小計	中加各地	小計	カレンス	キンレン	ツラノ	フレノ	リグス	小計	ロイ地方	スタク地方	モラック	ウオナツグ	コトランド	北加地方	ブラサ地方	フロリダ	サクレメント	パカヅ	
...

地名	戸数	男	女	小供	計	戸数	男	女	小供	計
サクラメント	3,270	1,833	1,437	1,840	3,673	1,000	511	489	511	1,022
フクロ	3,000	1,700	1,300	1,300	3,000	800	400	400	800	800
ブルバーク	2,300	1,300	1,000	1,000	2,300	600	300	300	600	600
メリスビル	2,200	1,200	900	900	2,100	500	250	250	500	500
コイトランド	2,100	1,100	800	800	1,900	400	200	200	400	400
ウオナツグロ	1,800	1,000	800	800	1,800	300	150	150	300	300
アイルトン	1,700	900	800	800	1,700	200	100	100	200	200
橋面都平原地方計	1,580	896	784	784	1,580	100	50	50	100	100
スダク	1,500	800	700	700	1,500	80	40	40	80	80
サンオーキン	1,400	750	650	650	1,400	70	35	35	70	70
リグイングストン	1,300	700	600	600	1,300	60	30	30	60	60
フレスノ	1,200	650	550	550	1,200	50	25	25	50	50
ツラ	1,100	600	500	500	1,100	40	20	20	40	40
キングス	1,000	550	450	450	1,000	30	15	15	30	30
カイン	900	500	400	400	900	20	10	10	20	20
中部加州計	880	480	400	400	880	10	5	5	10	10
サンマテオ	800	450	350	350	800	8	4	4	8	8
パロアルト	700	400	300	300	700	6	3	3	6	6
サンノゼ	600	350	250	250	600	4	2	2	4	4
サンベニト	500	300	200	200	500	3	1.5	1.5	3	3
サンタクルーズ	400	250	150	150	400	2	1	1	2	2
モントレー	300	200	100	100	300	1	0.5	0.5	1	1
サリナス	200	150	50	50	200	0.5	0.25	0.25	0.5	0.5
南部沿岸地方計	1,800	1,000	800	800	1,800	100	50	50	100	100
合計	3,900	2,200	1,700	1,700	3,900	1,100	561	539	1,100	1,100

地名	戸数	男	女	小供	計	戸数	男	女	小供	計
桑港	1,500	800	700	700	1,500	1,000	500	500	1,000	1,000
王	1,200	650	550	550	1,200	800	400	400	800	800
麥	1,000	550	450	450	1,000	700	350	350	700	700
ア	800	450	350	350	800	600	300	300	600	600
亞	700	400	300	300	700	500	250	250	500	500
桑港附近計	600	350	250	250	600	400	200	200	400	400
コントラコスタ	500	300	200	200	500	300	150	150	300	300
ソノマ	400	250	150	150	400	200	100	100	200	200
ユカ	300	200	100	100	300	150	75	75	150	150
ナ	200	150	50	50	200	100	50	50	100	100
北部沿岸地方計	1,800	1,000	800	800	1,800	1,200	600	600	1,200	1,200
バス	1,500	800	700	700	1,500	1,000	500	500	1,000	1,000
カ	1,200	650	550	550	1,200	800	400	400	800	800
グ	1,000	550	450	450	1,000	700	350	350	700	700
イ	800	450	350	350	800	600	300	300	600	600
ル	700	400	300	300	700	500	250	250	500	500
ス	600	350	250	250	600	400	200	200	400	400
合計	3,900	2,200	1,700	1,700	3,900	2,500	1,250	1,250	2,500	2,500

農業經營者農業者及及其他日本人の戸数人口調査一覽表 (一九一八年九月)

地名	戸数	男	女	小供	計	戸数	男	女	小供	計
小計	3,000	1,833	1,437	1,840	3,673	1,000	511	489	511	1,022
サンベニト	2,800	1,500	1,200	1,200	2,800	900	450	450	900	900
サンノゼ	2,500	1,300	1,000	1,000	2,500	800	400	400	800	800
サンマテオ	2,200	1,100	800	800	2,200	700	350	350	700	700
サンタクルーズ	1,800	900	600	600	1,800	500	250	250	500	500
モントレー	1,500	750	450	450	1,500	400	200	200	400	400
サリナス	1,200	600	300	300	1,200	300	150	150	300	300
合計	1,900	1,000	800	800	1,900	1,200	600	600	1,200	1,200
南加州計	1,800	1,000	800	800	1,800	1,100	561	539	1,100	1,100
小計	1,500	800	700	700	1,500	1,000	500	500	1,000	1,000
合計	3,400	2,000	1,500	1,500	3,400	2,300	1,161	1,139	2,300	2,300

各地名	戸数	其他		日本人(單位一人)		小供		計	戸数	總計		小供(單位一人)	
		男	女	男	女	男	女			男	女	男	女
南加州(概數)	二,三三〇	七,九三三	一,〇〇〇	七,〇三三	六,五三三	二,三三〇	四,六〇七	二,三三〇	二,三三〇	七,〇三三	一,〇〇〇	七,〇三三	一,〇〇〇
總計	六,一三〇	七,九三三	四,五六〇	三,三九六	三,二二四	一九,〇四四	三,三三三	一,六六六	一,六六六	七,〇三三	一,〇〇〇	七,〇三三	一,〇〇〇
各地名	戸数	男	女	男	女	計	戸数	男	女	計	男	女	計
桑港府	七五六	四,〇八一	一,一〇六	六〇五	五七六	六,五八八	七五六	四,〇八一	一,一〇六	六,五八八	六〇五	五七六	六,五八八
王儲	五九六	八六一	四三三	五七六	二七四	一,八四六	五九六	八六一	四三三	一,八四六	五七六	二七四	一,八四六
麥拉	四八八	七四四	二八五	二八八	一三三	一,三二七	四八八	七四四	二八五	一,三二七	二八八	一三三	一,三二七
亞那	一七六	二六六	二〇四	二八	一三三	三三三	一七六	二六六	二〇四	三三三	二八	一三三	三三三
桑港附近計	一,九九一	六,二〇七	二,〇八四	一,三三八	一,〇一八	一〇,六二八	一,九九一	六,二〇七	二,〇八四	一〇,六二八	一,三三八	一,〇一八	一〇,六二八
北部沿岸地方計	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
南加州(概數)	六,〇〇六	一八,〇五五	六,〇〇六	三,七二〇	三,一八〇	二二,〇〇〇	六,〇〇六	一八,〇五五	六,〇〇六	二二,〇〇〇	三,七二〇	三,一八〇	二二,〇〇〇
總計	六,〇〇六	一八,〇五五	六,〇〇六	三,七二〇	三,一八〇	二二,〇〇〇	六,〇〇六	一八,〇五五	六,〇〇六	二二,〇〇〇	三,七二〇	三,一八〇	二二,〇〇〇

各地名	戸数	男	女	計	戸数	男	女	計
スタクトン	三三三	四〇八	三二一	七二九	三三三	四〇八	三二一	七二九
サンオーキン	二三八	四三三	三二一	七五四	二三八	四三三	三二一	七五四
リヴィングストン
フレスノ	三〇〇	四二二	三三三	七五五	三〇〇	四二二	三三三	七五五
ツラリス	六〇	一六七	一〇〇	二六七	六〇	一六七	一〇〇	二六七
キングス	七九	一〇〇	六六	一六六	七九	一〇〇	六六	一六六
カイン	三三	三三	三三	九九	三三	三三	三三	九九
中部加州計	四〇六	八八九	五八七	一,四八六	四〇六	八八九	五八七	一,四八六
サンマテオ	四一	五二	三三	八五	四一	五二	三三	八五
パロアルト	五三	六六	四一	一〇七	五三	六六	四一	一〇七
サンノゼ	一八九	二二七	一四七	三七四	一八九	二二七	一四七	三七四
サンベニト	五五	六〇	三七	九七	五五	六〇	三七	九七
サンタクルーズ	一一	一八	一〇	二八	一一	一八	一〇	二八
サンタクレイ	二二	二八	一六	四四	二二	二八	一六	四四
モントレー	三三	四一	二二	六三	三三	四一	二二	六三
マリナ	三三	四一	二二	六三	三三	四一	二二	六三
南部沿岸地方計	四三〇	一,一七四	七五五	一,九二九	四三〇	一,一七四	七五五	一,九二九
南加州(概數)	六,〇〇六	一八,〇五五	六,〇〇六	二二,〇〇〇	六,〇〇六	一八,〇五五	六,〇〇六	二二,〇〇〇
總計	六,〇〇六	一八,〇五五	六,〇〇六	二二,〇〇〇	六,〇〇六	一八,〇五五	六,〇〇六	二二,〇〇〇

農園經營者と勞働者 加州に於ける一九一七年度農園經營者數は、前表に示すが如く七千九百七十三人で之を一九一四年度の七千四百九十五人に比し、四百七十八人を増し、其勞働者數は一萬五千七百九十四人で、一四年度の一萬六千二百九十八人に比し、五百〇四人を減じた。即ち減じたる勞働者數の大部分が進んで經營者となつたわけである。既婚者と未婚者 經營者總數七千九百七十三人の内、其農園に妻女を伴へる既婚者の數は(日本に妻を遣せる者をも假りに未婚者と稱す)四千五百六十人で即ち經營者の家庭に在る婦人の總數を意味す。其未婚者即ち妻を携へざる一切の人員は三千四百十三名で、此地方面に尙ほ此數字だけの婦人が渡航する必要があつた。其男女の比例は、女一

人に對し、男一人七分五厘に當り各種職業に従事せる日本人中最も男女の差の少なる者で、是れ一つには農園經營者が各種職業を通じ最も永住的の計劃によれる事を意味し、又他面に於て其財政の最も豊かなる事を證明したものであるが他職業の總平均男女比率は女一人男三人であつた。

戸數と住者數 茲に戸數と云ふは所謂何々キャンブと稱ふる者の意味で、一と棟の意に非ず。一キャンブの内四五戸の家庭を有する者は稀ならず、故に戸數と假稱するのである。加州に於ける總戸數は六千三百三十で、其一月には平均成年者一人九分強と、小兒約一人の割合であつた。小兒の總數は六千五百十名で、家族全員總數は一萬九千〇四十三人であつた。

小兒の數 前記小兒總數六千五百十名は、男兒三千三百九十六名、女兒三千百〇四名で、婦人總數四千五百六十名に對し、一婦人平均一人二分強の小兒を有する割合となり、他業の日本人總平均一人につき一人一分五厘弱、労働者の妻一人につき九分なるに比して優つておつた。是れ主として家庭を作れる時日永きと、其生活の健全なるに基因したのである。

農園労働者の家庭内容 當時農園労働者一萬五千七百九十四人中、妻と同棲せる者は千六百六十六名に過ぎず、即ち全體に於ては女一人に對し男の九人半弱の割合で總ての職業中、一時的の居住者たる官吏又は商社支店員を除く外最も男女の差の甚しき者であつた。是れ此の階級の人々は多く所謂出稼ぎを目的とする者で、金錢は擧げて之れを故國に送り、經濟上一家を作る能はざる事情の存すると、今一つには家庭を作りたき意思あるも、常に水草を逐ふて甲地より乙地に赴き、定住地を得る事能はざるに基因したもので、その少數の妻帯者は比較的定住的に或一ヶ所に就働して他に移轉せざる人々であつた。

小兒の數 前記千六百六十六名の婦人に對し、小兒の數は、千五百〇八名で、内男兒は七百七十一名、女兒七百三

十七名、婦人一人に對し九分にして一人宛に足らず、是れ比較的其家庭の新しくして時日の短きが爲であつた。

農園労働者の家庭總人員は一萬八千九百六十八名で、其戸數即ちキャンブ數三百五十四に對し、平均一キャンブ五十三人六分宛住居せる割合で其内小兒は約四人宛を含む。

日本人農業者と同労働者との比例は、前者の二に對して後者は約二の割合にて、日本人農業者の三分の二は労働者である。故に日本人が日本人の労働者のみを使用して農園を經營する事の不可能なるは知るに難からず、故に日本人農業者は既に十年來、年々米人又は在外國人を使用するに至り、現今少しく大面積の農園には日本人を監督又は指圖人として使用し、純粹なる労働は多く他國人を使用し、日本人に限られたる労働、例へば大根耕作等の外は、日本労働者のみによりて經營せらるゝ農園は殆どなき有様となつた。従つて日本人労働者が安賃金にて働くと云ふが如き事は十年前の昔話となつた。近時日本人労働者を使用する時には、他外國人よりも遙かに高級を支拂はざるべからざる状態となつてゐた。是れ昔に日本人が日本人の農園に働く場合に於てのみではなく、日本人が米人の農園に労働者として働く場合に於ても亦同様で、事實に於ては日本人の經營者一人に對し日本人の労働者二人を豫期する事は頗る困難であつた。

日本人の農業資金調達變遷 加州日本人農業者は第一期に於いて其の大部分の經營資金を所謂委託販賣者より前借りして收穫を抵當とした。此期間に於ては其食料品の全部をも地方の小賣店より年末拂にて借り、小賣店は其地方労働者の預け金を利用して此長期貸し營業をなしたが、此頃漸く此の不確實なる方法を改め、農業者中一部の資金を其地方の米人銀行又は他の金融機關より無抵當に借り入るゝに至り、而して收穫物を抵當とする場合も其處置の權限は絶対に自己に保留し得るに至つたのは、農家の實力が増進したる結果で喜ぶべき現象であつた。

土地會社と日本人 一九一三年に於ける加州外人土地會社制定以來一九二〇年一般投票の結果新土地法が實施せら

るまでの間に、日本人間に於ける農業経営法に著しき變化を來した。それは農業地所有の目的を以て多數の土地會社が組織せられたるの一事である。一九一三年に制定せられたる外人土地法は個人として日本人に土地所有權を禁ずると同時に、市民權なき日本人が過半数を有する會社の土地所有權を剝奪するに至つた。其結果日系市民なる第二世を過半数の株主とする土地會社が次第に組織せらるゝに至つた。其後一九三〇年加州は一般投票を以て市民權なき日本人に全然土地會社の株券を所有することを禁止するに至つた。この新法が實施せらるゝ以前數ヶ月間に於て俄然多數の土地會社が日本人間に組織せらるゝに至つた。其當時加州に於て存立せし新舊土地會社の數、資本金並に所有地面積を地方別に示せば左の如くである。

沿岸地方		中加地方		南加地方		北加地方	
會社數	資本金	會社數	資本金	會社數	資本金	會社數	資本金
アラメダ郡	三	フレスノ郡	一五六	インベリアル郡	二	コスタ郡	三
コントラコスタ郡	四	カニンガム郡	一五	ロサンゼルス郡	九	モンテレー郡	二
ナッツバレー郡	一	キンクス郡	五	グエンチユラ郡	一	サンフランシスコ郡	一
サンフランシスコ郡	一	マセド郡	一	サンタクララ郡	一	サンマテオ郡	一
サンマテオ郡	一	サンタクルーズ郡	一	サンタクララ郡	一	サンタクルーズ郡	一
サンタクルーズ郡	一	ソノマ郡	一	サンタクルーズ郡	一	ソノマ郡	一
ソノマ郡	一	合 計	一、二八二	合 計	一、二八二	合 計	一、二八二
合 計	一、二八二	合 計	一、二八二	合 計	一、二八二	合 計	一、二八二

土地會社設立の動機 前記約四百個に達する土地會社の約半数は一九二〇年一般投票を以て制定せられたる加州新土地法實施間に組織せられたるものであつた。該土地法實施によりて市民權なき日本人はこの方法以外に合法的に土地を所有するの途なきに至つたため、米人辯護士若くは邦人識者等の勸誘によりて、斯く多數の土地會社が組織せらるゝに至つたものである。爾來これがため日本人農業者が受けたる利益は頗る大なるものであつた。

土地會社の種類 前記約四百個の土地會社中、約三百七十は専ら農業經營を目的とするものであつて、約二十五は花園業經營を目的とし、他の四五は土地賣買の目的を以て組織せられたるものである。第一種に屬する會社の所有面積は約五萬英加にして、第三種即ち土地賣買を目的とする會社によりて所有せられた土地面積は約七八千英加であつた。第二種即ち花園業者に屬する會社の所有地は比較的僅かであつた。蓋し花園業は事業の性質上廣き土地を必要としなかつたためである。農業經營を目的とする土地會社中にて、北加スタクトン市に設けられたるエンバイヤ・ナビゲーション・コンパニーの一萬一千六百英加と南加ロサンゼルスに在るベソス・パレー・インヴェイスマン・ト・コンパニーの三千三百四十五英加は日本人所有の農業地中最大なるもので、故牛島護爾が關係した土地であつた。

自一九二三年 至一九二四年 日本人農業狀態

外人土地法の影響 一九二〇年十二月、加州には一般投票の結果新に土地法が實施され、同胞も大なる打撃を受けて一頓挫を來した。一九二四年に於ける調査に依ると同年の加州在住同胞の農業狀態は左の如くである。

加州在留邦人の職業分布が如何に農業關係に集中せられつゝあるやは、一九二四年六月末現在邦人合計約三萬六千世帯、此の人口約九萬三千中農業従事者九千百世帯、此の人口約二萬四千にして外に農業労働者一萬一千五百人なるの事實に徴しても之を窺知するを得る。

農業經營は其の性質上土地と不離不即の關係あるは勿論で、上述の如く現行加州土地法は邦人の土地所有を禁止する外借地及收穫契約をも禁止したので、土地を所有する者以外の邦人農家は勢ひ他に轉業し、若しくは移住せざるべからざる苦境に陥つた。他面米國市民を全株主とする土地會社若は一九二〇年土地法制定前に創立せられたる土地會社で、其の株式の過半數が米國市民を株主とする場合は、其會社の存立期間内を限り何れも他の米人地主との間に借地契約若は收穫契約を結び得るので、舊來の邦人小作農家は止むを得ず右土地會社との間に一種の労働契約を結び、從來の借地若は收穫契約地に於ける善意の管理者として當該地域を引續き經營するの窮策に出づるに至つた。右の方法は現行土地法と何等抵觸するところなく、當時の邦人農家の状態に於ては此の方法を以て唯一の應急救済策と目するに至つたものである。

右の外、邦人小作農家の救済策としては、日系市民を全株主とする土地會社の設立、日系市民の借地權利用及米人地主との口約に依る耕作經營方法等もあつたが、何れも多大の不便利と土地法規に抵觸するの機會多き等の缺點を伴ひ概して顧みられざるの状態であつた。

邦人經營農業地面積及農産額 一九二三年末調査による在加州邦人の所有地面積を見るに、合計約六萬一千英加で之を加州農業地の全面積に比すれば僅に其の四分の一に該當し、之に收穫契約地面積十萬九千英加及借地面積十三萬二千英加を合するも、猶且加州農業地全面積の約一步三厘に該當するに過ぎない。斯くの如く加州に於ける日本人經營の農業地面積は白人經營のそれに比すれば僅かに九牛の一毛に過ぎず。然るに過去二十年に亘りて米人間の一大

問題となりしは、日本人農業者の技術卓越せる爲め、米人間に恐怖心を起さしめたるによる。今農業地々方別面積の詳細を表示すれば左の通である。

地方別	邦人經營農業地面積(一九二三年)大正十二年現在			
	所有地 英加	收穫契約地 英加	借地 英加	轉借地 英加
北方沿岸	一、九五六	二、六六〇	三六、三七七	四、三三三
サクラメント平原	九、六五四	四九、二七九	三六、三七七	一一五、二三三
サンオーキン平原	二九、九六三	一四、〇三二	四、一七四	四六、二六九
中部加州	一七、〇七一	三一、〇四五	一、三二〇	四九、四三六
南方沿岸	一、一七九	一一、七四〇	八、四七〇	二二、三八九
南部加州	二、九五〇	八、一六五〇	八、一六五〇	八四、六〇〇
總計	六〇、七七三	一〇九、五七六	一三一、九九六	四、三三三
				三三二、四四八

農産品

以上記載の各農園地に付其の主なる産物を見るに、先づ其産額の大なるものより擧ぐれば葡萄、果樹、野菜、アスパラガス、瓜類、苺類、馬鈴薯、玉葱、豆類及米等の順位となるが、其の經營反別の全加州に於ける作付反別に對する割合の大なるものより見れば玉葱、苺類、アスパラガス、瓜類、馬鈴薯、米、トマト、豆類、野菜及葡萄等の順となる。

(一) 葡萄の栽培反別は約五萬一千英加で加州全體に於ける葡萄栽培面積の約九分六厘を占め年産額八百七十萬弗である。主としてフレズノ、及びチュラー郡内に栽培せらる。

(二) 果樹の栽培反別は約五萬四千英加で加州全果樹栽培面積の六歩強に當り年産額八百七萬八千弗である。主としてサクラメント、ヴァカヴィル及びフレズノに栽培せられてゐる。

(三) 野菜の作付反別は約二萬三千五百英加で、加州全作付反別の約一割七厘に當り、年産額六百八十五萬弗、主に

ロスアンゼルス郡、サクラメント、スタクトン及びサンノゼ并に沿岸地方に作付けられてゐる。

(四) アスバラガスの作付反別は一萬四千英加で加州全體に於ける作付反別の約四割三分四厘を占め、年産額五百九十萬弗。主としてウォルナツグローヴ、アイルトン及びコートランドで栽培せらる。

(五) 瓜類の栽培反別は約一萬英加で加州全體に於ける栽培地の四割強を占め、年産額約三百八十五萬弗主としてロスアンゼルス地方及びタートルラックで培養せらる。

(六) 莓類の栽培面積は約四千五百英加で加州全體に於ける作付反別の約九割を占め、年産額三百二十五萬弗に近く主に羅府附近、サクラメント、フロリン、及びサンノゼ、華村等に栽培せられてゐる。

(七) 馬鈴薯の作付反別は約一萬五千英加で、加州全作付反別の約三割六分五厘を占め、年産額百五十五萬餘弗に上る。主としてスタクトンで作付けられる。

(八) 玉葱の作付は殆ど邦人の獨占に係り、栽培面積約五千六百英加で加州全體に於ける作付反別の九割強に當り、年産額百五十三萬餘弗。主としてスタクトン地方で培養せられてゐる。

(九) 豆類の作付反別は約二萬二千英加で、加州全體全作付反別の一割三分強に當り、年産額百四十三萬弗。主にスタクトン、サクラメント、メリスヴィル及びサンノゼ等に作付けられてゐる。

(一〇) 米の作付反別は約二萬一千英加で加州内作付面積の約二割四分を占め、年産額約百三十萬弗。主としてメリスヴィル、チーコ及びサクラメント地方で耕作せらる。

(一一) トマトの年産額は三十萬弗に満たざるも、作付反別約一萬英加で、加州全體に於けるトマト作付面積の約二割三分を占む。主としてロスアンゼルス地方サンノゼ及びサクラメント、コントラコスタ郡、アラメダ郡等にて産出す。

以上の外邦人の經營に係る小麥及びソルガム(此の年産額約二十萬弗)、牧草(此の年産額約三十七萬弗)、甜菜(此の年産額約二十二萬弗)、ハツプス(此の年産額約六萬弗)及び種子物の栽培(此の年産額約六十萬弗)等あれども、種子物の栽培面積の加州全體に於ける栽培地に對する割合約四割に當るものを除き、其の他は各作付全面積に對する割合極めて小である。

なほ參考迄に前記各項の詳細を表示すれば大體左の通りである。

加州農産額と邦人經營農産額との比較(一九二四年度分)

種類	全作付反別	全收穫價格	邦人作付反別	邦人收穫價格
果樹	八八八、〇〇〇	一一二、三一二	五三、八四九	八、〇七七
牧草	二、〇六七	一〇四、六五九	八、三三三	三六九、〇〇〇
葡萄	五二八、四一九	五四、六九〇	五一、〇六四	八、七五〇
小麥、ソルガム	一、〇〇〇、〇〇〇	二五、九九〇	五、五二五	二〇九、〇〇〇
野茶	二一九、七七〇	二〇、四五六	二、三、四三四	六、八四七
棉花	二六三、〇〇〇	一〇、〇八四
豆類	一六一、〇〇〇	一一、七二一	二一、六六四	一、四三〇
瓜類	二四、三六三	一一、〇八四	九、八二四	三、八四〇
アスパラガス	三一、七六〇	一一、〇五〇	一三、八〇九	五、八八〇
甜菜	八四、〇〇〇	七、八二六	二、九三〇	二二〇、二〇〇
米	八八、〇〇〇	七、四六五	二〇、六八四	一、二六〇
馬鈴薯	五六、〇〇〇	六、九七五	一四、八〇五	一、五五一
トウモロコシ	四三、八六〇	六、三九六	九、八七九	二五七、四〇〇
玉蜀黍	一一〇、〇〇〇	五、三一三
玉葱	六一、一九〇	一、七八三	五、五七三	一、五三二

ハツブス	六、〇〇〇	九五七、〇〇〇	三六〇	五七、六〇〇
種	五、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、五一九	三、二五一、九〇〇
物	一、六七七	不明	四、六七七	六〇五、〇〇〇

以上の外養鶏園の一千五百英加、苗木栽培地の八百英加等あるが年産額不明ならず。

一九二九年に於ける日本人農業状態

一九一三年、加州外人土地法が州會を通過實施となつた爲、邦人農業家は非常な打撃を受けたが、よく困苦に堪えて業務を勵み、邦人經營の農業は依然進歩發展を續けてゐた。折柄一九二〇年、修正土地法が一般投票に依つて再び實施されるに及び邦人農家に全く致命的打撃を與へるに至つた。されど茲にも邦人農家は勤勉忍従、難關を開いて進み、今日の地盤を築いたことは寔に日本民族の特質を發揮したものと云ふべく、その前途洋々として多望である。ここに一九二九年の調査に基いた加州在留邦人の携はる農業界を管見して見やう。

邦人經營農業地面積（一九二九年調査）

地方別	英加			合計
	所有地	小作地	管理地	
北方沿岸				
ナツパ郡	二〇	二〇
ソノマ郡	一、一三二	四五五	...	一、五八七
コントラコスタ郡	五四五	二、〇九七	...	二、六四二
アラメダ郡	二八二	三、〇〇八	...	三、二九〇
サンマテオ郡	五一	二、二一一	...	二、二六二

地方別	英加			合計
	所有地	小作地	管理地	
サクラメント平原				
ソラノ郡	八三八	四、七四五	...	五、五八三
ヨローバ郡	一五〇	九、三二三	...	一四、九七三
サクラメント郡	三、一七四	一〇、三五七	...	一三、五三一
プラサ郡	二、二九〇	三、二五〇	...	五、五四〇
ユタバ郡	四一三	三、八五〇	...	七、七八三
コルサ郡	...	二、三三二	...	二、三三二
グレン郡	三三五	四、五五〇	...	四、五八五
ビユーテ郡	二、三三五	一、八二六	...	四、一九七
小計	九、二三五	四〇、二六九	...	七三、七七四
サンオーキン平原				
サンオーキン郡	一五、二九三	一八、三四三	...	四五、一六六
スタニスロース郡	四二〇	六七五	...	一、〇九五
マード郡	一四、〇五〇	三五〇	...	一四、四〇〇
マデラ郡	二五〇	六〇五	...	一、九〇五
フレズノ郡	六、八二二	四、七二二	...	二一、六一四
キングス郡	五四〇	六五〇	...	二、一一〇
ツラレス郡	一、五五〇	七二五	...	三、二九五

作物種類別	北加全耕作面積		北加日本人耕作面積		割合	空	南加全耕作面積	南加邦人耕作面積		割合
	英加	英加	英加	英加						
雜穀類	1,034,526	4,105	2,550	38	
牧草類	93,721	
果樹類	704,728	
葡萄類	600,886	
米類	95,000	
綿類	94,418	
レタス類	92,000	
アスパラガス類	80,125	
コメ類	54,650	
柑類	54,331	
ホメ類	44,210	
トメ類	37,550	
砂糖類	36,383	
野根類	33,273	
野菜類	33,273	
キヤンタロソ類	15,056	
其他メロン類	14,054	
ビロソ類	7,750	
アロソ類	4,560	
莓類	3,530	
合計	3,530	

農業經營者及農園勞働者數(一九二九年調査)

各種別耕作面積と邦人耕作面積及其割合(一九二九年調査)

作物種類別	北加全耕作面積		北加日本人耕作面積		割合	空	南加全耕作面積	南加邦人耕作面積		割合
	英加	英加	英加	英加						
雜穀類	1,034,526	4,105	2,550	38	
牧草類	93,721	
果樹類	704,728	
葡萄類	600,886	
米類	95,000	
綿類	94,418	
レタス類	92,000	
アスパラガス類	80,125	
コメ類	54,650	
柑類	54,331	
ホメ類	44,210	
トメ類	37,550	
砂糖類	36,383	
野根類	33,273	
野菜類	33,273	
キヤンタロソ類	15,056	
其他メロン類	14,054	
ビロソ類	7,750	
アロソ類	4,560	
莓類	3,530	
合計	3,530	

南加州

ローレンゼルス郡	三、五二一
オリエンチ郡	五、五一五
リバーサイド郡	五、一五七
サンディエゴ郡	一、四八二
サンパナデノ郡	一、一〇八
帝國平原	一、三二五
計	四、五九一

サンルイスオビスポ郡	八、五
サンタバーバラ郡	二、一一一
ベンチュラ郡	一、〇五五
計	四、〇一

サンオーキン郡	五、六三
スタニスロース郡	三、六
マセド郡	一、七五
マデラ郡	三、三
フレスノ郡	八、一一一
キングス郡	七、七五
ツラレン郡	二、七五
カリフォルニア郡	二、〇五
計	二、一八五

サンオーキン平原

サンオーキン郡	五、六三
スタニスロース郡	三、六
マセド郡	一、七五
マデラ郡	三、三
フレスノ郡	八、一一一
キングス郡	七、七五
ツラレン郡	二、七五
カリフォルニア郡	二、〇五
計	二、一八五

サンオーキン郡	五、三三
スタニスロース郡	三、四
マセド郡	一、六四
マデラ郡	三、〇
フレスノ郡	八、〇三
キングス郡	七、〇
ツラレン郡	二、六三
カリフォルニア郡	一九、六
計	二、〇九三

北部沿岸

ナットパ郡	七、三
ソノマ郡	八、四
コントラコスタ郡	一、七二
アラメダ郡	七、三
サンマテオ郡	五、九七
サンタクララ郡	六、六
サンタベンイト郡	一、九一
サンタクルーズ郡	二、〇七
モントレレー郡	一、四八四
計	一、三三五

サクラメント平原	九、八
ソラノ郡	八、八
ヨロ郡	五、三九
サクラメント郡	三、四八
プラサ郡	一、二一
サタ郡	三、二一
ユバ郡	一、〇三
コラ郡	二、八
グレン郡	一、〇
ビユー郡	一、三三五
計	一、二六五

地方別

男
女
者
子
供

男
女
者
子
供

總 合 計 九、九九六 九、二八一 三三、〇八六 六、九五二 一、八八三 三、九六五

右表に従ひ此れを一九二三年度の調査に比較すれば、耕作の面積に於て大差なく、殊に所有地は一九二三年度に於ける六萬〇七百七十三英町に比較するに一九二九年は五萬七千〇廿八英町があり、差引三千七百四十五英町の減少に過ぎない。今その増減の跡を見れば、中加等に於ては減退してゐるが各地全帯に亘つて概観するに所有者数は徐々に増加の傾向を示してゐる。特に近年に至つては所謂第二世子女が成長し漸く丁年に達するものが殖え来る結果として、その父兄たる第一世に自然落ちつきを齎す事となつた結果であつた。

さて之等邦人の農園經營方法を一瞥するに、一九二〇年の加州外人修正土地法の實施さるゝまでは無論日本人も三ヶ年以内の借地權を有し居たが、其後全く借地不可能となつた爲め、其の耕作の形式に於て大いに變化を來してゐる。即ち邦人を農園監督人（フオーマン）として雇傭するもの増加し、この形式に依つて邦人管理の耕作農園面積は南北加州を通じて約十萬四千英町と計算され、全體の邦人耕作面積の約三分一強を占めてゐる。更に他の十六萬六千英町は第二世若しくは土地會社の名義、或ひは他の方法に依つて耕作されてをり、日本人所有に屬する五萬七千英町の中、約三萬五千英町は自作農、其他の二萬二千英町の中約一萬六千英町は小作若しくはフオーマンの形式に於て耕作され、殘部の約六千英町は空地と見るべきである。

更に此の耕作面積を南北に比較しみるに、南加は一九二三年以後約二萬二千英町弱の増加を示してをり、これを一九二三年度調査に比すれば二割強の増加率に當る。これに反して北加は約二萬英町を減じてをり、率にして一割の減少となる。その因つて來れる理由は、近年南加州は急激に發展し野菜耕作者が目立つて増加するあり、帝國平原等に於てはキャンタローブ、レタース、トメト等が盛んに耕作され來つた事に因る。これに反して北加州では從來大農式を以て大規模に耕作してゐた米作、砂糖大根等が減少し、稍々南加州の如き小農的耕作の傾向を帯ひ來つた結果と見

るべきであらう。但し管理農園は大仕掛に行はれてゐる。例へば河下地方のアスバラガス、沿岸サリナス、ワツソンビル地方のレタース、帝國平原のキャンタローブ、トメト、レタース等の如き、いづれも給料制度即ち日本人をフオーマンとして耕作に當らしめ居るものである。

尙右の耕作農園から生産さるゝ農作物を見るに、北加州の全面積廿萬英町の中に、小作と空地は約二萬英町と見て差引十八萬英町。南加州も同様と見て十二萬英町、計三十萬英町。右より生産さるゝ農産物は南北加州とも年産額三千萬弗づゝ、合計六千萬弗。因に南加州は耕作面積に差違あれど、生産さるゝ種類が相當違ふものであるから全額上より見れば略々同額と見る事が出来る。

更に加州農園に活動し居る邦人家數を、十二年前の統計に比較すれば、農園經營者の男子の數は九千九百九十六人あり、これを一九一七年の七千九百七十三名に比すれば二千廿三人を増加してゐる。同じく經營者の婦人の數は一九二九年には九千二百八十一人となつてをり、一九一八年度の四千五百六十人に比較すれば約倍加となつてゐる。之によりて見れば、子供の數は十二年度前は僅かに六千五百十人に過ぎなかつたが、一九二九年には一躍三萬二千八百八十六人となつて正に二萬五千人以上の數を増加した。一方農園労働者は之に反して十二年前の統計に於ては一萬五千七百九十四人あつたものが、定住労働者六千九百五十二人、移動労働者約三千人と見て全體に於て一萬人としても、結局五千餘人の減少を來してゐる。婦人は此十二年前に千六百六十六名あつたものが千八百八十三名に殖え、都合二百七名の増加を示してゐる。随つて子供の數も漸増を示し、十二年前は千五百八名だつたものが、三千九百六十五名となり、二千四百五十七名の増加である。

これを以て見れば労働者の大多數は歸國又は經營者に變つたものと見るべく、二千人以上は先づ經營者に進展したものと見做す事が出来る。残り三千人はあるものは都會へ出で、あるものは他の労働者となり、あるものは歸國した

ものと觀察される。尙十二年前には經營者の男子と女子の差が、男六・半に對して女子三半位であつたが、千九百二十九年年度の調査に於ては男一〇人に對して女子九・三人の割になつてをり、その差は次第に低減接近しつゝあり、尙小供の数は十二年前千五百〇八人だつたものが三千九百六十五人となり二千四百五十七人を増加し、一ヶ年約二百名づゝの割を以つて増加した事が見られる。

是等日本人農家十年前以前までは、その過半は一定の住所なく季節々々の仕事を追ふて移動したが、十年後の今日に於ては漸く土着永住の傾向が著しく現れて來てゐる。その有力な原因は一般に配偶者を得、所謂家庭生活に移るに及び自然一定の場所に踏みとゞまり、住み馴れれば附近の事情に通じ外人の友人が出來、自然その地に愛着心が湧くといふ順序を踏むものである。第二世子女と農園關係を見るも數年來第二世の歸農論が叫ばれ、彼等が略一世同様な剛健な氣質を有してをるが農園生活を繼承するかどうかは相當氣遣はれ論議された問題であつたが、それも丁年者の漸次多數となるに伴ひ、浮薄華美な都會生活よりも質實にして安全な農園に興味と希望を向けそめた事が觀察された。

自一九二九年 至一九三九年 日本人農業狀態

一九二九年はアメリカ經濟史上特筆大書すべき年であつて、高く積まれた信用の高樓は倒壊し、經濟界に一大波瀾を惹き起した。かうした經濟界の變動は農業界にも響き、多くの農家も亦破産に瀕するもの多く農耕地の銀行の手に歸したのも相當にあつた。斯くして三〇年三一年を經過したが、ルーズヴェルト大統領の就任と共に、農業救済法が制定され、農家の負債を整理すると共に、長期に亙る農業資金貸付けが行はるるようになり、大部農家は救はれることになつた。而して政府の農産物市價引上げ政策と相俟つて、第一任期の末葉から、第二任期の半ば即ち一九三七年までは農村の復興は顯著なる事實として現はれた。而して一九三八年から翌三九年にかけ農産物は再び下向き傾向

を帯び四〇年の今日に及んだ。

アメリカの經濟界並に農業界の情勢が斯くの如くにして、單り日本人農業がその影響を受けない譯がない。但しその打撃は白人のそれに比し遙かに輕かつたと云へる。それは偏へに日本人農業の堅實性と粘着力の然らしむるところであつた。だが一九二九年の邦人耕作面積と、一九三九年のそれとを比較するならば、總面積に於て約九萬六千英加を減じてゐる。この推定減は主として米作が土地法の嚴峻な勵行により或る者は檢擧投獄された等の事實により、本業が殆んど同胞の手から離れ去つたことに基因してゐる。而して其内所有地が約一萬五千英加（推定）減じてゐると認められるが、これは全く不況の結果農産物が低下し地代拂込みが不可能となり、前地主或は銀行の手に歸したものである。また此十年間に品種耕作面積の移動を見ると、苜蓿、レタス、トマト、砂糖大根、野菜、果物が殖え、米、ポテト、種物などが減じてゐる。今後の發展は一つに第二世農家の双肩に懸つてゐるのである。

茲に特に遺憾に思ふことは、過去十年間の邦人耕作面積及び品種別等農業に關する統計の不備である。一九三九年全加州農業者大會に於てその作製を決議したが、未だ完成に至らず、故に本書刊行に當つても過去十年間の同胞農業狀態は其方面の通曉者に就て調査し、或ひは推定によるの他なかつたことである。但し最善を盡して入手したが、以下の各章であり、それには多くの誤謬の存せざるを信するものである。

日本人の對加州農業的地位要約

在加州日本人が何處で如何なる作物を生産しつゝあるかに就ては、加州日本人經營農園面積及び栽培品種別耕作一覽表並びに一九二九年調査の各品に對する全加州耕作面積と、邦人耕作面積の割合表によつて明かであるが、爾後十年を經過した今日、多少の變動は免れないとするも大體に大差なきものと認め得る。茲に邦人の加州農業上に於ける地位を知る便宜上、其主要なるものを摘記して見ると左の如くである。

北加に於ては苜蓿が三千五百英加栽培されてゐるが、邦人耕作面積は三千三百廿英加、即ち約九十七パーセント、アニオンが八二パーセント、セロリーが五九パーセント、アスパラガスが四五パーセント、ポテトが三六パーセント、ト強、青物が二五パーセント、トメトが二一パーセント、ビーニ〇パーセント、レタス一七パーセントである。更に南加を見るに、青物が九七パーセント、カリフラワー九六パーセント、苜蓿が九三パーセント、セロリー九二パーセント、トメトが八三パーセント、キャンタローブ、其他のメロン類五一パーセント、其他南北加州を合せて果物の約一五パーセント。これを總収入として生産額は其歳々の市價に依り著しき差があるが、大體に於て年産額四千萬弗より六千萬弗の間にあり、前世界大戰の當時は一億弗を突破したが、これは異例である。

結

論

以上述ぶる所により加州邦人農業の沿革を述べ得たと信ずる。以下普通農業より洩れてゐる花園業及び養鶏業の二項目をたづね、最後に我同胞が加州農業界に對し、如何なる貢獻を爲したかを掲げ、本章を結ぶであらう。

顧みれば我同胞は嚴格に云へば過去卅年の間に、絶へざる排斥と困難とをよく忍び、今日の地盤を造り上げたことは、我植民史上に特筆されねばならぬ。而かも渡航者は文字通り赤手空拳で渡米し、労働より事業に入つたもので、祖國に對して幾億の送金と數千萬弗の生命保険をキャリアーし、祖國の大事に際しては應分の金品を捧げて奉公の微意を表すことを忘れなかつた。今や是等尊ぶべきバイオニアは老境に入り、或は他界し、事業は専ら二世の手に移らんとしてゐる。彼等は社會的には兎も角、法律的には立派な市民であり、第一世が嘗めた迫害は先づ受けることはないのである。二世は孰れもハイ・スクール以上の教育を受け、日本精神の長所も持つてゐるのであり、必ず第一世の造り上げた地盤をもつと發展せしめてゆくに相違なく、單に農のみならず、商工方面へも進んであらう。斯くて第一世の奮闘努力も二世これを繼承することによつて一層の光彩を發揮し得る。

日本人經營農産物市場

在加州邦人は夙に農業に卓越せる手腕を發揮し今日の地盤を築いたが、その販賣部面に於てはその進歩甚だ遅々たるものがあつた。その理由は所謂ビジネスにおける白人の實力の強大さと優秀性に因るほかに、邦人自身この方面に積極前進を考慮し始めたのはその農業着手に比して遙かに後年に屬するが故である。この間にあつて氣を吐きつゝあるはロサンゼルスの大市場（別記参照）である、サクラメントの同胞市場並びにフレズノのそれである。但し後二者は羅府のそれに比して同日の談に非ず、なほ將來二世によるその充實を期する他はなく、また桑港は完全にイタリア人に支配されてゐる現状である。桑港の周圍百哩圓内には邦人農家頗る多く、市場への生産供給の八割は實に邦人によつてなされてゐるに拘らず、邦人の勢力は更に市場に反映し得ない實情にある。即ち早くより市場に地盤を据ゑたイタリア人は、背後にイタリア銀行系の大資本を持つて市場を支配しつゝあるのである。邦人識者は夙に同胞市場の設立を叫びつゝあるが、資本のなきこと、農家の不結束によつてその設立は甚だ困難視されてゐる。これは誠に邦人經濟上の悲しむべき事實とされるが、これも二世に期待する重要問題の一つとされてゐる。シアトルには市營の農産市場あり、邦人は自作生産品を自己の手によつて有利に賣捌きつゝある。單り桑港のみ同胞市場を有しないことは北加邦人農産經濟上の一大未解決問題として殘されてゐるのである。

羅府の第七街市場

羅府市には農産物を動かす大市場が二つある。その一つは日米人の協力に成る第九街市場で、他の一つは南太平洋鐵道會社出資に依る第七街市場である。此市場は二百五十萬弗の大資本に依り建てられたものだけに、規模雄大で世界第一の市場と言はれてゐる。こゝに所屬する邦人仲買商に數名あり、また農家も多數

關係して居るのであるが、第九街市場に「南加農業組合」がある如く、第七街市場にも「日加農業組合」なる有力團體がある。而して九街市場の組合が農業者だけの團體で、仲買其他の商人はこれに加入しない事になつてゐるに反し七街市場の日加農業組合には仲買商人も亦加入し得る事になつてゐる。この點兩者の内容に相違はあるが、農家及び仲買商人の福利増進、權利擁護の目的に出て居ることは同一である。たゞ九街市場は多く地廻りの産物を取扱ふに引換へ、七街市場は設備雄大、引込軌道も敷設されてゐるので鐵道との連絡が至便で、自然東部市場に送荷すべきものを多く取扱つてゐる。南太平洋鐵道會社が多額の資本を投じて七街市場を作つたのも、實は貨荷吸集策に出たものにならず、此點よく其目的に伴ふ營業振りを行ひつゝある。

此第七街市場内の日加農業組合は第七街市場の設立される以前に元第三街の舊市場内にあつた。その設立は一九〇九年七月十日で、加州政廳の公認を受けたのが一九一一年一月であつた。當時僅か十數名の邦人青年が同胞農家の大勢を豫測して設立したもので、板野富五郎初代組合長、丸山榮三副組合長以下堀愛次郎、永井二五郎が參謀格となつて組合の伸張發達に盡瘁したが、一九一二年には堀愛次郎が選ばれて組合長となり、其翌年は加崎爲次郎、一九一四年には堀愛次郎再び組合長となり、同一七年まで其位置に居たのである。而も一九一八年に現在の第七街市場がエスビー鐵道會社に依て建設され日加農業組合も此所に移るに至つたのである。

以上の如く日加農業組合は元の第三街市場に於て産れ今日の第七街に移つて伸展を見せて居るのであるが、此間約三十年の間組合長として指導の任に當つた人は左の通りである。

板野富五郎、堀愛次郎（六年勤続）、野島仲藏、仲田榮次郎、土橋亘、吉川豊松（三回）、三川友平（四回）、的場駒次郎、熊本俊典（五回）、松下喜三郎、柳本武作、福山勇次郎、津村篤司、吉井明太郎

以上の十四名は三十年に亘り組合長として盡力したのであるが、これを授けた組合幹事は何れも日本或は米國大學

の出身者であつた。日加農業組合の設立後十數年は農家の會員四百名以上もあつたが、今日は約百名即ち最初の四分の一に減じ、別に農産物仲買商が入つて會員となつて居るが、農家會員の減じたのは各地方に各々農業組合が設けられ、中央市場に直接關係の必要が減じたためである。

第九街市場の創設 南加日本人農業の今日の伸展振りは一に懸つて羅府の二大市場の建設にありと謂つてよいのである。二大市場とは現在の第九街市場と第七街市場とを云ふのであるが、就中第九街市場は邦人農産業に貢獻する所が甚大である。元來邦人農業は一九〇一—〇二年頃より始つたもので、當時の羅府青物市場はブラザ附近と第九街で、ロサンゼルス街に些細なものが在つたに過ぎなかつた。次で周圍の發展に鑑み第三街に移轉したが、日本人營業者との折合が取れぬ爲め別に第九街市場と云ふものが生れ、遂に今日の隆々たる地位を占むるに至つた。第三街市場當時邦人最初のコンミッション商人として泉常吉、市川佐吉の兩名がアイ・アイ商會を創設し、また山田甚太郎、中川福太郎、前田三名がラグナ商會を、森文五郎、福島雷次郎の兩名は加州農産商會をまた寺門、一木の兩名も仲買店を開いて事業の先驅となつたことも記憶すべきである。

一九〇三—〇四年頃まで邦人農家に先立ち羅府の第三街市場に生産物を出荷したのは支那人であつた。當時の野菜市場は未だ今日の如く發展せず、邦人耕作者もまた此所にストールを借り、殘存荷物を賣り捌く程度のものであつた。第三市場側もまた喜んで邦人農家を迎へ種々の便宜を圖つたものであつた。然るに其後羅府人口の増加著しく市場も頓に活氣づき、出荷産物も増加して來たので市場側の邦人農耕者に對する待遇は自然昔日の如くでなくなつた。爲に出荷者も稍々小競合の姿だつたが、支那人耕作者が追々退轉し、邦人耕作者は益々激増して一九〇八年には六、七十名に過ぎなかつた農家が一躍して百廿名に上るに至つた。

この時邦人農家の一ヶ年の總賣上げ高は七十五萬弗乃至百五十萬弗と豫想され、非常の優勢を示めし來つたので、

市場は漸やく狹隘を告げ邦人農家中には必要なストロールさへも賃借りし得ざる者が續出する等、一方ならぬ混亂を重ねた。然るに市場社會は毫も改善の道を講じやうとせず、只不足勝ちなストロールの賃賃料を引上げんとする傾向を示した。

この混亂状態は一九〇三年頃より一九〇七年頃まで續いたのである。然るに邦人農家の進出に伴ひ、白人、支那人農家は其勢に押されて轉業者續出し、羅府近郊の野菜園は遂に日本人の掌中に收められる觀を呈するに至つた。而も日本人は市場組織に付て何等容喙の權利がない爲め、利益は白人等に壟斷され、市場組織に就て何等改善の道も講ぜられなかつた。而してストロールの借賃の如きも四弗が一般に普通なるに、東洋人には十四弗といふ不當料金を要求され凡ゆる壓迫を甘受する外はなかつた。此時市場會社と意見を異にしたシンブソンなる米人の計劃及び内提案もあり、日、支、白人農家も互に氣脈を通じこれに賛成し、亦研究も進め遂に一九〇九年六月第九街とサンビドロ街の角に約一ブロック四方の新市場を開設した。これが現在の第九街市場であるが、こゝに到るまでの一九〇二——〇三年より一九〇八——〇九年に至る五六年間と云ふものは、邦人農業者は白人支那人を引つくるため第三街市場を中心に一種の混亂時代を経過したのである。今日は毎年一千九百萬弗乃至二千萬弗内外の産物を吞吐し、南加南物市場の中樞として邦人仲買商廿餘名を始め白人支那人の當業者も抱擁し、更に色々の農産調節機關並びに販賣組合等の事務所を市場内に置き各自の任務を完遂するとともに、附近には農家の便利の爲めホテル、飲食店等幾多の店舗が並列し、宛然産業王國の觀を呈して居る。

第九街市場現在の社長はフレミング夫人で、副社長は木津由松であるが、創立當時はフランク・シンブソンを社長にホウリー・ザイザアの兩名を副社長に、日本人澁谷清次郎を秘書役に、ヒルコピッチを會計に擧げ、資本金廿萬弗を以て加州政廳の認可を得た。其後シンブソン社長は三年にして自己持株五萬五千株を第七街市場關係者に賣却し、

社長を辭任するなど第九街市場の躍進途上に一大支障を起さしめたが、幹部は社長の辭任に疑義を挿み關係者協議の末、社長の持株を日本人關係の南加農業組合に買収するに決し、これを實行して混沌時代の難關を切り抜けた。其手續きは前檢事正であり今は辯護士であるフレミングに依頼したのであるが、同時に日支人側の發議に依りフレミングを社長に立て、廿幾年間の苦心經營其宜しきを得て今日に至つたものである。フレミングの歿後未亡人を社長に、副社長山田甚太郎また故人となつたので、木津由松其後を繼ぎ現在に至つてゐる。

南加農業組合 第九街市場の創立關聯して茲に忘るべからざるものは南加農業組合の存立である。此組合は第三街市場の存立當時、邦人出荷者統一の必要上、久保吾市、原武市、大塚直太郎、久保常三、阿部祿郎、中川福太郎、泉、澁谷、板野九名の盡力の下に生れたもので一九〇七年十月久保常三を會長に擧げて設立した。目的は邦人農家の統一と其利益擁護の爲めであつた。現在の第九街市場の成立當時より今日に至るまで三十有餘年間それと表裏關係を保ちつゝ邦人農家の擁護及發展に努め、併せて第九街市場の創設に就ても亦其伸展に就ても貢獻するなど特別の働きをなしたのである。現に事務所を第九街市場内に置き有給の専任幹事をして關係農家に奉仕し、一方組合と市場會社との連絡提携に就ても努力を捧げつつあり、邦人社會中活きた團體の一つである。

花園及び植木業の経路と現況

緒言 同胞花園業並びに植木業はその歴史既に半世紀に達してゐる。即ち一八八六年（明治十九年）北加州オークランドに於ける吉池寛、堂本兄弟に端を發した斯業は、總てその附近へ、桑港へ、桑港半島へ、沿岸へ、南加へと伸び、一九四〇年現在に於ては南北加州に於ける同業者は約三百戸、栽培面積二千英町に近く、生産年額三百萬弗を突破する重要産業となるに至つてゐる。而してその販路も太平洋沿岸は素より、山中部、東部にも及び、花卉に關

する限り邦人の地位は少くとも他を壓して異彩を放ちつゝあるは特筆すべきである。絶えざる排日の重壓下に邦人花卉業者の斯る發展を來したことは、一に邦人の勤勉力圖の賜であり、特に農業に優秀手腕を發揮した同胞が、花園業に於ても卓抜の技能を示して、健實の伸展を續け來つたことは民族的誇りでなければならぬ。

他の理由としては加州は四季温暖であり、米人の花卉需要の旺盛に加へ、邦人の優秀手腕を得て花園業の發展を見たことは自然である。また同業は他の農業に比べて比較的小規模の土地によつて生産し得ることなども邦人斯業者の伸展に好都合の結果となつた。更にこれを市場關係より觀るに、花園業はその生産に制限ありて市價保持に容易であつたことなども業者の基礎確立に重要素因をなしてゐるのである。また需要に變遷乏しきことは永續的職業として好個のものとなされ、第一世の後を繼いで第二世が漸く活動しつゝある點も注意すべきである。

花園業者の底力

邦人花園業者は上記の如く極めて優位にあることは、過ぐる一九二九年末の不況、一九三二年初頭の經濟大恐慌時にも一名の破産者も出でなかつた。即ち土地に基礎を置く生産業者の如何に根強きかを想はしめるに足るものであつた。斯くて北加の同業者は下に説く如く一九〇六年早くも組合を設立し、後ち一九三二年(十一月一日)に至つて白人同業者市場と同株數、同數の役員、同等の權利に基く新會社を組織し、花園業者共同の福利増進に向つて進みつゝ今日に及んでをり、なほ將來とも日白人協力事業として發展せんとしてゐる。

北加業者の現況

一九四〇年現在北加に於ける邦人花園業者の實勢を觀るに、その數約百四十餘戸の多きを算し、その生産品總賣上げ高は年額大約百五十萬弗(一九三九年度調査)内外と推算される巨額に上つてゐる。更に栽培の温室(グリーン・ハウス)面積は三百五十餘萬平方フィート、野外耕作面積百五十餘英畝、就働人員總數約千三百名を數へる盛況を示し、栽培の花卉種類は數百の多き上るが、邦人獨特のものとしてその優秀を誇りつゝあるものは、菊、薔薇、石竹(カーネーション)で、その市場に於ける地位は壓倒的に優秀である。

これに加へて特記すべきは、同業者が甚だ有利の販賣機構を有すること、即ち耕作者自身その販賣所を所有し、直接顧客に供給し得る立場に在り、斯る組織を持つ所は桑港市場以外に僅かに羅府、ボストン(小規模)のみで、他は悉く仲買機關によつて生産品を賣捌きゐる状態である。斯の如く邦人花園業者は桑港、羅府ともに他の民族を遙かに抽んでその追隨を許さざるに至つたことは、邦人の秀抜技術ととも即ち以下に説く如き幾多の苦闘を経てゐるが故である。

光輝ある花園業の先驅者

前述の如く在米邦人花園業の先驅者は吉池寛、堂本四兄弟であつた。その努力は斯業創始の光輝を擔ふものであり今日の伸展に至らした功勞者である。

吉池寛と菊花

吉池寛は一八八二年(明治十五年)渡米、オークランドに於て米人家庭に就働しつゝ其の庭園の一部提供を受けて花卉を栽培したが、偶々日本の菊花の米國移植を思ひ立ち、一八八六年菊花數種を携へて渡米再びオークランドに於て一英町内外の土地を借り入れ他の花卉とも菊花試植を行つた。これが在米邦人の花園の濫觴であり、また菊花園の魁をなしたものであつた。吉池のこの菊花試植は相當の成績を收め、市場に於ても歡迎を受けた吉池はこれに力づき更にオークランドの地味の菊花栽培に好適性を有するを知り、専らその改良増殖に努めること五ヶ年、漸く財力を得るに至つたので更に新耕地に移轉擴張をなし、五棟の温室を設けて菊花のほかカーネーションをも栽培の先驅をなしたものであつた。

註 吉池寛は長野縣小諸郡鹽川村の産、安政五年生明治十五年(一八八二年)十月廿日渡米、時に廿四才。初め東京に出て、中村敬字の門に學び、米國遊學の目的を以て渡米したが、知己を訪ねてオークランドに入り二十二街とリンデン街角、米人バアス

トウ夫人邸に學僕として就働その間裏庭の一隅に好む花卉を栽培し、端なく日本の菊花對米移植を發意して一八八六年末一旦歸國、結婚して夫妻は翌年一月大輪の菊花苗を携へて渡米、再び前記バラストウ夫人の後庭を借り入れ、同家に就働しつゝ菊の栽培に努めた。吉池はその成績は豫期の如く良好であり、且つ米國に於ける花園業の有望性を察し、當初の東部遊學を延期して花園業に専念するに至つた。當時米國には支那より輸入にかゝるボンボン（小菊）は既にあつたが、大輪の日本種は初めてでありまた植木より切花の賣行き良好の時代であつたため、吉池の專賣する日本菊は米人間に珍重された。吉池は最初行商したが、生産に限りある菊花其他のみでは素より生計となすに足らず、夫妻米人家庭に働きつゝ餘暇を以て栽培し、夕刻よりブロードウェイ並びに第十四街角に携行し露店を張つて菊花を賣捌いたのであつた。また市場なく一定市價なかつたため、一輪廿五仙或ひは五十仙、七十五仙、更に一弗と隨時に高下を以て賣り應じた有様であつた。

斯くすること五ヶ年、資金漸く積み得たので一八九〇年、第十六街とウイロー街の空地に移轉、約一英町の土地にグリーンハウスを自家設計によつて五棟を建て、後菊と共にカーネーションの栽培も併せ行つた。また菊花は逐年の改良によつて改善され、東部米國に送つて大好評を受けるに至つたその間米人にも研究するもの現はれ、ドウナア・スミス、ヒル・スポウリデングなどの米人は吉池また堂本（別項参照）などの指導により東部米國に於ける菊花栽培の先驅者となり、それら新工夫をして新種創始の功勞者である。

吉池夫人繁子またよく初期より夫を助け、子なき爲め餘暇を擧げて花園の手入に割き、少量の養鶏をなして家計を補ふなど終始内助を續けた。一九〇四年（明治卅七年）十二月廿七日、伏見宮貞愛親王殿下桑港御立寄りの節、帝國領事上野季三郎御案内申上げ、吉池の花園に成り遊ばされたが、台臨を忝ふした吉池夫妻は畏みて愛育の菊花を殿下に捧げ奉つた。殿下は繁子に「そなたのお兒は」と御尋ねあり、繁子は「私の兒は恐れながらこの花でございます」とお答し、殿下には御感深く拜されたとの佳話も残されてゐる。

吉池夫妻は斯くて次第に財を蓄へ一九〇六年、桑港大震災後、花園業を退き、龍野鉦次郎（桑港日米物産社長）と協力し、桑港グラント街附近に貸家を建て、事業順調であつたが、一九一一年夫人死去、支那街の貸家もポイコットなどあつたが、以來自適の生活に入り、山野跋渉と漢詩を樂しむ、後幾干もなく歸國した。

堂本兄弟と植木

花園業の鼻祖吉池寛に對し、植木業の先驅者は堂本兄弟である。長兄譽之進は次弟兼太郎と共に一八八四年（明治十七年）渡米、翌年兄弟謀つてオークランドの空地を借り入れ、植木と草花（菊、カーネーション等）の栽培を始めた。即ち邦人植木業の魁けをなすものであつた、兄弟共に専ら主力を勞働に注ぎ、餘暇を

以て花園に努力したこと吉池と同様であつた。兄弟は花園を充實せしめたが、特に日本種の植木が白人市場に於て歡迎されるに着眼、以後は椿、藤、萬兩、躑躅等を每便船毎に日本より輸入、殊に百合球根の如きは一時獨占的の營業であつた。事業漸く擴大とも一八八七年（明治二十年）には次弟元之進を、續いて一八九〇年には末弟光之進を日本より渡米せしめ、共に花園業に奮闘した。その花園も自然狹隘となるに至つたので一八九〇年（明治廿三年）に移轉擴張を行ひ二英町の土地を買入れ、花園を設備し住宅を建てた。この二英町の土地こそ米國における邦人土地購入の最初のものとして史上特筆すべき價値を有するものである。其後二ヶ年にして更に隣接地二英町をも買ひ入れ、温室を建て、菊、薔薇、カーネーション、椿、百合等を手廣く栽培、小賣とも卸賣も始め事業漸次充實するに至つた。越えて一九〇四年には大擴張を目指して再度移轉し一舉卅五英町の土地を買収、あらゆる花卉植木を網羅し、一時その面積四十英町に達し販路は全米、歐洲にも及び、太平洋岸屈指の大花園となるに至つた。

註 堂本兄弟は和歌山縣那賀郡田中村出身（長兄譽之進は二十才、兼太郎十六才にして一八八四年十一月十八日英國船オセアニック號にて桑港着、譽之進は桑港エディー街のゴールデンゲート・ハウスなる下宿屋の掃除人となり、兼太郎は學僕として米人家庭に入つた。兼太郎は後ちストロ公園に日傭人として勞働し、またシアトル附近にて伐木仕事に従事した。堂本兄弟が植木花園業に入るに至つた動機は、兼太郎がストロ公園に就働中のことであつた。斯くて兄譽之進を説いて一八八五年（明治十八年）十二月、オークランドに初めて花園に着手したのであつた。その場所はオークランド市第三街とグロウヴ街角の空地で、こゝに植木と草花の栽培を始めたのであつた。これが後年の堂本大花園の基礎となつたのである。

「當時オークランドは人口なほ四萬に満たざる小都會であり、寂寞極まるものであつた。現在と比較して今昔の感に堪えず。また日本人も桑港、灣東一帶合せて漸く七十餘名に過ぎず、大部分血氣の青年であつた」とは堂本兄弟の述懐である。

譽之進は此間にも依然ゴールデンゲートハウスに働き、兼太郎の植木花園業の資金を助けた。その間持主は五代も替はつた、最初三弗の週給は數年後に十弗となり、當時掃除人としては破格の給料であつた。譽之進はこの長期間兼太郎の植木園に資金を貢ぎ、兼太郎は花園に専念したのであつた。兼太郎の切花、植木販賣方法も最初は露店を張り或ひは行商して賣り捌いたものであつた。

斯くてオークランド市セントラル・アベニューに移轉したのは五年後であつた。こゝで邦人史上特記すべき二英町の土地初購入

をなし、更に二英町を買収し日本より更に第二人の渡米あつて事業益々充實、一九〇四年第二回の移轉發展を行ひ、王府クラウ

ス街に移り、卅五英町を購入、こゝに名實具備の大花園をなすに至つた。

これより先、堂本兄弟は一八九六年、桑港オフレル街のテイラー街近くに堂本兄弟商會を起し、自家花園の生産品を販賣したが、二ヶ年後にはそれらの他に在米邦人へ供給する食料品雜貨輸入を始め商店は専ら譽之進が當つた。更に一九〇六年桑港大震災の年、北米貿易株式會社を創立し現在に至つてある。斯くて譽之進は中途商業に手腕を發揮してそれに轉じたが、堂本兄弟は引續き花園業に當り、また桑港花卉市場の卸賣部は元之進氏これを擔當してゐた、なほ末弟光之進氏は先年病歿した。

その他の花園業パイオニア

吉池、堂本兄弟らの花園業パイオニアの努力漸次報ひられ、斯業の有望なること確證されるや、桑港、オークランドを中心にして附近各地に相次いで邦人の花園業者の進出を見るに至つた、いづれも初期時代の苦心を嘗めたものであり共に録してその功勞を記述し置くに足る人々である、即ち次の諸氏であつた。

林廣吉(福岡郡小倉出身) 一八九九年渡米、初めアラメダにて苦學し、のち堂本花園より植木類を仕入れ、アラメダにて花卉植木類の小賣店を開き、後年菊及び植木園を經營、更に王府第七十三街に移り、薔薇、石竹、鉢物等の栽培を手廣く經營中で、堂本に次ぐ花園業の古老で、兄弟の南國太郎、北野友一も長兄林と同様花園業者である。

塚本松之助、佐藤九藏、丹正之 一八九〇年、上記三人は共同にて花園と植木業を始め、カーネーションと鉢植物を主として栽培してゐたが、翌年これを大石徳太郎に譲渡した。塚本は千葉縣出身、のち邦人洗濯業界の先驅者となつた。佐藤は静岡縣出身、一八九一年桑港マーケット街と第十六街附近に於て花園業を經營、一九〇三年頃オークランドに移り、木村久太郎兄弟と共同にて紀遠花園を經營した。丹正之は愛媛縣出身、花園轉業後サンタクルーズにて洗濯業を開始、同地日本人會々長に推されたことあり。

大石徳太郎(兵庫縣出身) 一八九〇年渡米、翌年サンノゼに於て上記塚本らの花園を繼承し、主として植木業を經

營、アルビツ、アゲニウ地方の邦人發達の基礎を作り、一九〇八年ステージに移轉し、のちオークランドに再移轉今日に及ぶ。

木村久太郎(和歌山縣出身) 一八九五年、弟坂田芳之助及び同縣人兒野市太郎、並びに鳥井某と共に桑港イングルサイドにて花園業を營み、主として石竹を栽培した。後ち轉業しビスカテロにて木村農園を經營中。實弟坂田芳之助は現在もオークランドにて花園を經營中。

鍋田彌太郎(和歌山縣出身) 一八九二年渡米、庭園就働をなしつゝ花園業を研究、一九〇〇年パークレーに於て弟豊吉と花園を始め、三年後ステージに移り、百合、石竹等の栽培をなしつゝあつたが一九二八年春死去、息虎太郎これを繼承經營中。

岡田角品(和歌山縣出身) 一八九二年渡米、一九〇三年東オークランドに花園業を創始、主として薔薇を栽培、のち成功歸國。花園は木村久太郎の弟西山勝吉これを繼承。

横濱植木株式會社(横濱市) 同會社はカルフォルニア州に於ける植木及び花園業の有望に着目、一八九四年(明治廿七年)オークランドの隣接地ビードモントに二英町の土地を買入れ、花卉植木類の栽培と直輸出入を營んだが、營業方法堅實を缺いて收支償はず、數年にして事業失敗に終り横濱に引揚げた。

尙この他に斯業に着手し先驅者的苦闘を重ねたのは左の人々であつた。(括弧内は出身縣と活動地)

鶴岡英哉(愛知、王府)、足立伊三郎(岐阜、ステーチ)、福住宇吉、同博兄弟(神奈川、王府)、松山源之助(和歌山、ステーチ)、前田熊吉(和歌山、ステーチ)、末安松太郎(福岡、王府)、兒野市太郎、同茂一兄弟(和歌山、王府)、酒井厚太郎(兵庫、ステーチ)、高橋幸太郎(高知、王府)、谷口虎次(東京、王府)、是松角三郎(福岡、王府)、藤井隆太郎(群馬、ヘイワード)、古田仙之助(和歌山、ステーチ)

當時はなほ自動車なく、堂本兼太郎らは馬車によつて運び、桑港サター街グラランド・アベニウ附近の米人花卉店前

に車を留めて販賣し他の花園業者小賣店が集り、街上に市場を展開した。これらが漸次向上し、同業者の團結を促進する結果となり、後年の花卉市場結成の素因をなした。

外人壓迫と獨立市場の組織開設

如上の先驅者の努力によつて着手された花園業は其後年ととも伸張を續けたが、素よりその努力は尋常一様のものでなく、經營難、資力難、販賣難は常に業者を苦しめた。即ち乏しき資力によつて生産した切花、植木の類もその販賣に一大努力を要した。市場なく卸商と何等の連結なかつた初期にあつては、概ねこれを柳行李箱などに入れ、自から擔いで小賣店を巡廻、賣捌きに當つたのであつた。

更に白人間には當時より既に排日氣勢昂揚し始め、邦人花園業者が事業漸く順調ならんとしつゝあつた一九〇〇年（明治卅三年）には、桑港市長フエラン及びスタンフォード大學教授ロス等は既に排日演説を行ひ、一般下級労働者らを煽動して邦人排斥を決議する等のことあり、排日風潮は素より花園業者にも及び、白人斯業家は邦人同業者の伸張しつゝあるを目して脅威となした。當時桑王兩市の花卉需要には自ら限りあり（當時桑港の人口三十餘萬）、邦人同業者の擡頭を強敵として警戒し始め、特に邦人側が技倆の優秀を顯はし來り、勤勉力行を以て廉價良質を具へるに及んでは益々邦人に對する反感を強めるに至つた。その頃桑港の如きも治安なほ今日の如くならず、市井には無頼の徒多く、不良性労働者が屢々邦人花園業者の販賣途上に罵詈を加へ投石等の蠻行をなすものあり、白人業者はまた小賣店に對して邦人を惡宣傳し漸く壓迫を露骨に示すものゝ多きを加へた。

桑港震災と業者

白人の壓迫ととも一九〇六年（明治三十九年）四月十八日、桑港を中心として附近一帯に稀有の大地震が襲來した。この爲め桑港は甚大なる打撃を受け、家を失ふもの三十萬人と云はれた。これによつて

貧澤品と考へられてゐた花卉の需要全滅を豫想せしめたが、病者、葬式等を始め罹災者慰問等に意外に花卉の需要續き、更に震災後の復興事業の進捗、労働者の激増等は却つて好況を招來し、花卉類は意外の需要を發見した。特に同年五月卅日のデコレーション・デー（墓參日）に於ける花の賣行は空前の景況を來し、邦人業者も多大の利益を收めるを得た。

備考 桑港震災には住民一齊に罹災者に對して救濟手段を講じ、邦人側も救護會を組織し應急諸方法を執つたが、花園業者はその構え比較的廣き爲め桑港の假收容所として活動した。桑港に於ては萩原茶園、赤木庭園、灣東にあつては堂本、紀遠兩花園などが温室を開放して一時多數の難民を收容した。

市場設立成る

邦人花園業者は斯くて逐年その數を増し來ると共に産出の花弁も品質も年々向上を示すに至つたが、外に上述の如き白人の壓迫漸く加はり、花卉の販賣はなほ苦難多く、また従來行ひ來つた街上市場は市當局より禁止を命ぜられる等のことあり、且つ市價保持の上よりも組合設立の必要が痛感されるに至つた。依つて一九〇六年、有志相寄つて愈々組合組織に進み、『加州花卉栽培業組合』を創設した。當日は排日旺盛時であつたため市場に充つべき場所の入手も困難であつた。苦心の結果、堂本兼太郎はブッシュ街に近きカーネー、モンガモリー兩街間のアリーに一軒を借り入れ、組合はその店舗一部の提供を受けて初めて花市場を開いた。即ちこれが加州邦人花卉市場の濫觴である。但し同所は間もなく狹隘を告げるに至つたので、ブッシュ街（カーネー、モンガモリー街間）の一地下室を借り入れて市場増設を行ふまでに伸張した。

當時邦人は支那人、白人と共に同一建物の中に競争的に市場を開いてゐたが、その勢力は彼等を凌ぎたる爲めその嫉視反感も強きものがあつた。但し花卉の供給上邦人を無視しては市場價値の失はるゝを懼れて邦人驅逐とまでは行かなかつたが、偶々更に市場増設を企つるや、イタリヤ人を中心とする白人同業者は邦人排斥の實行を企て、先廻り

して家屋所有主に對日本人貸與の拒絶を勧め、邦人側に對しては夙に之を借り受けたりと稱して立退きを要求した。邦人組合側は即刻對抗策を講じ、同所より一丁を距つる加州劇場跡を借入契約して新市場を開いた。新市場には小賣商の大半來りて仕入れをなし、邦人花園業者の實力を知らしむるに至つた。

更にこの市場もまた狹隘と不便を感じ、市場専用の建物を必要とするに至つたので、一九一四年二月、新たにセント・アネー街に二階建て煉瓦造りの一屋を借入れて移轉を決定した。建物階下は堂本花園の卸部とユナイテッド花店等が使用し、残り全部は盡く市場に充て、階上は在米日本人會、桑港日本人商業會議所、犬飼商會が使用した。こゝに活動すること八ケ年、一九二二年に至つて第五街とハワード街に、日白人共同市場を新設、支那人市場も加へ、卸商其他あらゆる機關を集め大擴張を行つた。

更にこの市場のリース權は一九二三年八月の役員會の決議を経て家主マクドナルド・エステート會社に四萬七千五百弗を以て譲渡し家主は大改造を加へ、一九二四年三月に至つて現在の市場を開業した。(別項参照)

業者伸展の機會

排日と苦闘しつゝも、花園業者にはまた伸展の機會もあつた。即ち一九一五年のパナマ太

平洋萬國博覽會、一九一八年のスパニシユ・インフルエンザなどがそれであつた。一九一五年二月より桑港に於て開かれた上記の萬博には直接には、花卉の需要は豫想ほどの需要はなかつたが間接需要相當多く邦人業者を利するところ少なくなかつた。また同萬博中の花卉植木類展覽會には邦人よりも多く出品してその優秀を賞讃され、澁谷良弼は大輪菊花を以て最高賞の金牌を受けた。特に業者を忙殺せしめたのは實に一九一八年末より流行したスパニシユ・インフルエンザ(西班牙風邪)であつた。當時桑港一帯は素より各地とも病者死者續出し、弔問、葬儀等に花卉の需要激増し邦人業者はその生産増加と出荷に晝夜兼行の活躍をなした。自然市價は暴騰し、菊上等品六打束十九弗、薔薇同二打束八弗、カーネーション同二打束二弗五十仙を唱へ、邦人同業者を利したこと莫大であつた。

菊の新栽培法

邦人花園業者が第一に栽培を試みたのは菊であつた。五十餘年前吉池寛によつて試植された菊は遂に邦人によつて大成された。現今その産地は氣候風土の關係上サンマテオ以南の桑港半島、特にレッドウッド・ベルモントを中心地としてゐる。初め菊苗を同方面へ携行し、新式チース・クロス(白布)棚内に於て栽培し始めたのは邦人では榎本榮一であつた(一九〇八年)榎本と前後して上利與一、澁谷良弼、錦本、山本が栽培を試み、順次發達して今日の成功を見たのである。

従來菊は灣東地方に於て温室栽培を主としてゐたが、費用と品質の關係より屋外栽培の氣運動き偶々レッドウッド奥村甚次郎が一米人菊花栽培者がチースクロス棚内栽培しつゝあるを目撃し、その有望に心づいて菊作りに手腕ある榎本榮一を説き、更に改良を施して此方法を實行せしめた。その結果は良好で一打七五仙乃至二弗(平均一弗廿五仙)を以て販賣し得た。

チースクロス應用の菊花栽培の有望を知つた邦人は同方法によつて菊の栽培を行ふもの増加し、一九〇九年にはサンマテオに江頭辰藏、上利與一、ベレスフォードに假谷、藤松、山口梅藏、レッドウッドに榎本、澁谷、石田、マウンテンヴェューに木永、奥安次郎、奥卯之助らが之を栽培し、その數二十萬本に上つた。但し同年の結果思はしからず、小形の花多くして市場向きとされたのは大形は約三萬五千本に過ぎなかつた。

其後も引續き改良を加へて今日の優秀を招來するに至つたが、その進境を示した要因はチースクロス栽培法であり、これを最初に發見したのは米人ヘンリー・ゴーチヤイン(Henry Goetzain)で、それに倣つて前記榎本榮一、澁谷良弼らば温室と野天作りを折衷し、チースクロス作りに成功したのであり、今日に於ては絶對的に他人種を凌いで市場獨占の盛況を示し、諸花卉中薔薇に次ぐ重要地位を占めるに至つてゐる。

菊花園發達経路

桑港半島の邦人經營花園は素より菊のみではないが、それを大宗としてゐるのは事實で、

菊を中心に發達したものであり、その發展経路を示せば左の如くである。

サンマテオ地方 ▲一九〇六年和田サンマテオ・ホームステッドに初めて花園を經營し菊を栽培す▲一九〇八年上利興一、錦本一郎、山本善太郎の三名、和田の後を繼承し共同經營す▲この年よりチースクロース栽培開始さる▲假谷藤松、山口兩人共同にてベレスフォードのマクラレン地所を借入れて花園を始め、温室四棟、薔薇、石竹を主とし、菊、花豌豆を兼ね栽培す▲同年江頭はホームステッドにて菊一英町を試作▲一九〇九年山田萬吉ホームステッドにて菊栽培開始▲一九一〇年前田清四郎ベスフレオードにて菊栽培開始、中尾開業▲一九一一年廣瀬茂保兄弟菊花栽培開始▲一九一三年江頭、森、廣瀬、假谷、前田等ベスフレオードに轉住「日本人菊村」を現出、當時より六打束の販賣始む▲一九一三年同年より菊花の州外販賣開かれ、シアトル、ポートランド、シカゴ、セントルイスに輸送始む▲一九二〇年菊花栽培業者増加、株數二百二十萬、小菊作付反別六英町に達す▲一九二四年初めて紐育に菊出荷好評を得▲一九二八年ベルモント・サンマテオ地方に十六萬の邦人菊栽培者を數ふ。

レッドウッド、メンロパーク地方 ▲一九〇七年榎本榮一菊花試作、翌年栽培面積三英町に擴張▲一九〇八年澁谷良助石田二人共同にて二英町の菊栽培開始(同年ヘンリー・ゴーチイーンはチースクロース栽培法を試む)▲一九一〇年山口、北川鯉龜馬の二人、各二英町に菊、石竹、花豌豆を栽培▲一九〇九年この頃菊栽培株數約十五萬株、悉くチースクロースを用ふ▲一九一一年眞野二英加、槍垣信男、井上琴治ら五英町に温室物及び菊花栽培始む▲同年澁谷良助小菊栽培を開始▲一九一二年田村政三郎、池水、服部近二、増原ら開業す▲同年球根類を作り始む▲一九一三年三谷、鍋田駒太郎、犬塚ら開業、澁谷メンロパークに移轉▲一九一六年井町父子開業▲一九一八年足立淺十菊栽培始む▲一九二八年同年業二十一戸に達す。

マウンテンビュー、サニバール地方 ▲一九〇八年奥安太郎、奥卯之助、共同にて石竹、菊栽培開始、翌年分▲一九〇九年猿橋孫三郎、木長安之助、藤井政太郎ら石竹、菊栽培開始▲一九一〇年猿橋孫三郎歸國、神崎元之助これを繼承▲一九一〇年北筋寅松、菊栽培開始▲一九一一年岩田傳右衛門イングルサイドにて石竹栽培、一九一三年マウンテンビューに移轉、石竹、菊を栽培▲一九〇九年頃同地方の菊合計二、三萬株▲一九〇六年今井隆二郎コルマにて石竹栽培一九一〇年サニバールに移り米元常桶と共同し菊數英町栽培▲一九二八年同業者七人

東部販路開拓

花園業者の共同販賣として州外に向つて最初に試みられたのは一九一四年の菊栽培業者の東部への出荷であつた同年同業者十五名あり組合をもち販賣方法に協力し來つたが、同年第一次歐洲大戰勃發のため需要振はず、殘荷の處置に窮するに至つたので遂に共同販賣を實行することとし、一九一六年に大西準一をシカゴに派遣

東部へ出荷を繼續して新販路の開拓に成功した。斯て包装等を改良出荷に遺憾なきを期し、品質の優良は體て全米に販路を得るに至つた。

またカーネーションも一九二七年冬、ステーチの前田虎義が獨力にてシカゴに出張して一店舗を設置、委託販賣に當るところあり、翌年歸桑と共に長瀬誠治郎代つてシカゴに出張、冬期の品薄時代に委託販賣を行つて相當の成果を挙げ、また米元治一郎、櫻井政雄の二人は東部に赴き、主要地の切花市場を視察し、販路開拓上に種々の有效報告を齎し、カーネーション栽培業者を啓發するところ多かつた。

菊栽培業者組合

一九二七年末には菊の市價振はず、且つ生産過剩のため、翌一九二八年初頭桑港半島の同業者は對策を協議し、前年度より二割五歩の減作を行ひ、最高生産額を二百五十萬本とした。桑港の資本家ニユーソムは邦人同業者の結束を聞いて資本的援助を申出で、一手販賣の契約をなし保證料として十萬弗を提供、上等品六弗の値段保證をなした。邦人菊花業者は一九二八年四月第二世を中心とし「ベルモント農事會社」なる組織を結成し(初代会會長大石米太郎、副會長堀常雄)、事務所と出荷場を新設した。一方前記ニユーソムは手代を夏期より米國各地に派遣して先約註文を取集めて收穫期及び爾後の好果を期待したのであつたが、結果は諸事情の爲め思はしからず遂に「ベルモント農事會社」は翌一九二九年解體した。次いで一九二九、三〇、三一年の三ケ年は不統制の爲め菊花栽培者は苦境に陥り、有志は對策を協議し松岡亮作(農學士)の後援下に新組合設立運動を起し、一九三二年四月六日を以て「加州菊花栽培業者組合」を設立した。同組合は加州認可法人組織であり、専ら同業者の福利増進と發展を圖るにあつた。組合はレッドウッド市に本部を置き支部を加州花卉市場内(桑港)に設置、組合員は桑港半島一帯——即ちサンマテオ、ベルモント、サンカロス、レッドウッド、メンロパーク、パロアルト、マウンテンビュー各地の菊花栽培業者である。機構は組合内に生産、販賣、大菊、小菊、集金、金融等の部門を設け、運用は總て規約による

會議制に基いてゐる。初年度に於ては菊花賣上總額七萬七千弗、購買部取扱高一萬二千弗であつたが、其後運営宜しきを得て逐年内容充實し、一九三九年度に於ては組合員數五十六名に達し、耕作面積九十英町に増加、總賣上高三十萬弗、購買部取扱高四萬二千弗の多額に上る伸展を示した。更に組合は創立當時の無より來つて八ヶ年経過の現在（一九四〇年）に於ては二千五百弗の建築物、九百弗の自動車、及び一萬五千弗の積立金を有するに至り、組合員にして土地を購入所有する者約二十名に及んだ。なほ同組合は單に同業者相互の發展のみに専念せず、米人社會に對しても常に接觸を保ち、日米人間の親密融和は極めて効果多く進められつゝある。左に初代及び現幹部役員を掲ぐ。

▲初代 組合長井上琴治、副組合長今井隆次郎、會計山田才吉、書記石田新、理事渡邊萬龜雄、山根矢、森虎雄、總支配人力丸岩輔、監査梶垣信男、田中徳之助

▲現時 組合長井上琴治、副組合長今井隆次郎、會計岡村薫、書記田村三郎、理事高木好文、山根矢、龜田茂、飯谷秀雄、山田才吉、監査森虎雄、飯谷多市

花卉市場の組織

米國に於ける邦人切花市場の代表的なるものは桑港、羅府の二者であり、共に組織堅くまた顧客の大部分は白人切花小賣商であつて、營業は逐年伸展しつゝある。桑港の市場、即ち加州花卉市場株式會社は一九一二年州法に遵ひ、資本金一萬弗の販賣組合として設立されたものである。本店を桑港第五街一七一に置き、その會員（株主）は灣東、桑港半島、沿岸の邦人花園業者である。即ち一九一二年六月十二日桑港リツクス、プレス三一番に於て創立總會を開き、初代社長（取締役兼社長）堂本元之進以下九名の役員を選定した。その時の株主九名持株總數五十四株、株金千三百五十弗であつた。基礎漸く向上し翌一九一三年二月の第三回役員會に於ては取締役大石徳太郎の提議により、市場建物を米人所有主より十五ヶ年間借入契約をなすことに決定、以後着々伸展を続け創立十周年後の一九二三年には株主總數五十名、株數二百四株、株金五千一百弗に達するに至つた。同年市場建物の借入權廢止を承認し、殘餘リース權は四萬七千五百弗の代價を受けて所有主に返戻、新市場移轉を決定し、同年十一月の

臨時役員會に於てハワード街及第五街角の建物に移轉することとし、所有主に六千弗を前納して建物の改造を行はしめ、十ヶ年の借入契約を整へてこれに移轉、今日に及んでゐるもので、その面積は百十呎×二百呎、日白人共同の大市場で邦人市場組合と、白人の組織する桑港花園業者組合の兩市場が左右に並び、邦人側市場はその面積最も廣く、白人これに次ぎ、支那人のそれは最も狭少である。

なほ特記すべきは花卉市場は白人のみならず、支那人同業者とも圓滿融和を保ちつゝ、共榮に進みつゝあることで、年一兩度は互に集會に招じ、親交を温めつゝ栽培上の智識交換、營業の協調等に就て意見を交へ、また顧客たる小賣商（殆んど白人）をも年一回程度招待し、支那事變下に於ても何等意志の疏隔を來すが如きことなきは注目し値ひする。一九四〇年度現在市場役員は左の通り。

取締役社長大島勇平、同副社長岡村薫、同會計藤田茂三郎、同書記米元治一郎、取締役井上琴治、岡田豊、山根矢、龜田涉、酒井格、監査役梶垣信男、鍋田虎太郎、幹事植松忠治

灣東業者組合

灣東邦人花園業者の大部分はその生産花卉を桑港市場に出荷取引し、灣東小賣業者も桑港市場に於て仕入れをなし來つたが、灣東諸市の發展ととも花卉の需要も遞増し、生産者側の増加もあり、無統制時代は相當に續き賣買上双方の不便不利尠ならず、獨立市場設置必要の氣運は夙に動きつゝあつたが、日白人間の協議漸く進み、一九二七年二月に至つて灣東花園業者組合の結成を見た。資本は日白人合同、市場はオークランド市ウエブスター街一〇一四に置き、日白人協力によつて運営好成绩を以つて進み、翌一九二八年七月現在に於ては組合員五十二名によつて（邦人十九名、白人三十三名）一ヶ年の取引高約五十萬弗に上つた。當時灣東（オークランド、パークレー、アラメダ、リチモンド）には日白人を合して九十四戸の切花小賣商あり、大部分は白人であつたが、數戸の邦人經營者もあり、それらは灣東花卉小賣店組合を組織し、アラメダ兒野彦太郎はその副會長に推舉を受け、その購買

力は優に共同販賣機關たる花市場を運用する實力を備へるに至つたため、日白人協力下に最初より圓滿協力下に市場の設置を見るに至つた。なほ右市場設置にはマウントエデン柴田善十郎の努力は大であつた。なほ初代役員は左の如し。

社長 V. Boschetto 副社長柴田善十郎、取締役廣中秋三郎、取締役會計 G. Rossi 取締役野村友二郎、同 Printice
地方別伸展状況 一九二七年現在、桑港花卉市場會社の調査によれば當時の桑港及び附近の邦人花園業者の發展状態は左の如くであつた。

▲桑港市街の發展其他の理由より花園業者は夙に他に轉じて、市場一、卸商六、小賣店五、植木種物店二、肥料及び農業用品商三、サンマテオ●菊花園三、▲ベルモント●同十三▲レッドウッド●菊花園十一、温室物業者九▲メンロパーク●菊花園二(温室物は大部分蓄養)▲マウンテンビュー●菊二、温室物業者四▲サンベール●温室物業者一▲ビスカデロ、ハーブムーン灣に數戸の邦人業者あり▲灣東ステージ、サンパブロ●温室物業者十五▲バークレー●温室物業者一▲エルムハースト地方●温室物業者十五▲サンレアンドロ、サンロレンソ、ヘイワード、マウントエデン地方●温室物業者十一

以上は加州花卉市場會員のみに、會員以外にも相當大規模に營業中のもの多數あり、これらは灣東花園業者組合の會員である。(この頃灣東の邦人切花植木小賣店は廿戸)

一九二七年十月調査による加州花卉市場會社組合員の地方別栽培面積及び作付種類を示せば左の通りである。(單位平方呎)

菊栽培面積▲ベルモント地方(十三戸)八一二、二三八▲サンマテオ地方(三戸)一八五、七〇〇▲レッドウッド地方(十二戸)六〇五、九一九▲マウンテンビュー地方(六戸)二二二、五一一、合計(三十四戸)一、八二六、三六八平方呎
温室物業▲サンリアンドル地方●蓄養(六戸)温室二四四、七〇八、野外作付面積二、五五〇、石竹(五戸)温室二二二、四〇一、野外三八、五六八▲エルムハースト地方●蓄養(十二戸)温室二七六、八〇二、野外二九、五七八、石竹(二戸)温室三九、八〇五、野外二七、一〇五▲ステージ地方●蓄養(九戸)温室三〇〇、一七一、野外二三、七五〇、石竹(六戸)温室二二二、九五七、野外三二、六三四▲レッドウッド地方●蓄養(九戸)温室二六四、三七〇、野外一三八、〇七六▲マウンテンビュー地方●蓄養

(三戸)温室三一、九五〇、石竹(四戸)温室七一、七二〇●合計……(五十六戸)(温室一五八三、八八四、野外二九二、二六二、總計一、八七六、一四五)

右通計は三百七十萬二千五百十三平方呎、このほか會員外のものを加ふれば總面積四百五十萬平方呎と註され、産額は年によつて不同であるが大略を示せば、蓄養百萬弗、石竹四十萬弗、菊四十萬弗、植木、球根其他雜種に於て卅五萬弗、作柄によつて年産額二百萬弗乃至二百五十萬弗と推算さる。

南加州に於ける邦人花園及植木業

南加州に於ける邦人花園業は北加州のそれに遅るゝこと八年、即ち一八九二年初めて着手されたが、爾來約五十年歐米各民族との熾烈なる競争に打ち克ち、迫害に堪え刻苦勤勉よく今日の地盤を築くに至つた。而して南加州の同業者はロスアンゼルス市(羅府)を中心に附近郊外各地に散在し、一九四〇年現在の同業者數は百六十戸の多きを算し、資金十萬弗の花卉市場を有ち、その生産額は年額三百萬弗に達する盛況を見るに及び、北加州の斯業と、もに在米邦人社會の重要産業の一つとなつてゐるのである。

南加州園業者の始祖 南加に於ける花園業は一八九三年(明治廿六年)埼玉縣出身者遠藤宗太郎を以て始祖とする。同人が羅府ジェファアソン街、メイン街角に地をトして植木と花園業に先鞭をつけ相當の成功を収めたが、當時右花園に就働の小畑甚之助(和歌山縣出身)、安立房太郎(島根縣出身)の兩名はいよゝ遠藤を助け、同業に就ての研究を積み、後身者を善導した草分け時代の功勞者であつた。安立房太郎は爾來引續き斯業に活動し、後年南加州花卉市場の元勳となつた。またその頃島新太郎も羅府近郊ベルに花園業を始め、同園に田中芳太郎、山本某も島を助けて活躍した。これらの人々は事實上南加同業のバイオニアと稱すべき功勞者であり、その下にあつて就働しつゝあつた

人々も漸次獨立事業を起し、傍ら羅府市そのもの、急速なる膨脹と、もに斯業も逐年伸展を示すに至つた。

植木業の發展

南加州は北加州に比して更に氣温高く花卉の生育もよく、實に前述の如く羅府の急激の發展

は居宅の新造夥し、その庭園或ひは街上に植ふる爲の花弁、植木及び苗木、鉢物の需要も著増を示し、これらは邦人花園業者及び植木業者の伸展を助長すること多大であつた。この點に於て南加は北加と差異あり、南加にあつては植木業も花卉業に匹敵する有望事業であり、同業と花園業とは全く不可分の關係にある。斯くて植木業の有望性に着目した邦人は早くより相次いで之に手を染めた。即ち一九〇三年（明治卅六年）頃より貴志捨楠、鎌田幸次郎、高塚久楠、貴志孝太郎、貴志爲吉、島本庄之助、鎌田由三郎、菅野榮三郎、財海滿助、植松美代作、吉田友吉、本田久留吉、平井由太郎らいづれも植木業に入り、日本固有の園藝趣味を米人間に宣傳流入せしめ、逐年事業の發展を招來した。特に第一次歐洲大戰後の一九二〇年より同二五年に至る期間は、所謂好況時代として羅府の人口膨脹著るしく、家屋の新築、庭園並びに道路の改修等によつて各種植木類の需要急増したため、邦人業者も大好機に恵まれて巨額の利益を収めたもの多く、錦衣歸國者も十數名に上つた。但しこの歸國者ある一方新業者の加はるあり、一九二八年には羅府に於ける植木業者百數十戸といふ盛況を見せ、その植付反別六百二十英町、投資額九十萬弗、年産額七十五萬弗、常備員二百五十人を數ふる盛況を示し、これらの業者は南加日本人植木業組合（一九二七年九月設立）を背景とし、その販賣の組織化を圖るとともに、肥料その他必需品の共同購買も實行した。

組合と市場設立

他方に於て花園業者も着々伸展を續け、一九〇八年島新太郎は邦人間に花卉の卸商なきを遺憾として羅府ブロードウエー街と第七街に卸商を開始した。斯くて南加邦人花園業者は純生産時代を脱して生産品の組織的分配の新段階に進んだのであつた。

島新太郎は卸商に活躍すること四ヶ年、邦人生産者と協力、事業漸く盛んならんとする時事情あつて歸國したが、島の創業直

後同店に入つてこれを助けつゝあつた村田俊一（現羅府日本人商工會議所會頭）は一九一一年より同店を繼承。爾來伸展を續けて現在に至つてゐる。

上述の如く花園業者は年々その數を増加發展を示したが、なほ之を統合する組織なき爲め不尠ならず、よつて一九一二年四月、業者多數の協力によつて「南加日本人花園業組合」を結成した。但しなほ販賣方面は改善されず、米人市場に出荷を續け、不當の屈從を餘義なくされつゝあつた。爲に小畑甚之助、安達房太郎、甲斐政次郎、池田秀太郎、村田俊一、内田増太郎、宮前兄弟らの奔走によつて一九一三年末より獨立市場の設立の議を進め、恰もその必要痛感されつゝあつた際として設立案は急速に進捗し、一九一四年二月六日、加州々廳の認可を得、法人として「南加日本人花市場會社」を創設した。市場の建物は建築費五萬弗、土地は五十年の借地權を獲得し、資本金二萬弗を以て待望の花市場を設立した。茲に於て南加邦人花園業者は完全に獨立的地盤の上に有利條件下にその生産品を賣捌し得るに至つた。

なほ一九二六年十月よりは市場の會員によつて共同購買部を設け、肥料、種子、藥物、食糧、雜品等あらゆる消費物品の購入分配を實行して好成績を収めつゝあり、一九二八年の調査によれば一ヶ年の組合員消費額は約十萬弗であつた。

南加業者の特徴

上記の如く生産と販賣兩面に組織を持つに至つた邦人花園業者は以來益々順調の發展を

示し、一九二九年の調査に於ては羅府市を中心とする二十哩圏内の業者は百四十七戸、その植付反別千五百十七英町（内五百英町は邦人所有地）、投資額は百七十五萬弗、全家族一千人、雇傭員七百七人、年産額百五十萬弗に達した。而して南加の同業者の特徴とするは別項記述の如く植木業者と不可分關係にあるとともに、その作付反別の多きことである。これは北加のそれが温室主義であるに對し、南加は野外栽培の多き爲めである。但し良質のもの、需要増加と共に温室も逐年増加し一九二九年の調査によれば八十五棟を數へ、總計約廿一萬二千弗の投資をなしてゐるも、なほ全體作付面積の八分の一を出でない。また南加特殊のものとしては苗專業者もあり、例へば薔薇苗業者（高橋兄弟、

西兄弟の如き)あり、オレンヂ苗業者(山本、新竹、仙頭らの如き)あり、鉢物業者(小畑兄弟、佐藤、北川、笹本、植松、財満、森らの如き)あり、一般に南加花園業者は苗木、鉢物を兼業するもの多く、野菜兼業者さへあり、また植木、花卉は各々別個の組合を有する點などは南加の特徴とすべきである。なほ業者の分布状況は次の通りである。

ロスアンゼルス四〇、モンテペロ一五、ロスコウ一〇、ガーデンナ一〇、レドンドビーチ一〇、カンプトン八、ハモサビーチ六、タハンガ五、ホーソーン四、サンフアナンド三、サンゲール三、其他二三(一九二九年調査)

業者の優位

最後に南加邦人花園業者の地位を見るに一九四〇年現在に於ては冒頭既記の如く業者數百六十戸、その年産額三百萬弗の巨量に上るに至つてをり、邦人特有の勤勉力行はよく斯業の基礎を逐年向上せしめ、邦人業者の産出量は、南加九郡(北方サンルイスオビスポ郡より南方墨國國境に至る)の總人口三百五十萬人の需要の六割五歩を占める盛觀を招來し羅府邦人市場の如き、早朝六時に開門、八時には既に滞荷なしと云はれ、その購買者たる花卉小賣者の買出し人は毎朝千人に上ると稱されてゐる。

因に市場の組織は市場會社に於て販賣するに非ず、場内特設の場所を借り受けた各生産者が、持參の花弁を任意の價格を以て小賣商に賣捌すること桑港のそれと同様である、また市場會社は十萬弗の株式會社とし、市場ビルの對生産者賃料によつて經營される。

斯く南加花市場が今日の繁榮を來したことは素より一般業者の努力の結實に他ならぬが、役員の貢獻も特記すべきであり、即ち左に同市場創立以來三十餘年間の歴代會長名を録する所以である。

小畑甚之助、安達房太郎、野村兵三、山崎庸定、宮前嘉四郎、甲斐政次郎、佐藤官次郎、内田増次郎、北川龜松、山本義清、秋山龜太郎、竹村三郎、武藤紀一郎、飯沼藤平、武藤英雄、杉田正吉。

加州並びに各地邦人養鶏業

起原 米國は鶏卵鶏肉の需要多き國であり、養鶏業の有望性は邦人間に於ても夙に考慮されてゐたが、本業は土地、家屋、設備を必要とし、永續的性質のものである爲めに、邦人の實際着手は他の諸事業よりも比較的後年に屬する。即ち本業の鼻祖は南加州に於ては池百松、北加州に於ては松崎愛熊であつた。兩者ともに一九〇〇年(明治卅三年)斯業に手を染めた。池百松は南加州ロスアンゼルス市外に、松崎愛熊は北加州ペタルマに、それら邦人として本事業に先鞭をつけたのであつた。爾來各地に後継者現はれ、特にペタルマのそれは大進展を示すに至り(後述參照)。各地とも邦人特有の力行性と優秀技能を以て斯業を伸展せしめ、其間幾多の消長はあつたが概ね地盤を築き、現在に於ては太平洋沿岸一帯及び山中部地方を含めてその所有鶏數三百七十萬餘と註され、その年産額九十萬弗に近からんとする重要産業となるに至つた。また本事業は更に有望の將來性を有し、同時に邦人に適合せるものとされ、その子女もよく事業を繼承しつゝあり、附隨的に發生を見たる第二世青年による多數の鶏雛雌雄鑑別師も現はれ(其項參照)共に在米邦人社會の一財源となつてゐるのである。

備考 上述の邦人養鶏業先驅たる池百松は福岡縣出身、明治三十年渡米、同三十三年再渡米後、ロスアンゼルス市フアナンドロードに土地五英町を買ひ入れ、邦人間最初の養鶏業を開始した。同人は養鶏並びに牧羊に經驗あり、また當時この五英町の養鶏設備は附近の目を惹いたものであつた。松崎愛熊は鹿兒島縣出身、同じく明治卅三年ペタルマに二十一英町の土地を求め、一部を以て養鶏業に着手、ペタルマ同業界の開祖をなした。後ち轉業し加州日本銀行組織の一人となつた。

ペタルマ地方邦人養鶏業の沿革及び現状

沿革 ペタルマ地方に於ける邦人の養鶏業着手はその歴史既に四十年に及んでゐる。即ち一九〇〇年(明治卅三

年)、松崎愛熊、三島森太郎、中島寅吉、高木、三苦彌十ほか二三の先驅者は相前後して同地に入り、獨力或ひは共同經營によつて斯業に手を染めたるを嚆矢とする。而してこれら先驅者の一群は概ね經營數年にして轉業または廢業、或ひは歸國し、直接事業に於ける成果は言ふべき程のものなかつたが、この先驅者の一群こそ現在のベタルマ地方邦人養鶏事業の先達をなしたものと見て、その功勞は邦人産業史に特筆すべきである。斯くて邦人の養鶏業着手を見た同地方に、第二先發隊とも云ふべき吉澤誠藏、末岡豊太郎らは續いて同地に入り、苦心經營すること多年、吉澤、末岡兩人は現在に至るも斯業に携はりつゝあり。後ち邦人の同地に入るもの漸く増加し、その間に於ても歸國或ひは轉業死亡その他の盛衰はあつたが、大多數は引續き斯業に従事して堅實の發展を示し、一九四〇年現在の同業者戸數は三十戸の多きを數へてゐる。

經 營 邦人のベタルマ地方養鶏業に初めて着手の頃、即ち一九〇〇年當時に於ける米國の養鶏法は極めて稚拙粗放であつた。特に邦人の養鶏法は資力と經驗に乏しかつた爲に、その鶏舎設備の如きもコロニー・ハウスの小鶏舎であつて、今日見るが如き大鶏舎を有せず、従つて飼育の鶏數も素より少く、また孵化増殖方法も甚だ簡粗小規模に行はれ、自家所有の種卵または買入れのものを三・四百入りの小形孵化器二・三臺を以て孵化せしめた状態であつた。現在整頓せる分業的孵化工場が、專業種卵家より種卵の大量購入を行ひ、一時に幾萬羽の雛——然も強健にして多産卵の特性遺傳を有するものを孵化し、養鶏業者はその雛を購入すれば足る實情と比較すれば、斯業技術の進歩著るしきものあり、またカリフォルニア州立大學による學究的試驗成績發表、乃至半官的のフアーム・ピウローによる養鶏部の研究活動は業者を利用して斯業の向上發展を助長せしめたこと多大であつた。

なほ鶏卵市場と邦人關係に就て特記すべきは、過ぐる第一次歐洲大戰(一九一四—一八年)の影響であつた。即ち當時大戰の爲め養鶏飼料も暴騰を來したが、ニューヨークの如き米國東部市場に於ける雞卵小賣價は、戰時好況によ

つて一打一弗を超えるに至り、これによつて邦人養鶏業者も米人同業者と、もに等しく多大の利益を收めた。この事はベタルマに於ける邦人斯業者をして堅實なる經濟的地盤を確立せしむる結果を齎した。

現 狀 一九四〇年現在に於けるベタルマ地方邦人養鶏業者は總數三十戸(總戸數四十五戸、養鶏業以外のものは野菜園經營その他十五戸)に上り、四、五戸を除きて大多數は土地所有者である。その養鶏用土地面積は三百四英町(うち土地所有者廿二戸、二百八十英町、借地者五戸、二十四英町)にして、一戸平均使用面積は十英町弱である。而して右土地は所有面積に於ては、事業の性質と集約的經營法なる點よりして小面積たるは當然とすべく、但しこれらの土地は養鶏に必要な斜乾燥の好條件具備のものであり、自から他の農園に比して高價なるは記憶すべきである。而して一九三九年末調査による飼育中の産卵數は總數二十五萬六千羽にして、一戸當り平均數八千八百羽、最も多數を飼育するものは三萬羽に近からんとしてゐる。これらの産卵量は一ヶ年三百〇七萬三千打(一羽一ヶ年の産卵量約十二打)、その價格は六十一萬四千四百弗(一打卸値二十セントと見做す)に達する。

實 勢 力 斯くてベタルマ地方の邦人養鶏業は邦人各事業間に出色のものとなるに至つてゐるが、同地方邦人の財的に豊かなることは自然であつて、一九三九年末調査に隨へば、總固定資本額は七十二萬六千八百弗(養鶏一羽宛平均二弗八十セント)に上りその内譯を示せば、土地資本廿一萬四千八百弗、建築資本十七萬九千二百弗、ストック資本廿一萬四千八百弗、設備費十二萬八千弗である。流通資本に於ては一ヶ年の飼料買入費總額四十三萬五千二百弗、雞買入總數は春期分のみにて三十二萬七千羽、この價格二十六萬弗餘である。即ち補充と事業擴張の爲め新たに毎年雞を買入れるのであるが、最も多く補充を行ふものは一戸當り一ヶ年一萬羽以上に及ぶ現状である。

備考 普通産卵鶏は二ヶ年又は三ヶ年産卵後に老鶏または廢鶏として市場に肉用向販賣しつゝある。但し毎年斃死または廢鶏として減少する數は全體數の三割内外を算するので、老鶏として肉用向販賣しは實際に於て少數である。

特色 邦人養鶏業者の特徴とすべきはアメリカ人其他の外國人の同業者に比して次の如き長所を有してゐる。

(一) 飼育産卵鶏數一般に多く、二倍または三倍を有すること、(二) 育雛數多くこれまた二・三倍に及ぶこと、(三) 育雛の經驗豊富と優秀技術により死亡率少く九割以上の育雛率を示しつゝあること、(四) 労働時間の長きこと、(五) 全家族労働を實行しつゝあること——等であり、爲に外國人系同業者に比して利潤多く、民族的特質たる勤勉力行と相俟つて堅實の地盤を築いてをり、子女(第二世)もよく、父兄の事業を繼承し、斯業に於ても第二世は漸くその中心たらんとしてゐる。

加州内各地狀況並びに加州外の養鶏

絃上の如く米國に於ける邦人養鶏業は北加州ベタルマ地方を最大とし、他地方のそれは各地に散在して集團的のものなく、事業も自然小規模であるが、なほ摘記すれば左の如き發展を示してゐる。

オークランド附近 その沿革詳かならず、但し既に一九〇二年頃にオークランド市郊外に於て小規模(三百羽程度)の養鶏をなせる邦人あり、一九一〇年より同二〇年頃にかけてヘイワード附近に武本藤太郎(十三ヶ年繼續)谷澤久由(五ヶ年繼續)米倉林藏、藤崎正太郎、吉岡唯一、大島勇平らが相次いで斯業に入り相當の活動を示した、素より當時の社會状態は今日の如くならず、これら邦人の養鶏業も小規模にして鶏數も千を越えるものはなかつた。後ちこれらの養鶏業者は續々花園業に轉じていづれも伸展を遂げた(即ち前記の大島、吉岡、谷澤、米倉ら皆それである。)

一九四〇年現在の養鶏家はオークランド近郊にては東司磯吉(千羽位)大野東作(八百羽位)ヘイワード附近にては山根力右衛門(千羽前後)川田瀧(千羽内外、他に食用鶏四千五百羽飼育)山本清(三百羽程度)であり、孵化設備を有するものなく、生産品は殆んど地方市場に消化されつゝある。

サクラメント附近 近圓一帯に斯業家數軒あれど、一二を除きては小規模養鶏で、全體の鶏數三萬内外である。

中部加州方面 フレスノ市を中心とする中部カリフォルニア州には邦人の專業家は存在しない。但し副業的のもの相當に發達し、主として主婦がハイ・スクール等に於て學び得たところに隨ひ、自宅に於て飼育するもの多く、或る者は比較的完備せる設備を有し、鶏數二千を持つもの三十軒を算し、隨て附近一帯の鶏數は二萬五千乃至三萬と推定される。

南部加州方面 ロスアンゼルス近圓、サンビドロ・ガーデナ・ノーオーク、リヴァーサイドを含めて邦人養鶏家は十五戸あり、これも規模大ならず、鶏數は全體に於て三萬乃至四萬と見られてゐる。

加州以外の養鶏業 ネヴァダ州には專業者なく、ユタ州に於ては比較的早く着手された。南春松は一九〇七年ソート・レーキ市郊外に十英町の土地を購ひ、相當規模の鶏舎を設け、五臺の孵化器を設備し、産卵鶏五千を飼育したが中途挫折し、松村これを繼承した。これがユタ州に於ける邦人斯業の先驅をなすもので、現在に於ては副業的のものに加へて十戸あり、尤も地理的關係その他より鶏數多からず總數六、七千羽である。アイダホ州に於てもトウキン・フォールスほか數地に副業的養鶏家十戸あり、五、六百羽乃至二千羽程度の小規模經營で、全體の鶏數五千内外。オレゴン州は言ふべき程のものなく、ワシントン州に於てはベイショウ島に邦人養鶏者數戸あるも規模大ならず、全鶏數八千乃至一萬と推算される。

雞雌雄鑑別師の沿革と現況

沿革 養鶏業に不可分關係を有するものに雞雌雄鑑別がある。斷るまでもなく孵化された數十、數百萬の雞は雌雄折半數を示すものであり、そのうち雌鶏のみを残して飼育する爲にその鑑別が必要不可欠の事なのである。元

來邦人斯業家はこれを外國人の手に委ねてゐたが、一九三三年（昭和八年）日本より鑑別關係者二名の渡來するありその必要性に着眼せる服部元次郎の努力斡旋よろしきを得、以後邦人による鑑別事業は急速に進展を見るに至り、今日に於てはその技能（優秀を以て太平洋沿岸各地は勿論、遠く中東部諸州にも進出を見てゐる状況である。然も養鶏業の存続する限りまた別個の方法生れざる限り鑑別業の需要は絶対必要のものであり、更に二世の一職業として好個のものとなされ、發足以來十餘年にして今日の如き盛況を示すに至つたのである。

實 演 即ちその鑑別は前述の如く一九三三年、養鶏雜誌記者山口得三は鑑別師餘語岩三郎を伴ひ、カナダ國ヴァンクーヴァーを経て來米し、カリフォルニア大學、ベタルマ、ヘイワードの三個所にて實演（デモンストレーション）を行ひその技能を示して日白人間に反響を喚んだが、同年五月一旦歸國、同年七月には前記山口得三（支配人）餘語岩三郎（鑑別師）は高橋廣治（養鶏雜誌社長）と共に再び來米し、ミシガン州ランド・ラビド市に開かれたる全米國養鶏業者大會（一九三三年七月）に於て鑑別實演を行ひ、同年八月ヴァンクーヴァーを経て歸國した。この三者の來米は我日本の養鶏雄雌鑑別技術の米國進出の先驅をなすものであつた。

養 成 越えて翌一九三四年二月、服部元次郎（フレズノ）に於て久しく養鶏業並に孵化事業に活動したる一先覺）は日本より四名の鑑別師（酒井五郎、林清、菅野豊作、川合新一）を伴ひて歸米、四名をベタルマ、中部加州、ロスアンゼルス、の三地方並びにウイスコンシン州にそれ／＼分派して鑑別實演をなさしめた。斯くてこれらの鑑別師による實演回数は三十一回に及び、その技術の確實優秀性は漸く各方面に承認さるゝに至り、希望を容れて講習會を開くことフレズノ市に於て二ヶ月餘（日白人三十名受講）ロスアンゼルスに於て二ヶ月（日白人二十六名受講）精細にその技術を傳へて右四名は一九三五年二月歸國した。

機 關 茲に於て二世青年にして鑑別師たらんとするもの漸く現はれ、一九三五年七月四名の二世（佐伯希

世人、石蔵修一、林高雄、後藤光輝）渡日し名古屋に赴いて鑑別技術を習得、同年十二月歸米した。これ米國に於ける日系市民鑑別師の先驅である。斯くて同業は漸く社會の注目を惹くに至り、一九三六年七月に至つてフレズノ市に「米國雄雌雄鑑別協會」を組織した。（役員＝會頭伊勢田曉介、副會頭兼主事服部元次郎、顧問在米日本人會、在加州各邦字新聞）この協會は多く主事服部元次郎の努力によつて運営され、最初二ヶ月間、服部養鶏園にて講習會を開催（二十名受講）し、以後毎年引續き講習會を開催して邦人鑑別師の養成に努力を續けてゐる。

伸 張 右協會の設立に續いて一九三八年八月ロスアンゼルスに同種の協會たる南加鑑別協會（主事林高雄）設置され、同年十月には羅府鑑別協會（主事佐藤正志）生れ、同年サンビドロにアメリカン鑑別協會（主事新田潔）が組織され、其他にも同種のもの二、三設立された。孰れも講習會を開いて鑑別師養成を目的とするは同一であつた。其の間に於ても日本にて技術を習得せる二世約十名歸米するあり、以後毎年十四、五名の鑑別師（特に渡日し技術習得せるもの、或ひは既に渡日し居たる二世にして後ち技術を習得せるもの）歸米しつゝあり、これらの青年は米國に於て州官憲による試験を受け、のち初めて營業をなし得る順序である（試験官は夫々の州農科養鶏部主任によつて行はる、二世の及第率九割四歩）。現在米國の右試験に及第しライセンス（鑑札）を所持するものは日白人を合して全米に三百三十名あり、ライセンスを有せずして従業するもの約百名ありと觀られ、計四百乃至四百五十名の多きを算するに至つた。

現 況 これらの鑑別師の鑑別率（孵化雛數に對する鑑別率）を見るに、太平洋沿岸各地は九割前後、山中部（ネヴァダ、ユタ、コロラド、アイダホ、ワイオミング諸州）は七割五分内外、西北部（オレゴン、ワシントン二州）は八割乃至九割、中部米國は八割乃至九割、南部諸州地方は八割見當、東北部は五割程度、東部は六割乃至七割前後でなほ鑑別師の供給不足を物語つてゐるのである。而してその鑑別結果は成績良好、育雛率佳良であり、このうち日本

人系鑑別師の活動範圍はモンタナ及びノース、ダコタの兩州を除く以外の全米各州に進出を見てゐる盛況で、その優秀性は各國人系養鶏業者の認めるところとなり、特にイギリス、ベルギー兩國の同業者よりも十名前後の二世鑑別師の派遣希望申込みがあつたことは特記すべき價値を有する。

收 益 なほ二世鑑別師の技倆は正確率九割九分、一時間に五百乃至七百羽を鑑別し、一シーズン（一季節）期間約四ヶ月）に二十萬乃至三十萬羽を鑑別する。その収入は活動の如何によつて高低あれど最低七、八百弗より三千弗程度である。但し鑑別師の少數より供給不足を示した當時の如き収入は現在に於ては見られず、鑑別師供給の増加とともにその報酬も低下しるるを以て、平均一人一千五百弗と見るを妥當とする現狀である。

日本人の加州農業界に貢献せる事蹟

日本人が加州農業界に足跡を印して約五十年、此間同胞の加州農業界に貢献せる事實を擧ぐればまさに枚擧に遑ないが、左にその最も顯著なるものを選んで述べることにする。

加州に米作開始

加州に米作を試みたことは可成古いことであるが、結局失敗を重ねて遂に拋棄の形ちになつた。然るに米作に堪能なる日本人の手によつて試みられるや忽ち立派な稲が出来、それが基となつて今日數百萬弗になる一大産業となつた。いま其沿革の概略を一瞥する。

加州米作の沿革

加州の米作は十九世紀の初頭既に隨所に試みられ、一八六〇年にはアラメダ外四郡より、概二千四百四十封度を産したと云はれる。而して之が秩序的試験の行はれたのは一九〇六年であつて、場所はビユータ郡ビッグスで、米國政府の補助下に經營される種物試験場に於て爲された。併し此處に於て色々手を盡した試作の結果も成績不良であつて、

米作は結局絶望視された。

然るに當時ビッグス方面に六千餘英加を有するボール、フオール、ガスリー會社なるものがあつた。此土地は強度の無機鹽性を含有し、如何なる作物も満足の成育をなさなかつた。當時の支配人ウキリアム・グラントは此地に米作を試みることにし、一九〇七年に日本人津田某を雇入れて實行に着手した。津田は米作に未だ充分の經驗を持たなかつたため、生育はしたが登熟するに至らなかつた。故に其翌年は加大農科出身の青年二名を雇入れて試みたが、これも失敗に歸し、續いて東印度人を雇入れて之に當らしめたが徒らに前者の轍を履むのみであつた。依て米作は斷念するの止むなき状態であつた。時恰も西部米作地方を視察して歸り、米作に對する知識と經驗を有する安岡徳彌外數名を得、これに當らしめた。これは實に一九〇九年の五月のことであつた。是等の日本人は着々其耕作技倆を發揮し、其年の九月中旬には分けつ美事に穂の重き稲が試作地廿五英加を通じて出來上つた。

此事は取りも直さず加州の地に米が出來ないのでなく、その育成方法を知らなかつたのだと云ふことを事實に證明したもので、此吉報は忽ち四方に傳へられ、一方農務省種物試験に於ても之に力を得て、更に同會社に依頼し品種二百六十七種に對し、徹底的試験を行ひ且つ良好の成績を齎したので、愈々米作の有望なることが立證せられ、一般に米作熱を喚起した。而してビユータ、ユバ、グレーン、コルサ諸郡の茫漠たる不毛の原野は、一變して良好な米作地と化し、地質は數倍に騰貴するに至つた。

乍併營利的に米作を經營したのは一九一二年よりであつて、同年の耕作面積は千四百英加、收量概三萬五千サツク（百封度入）であつた。それが順次累進して八年後の一九二〇年には十六萬二千英加に上り、收量八百廿六萬二千ブッシェル（一ブッシェルは約四十封度）を得るに至つた。

當時米作のバイオニア格の生田見壽、長尾行介、山田榮、佐藤信元等の大農を始め、日本人の耕作面積は一萬數千

英加に及んだが、それが不況と云ふこともあつたが、主たる原因は外人土地法が制定せられ、或者は檢査投獄されるに至り、米作は順次日本人の手より離れ、今日に於ては僅か二三の大農即ち國府田敬三郎、池田喜平、山田三郎の手により數千英加を耕作するに過ぎない。併し加州の米作は今尙盛んに繼續され立派に産業化された農業となつてゐるのである。兎に角本産業は日本人の智能と經驗に依つて生み出されたもので、加州農産史上に特筆大書されなければならぬものである。

日本人の土地開拓

日本人による加州の荒野開拓の事實は一々擧げ得ない巨量に上つてゐる。例へば南加ではサンバナデノ郡の葡萄並びに柑橘園開拓、北加ではサンマテオ郡ビスカデロの桃林開墾、等々あるが、茲ではその大なるものを一、二紹介することにする。

須市河下の開拓

此地勢は前にも述べた通りサンオーケン河に沿ふ數十の群島であるが、此地に眞先きに足を入れたのは、福岡縣人牛島謹爾及び熊本縣人松本萬龜の兩名である。當時河下は渺茫たる沼地であつて、蒲が至る所に繁茂し、農耕地として價値は全くなかつたのであるが、其後堅固なる堤防が築造され、内部を開拓することに於て今日の美田と化したのである。開拓の當初は前記牛島、松本が手を附けたもので、爾來多くの日本人の手により約四萬英加が開拓された。これには三、四年の日時が費やされたのであるが、土地が沼地であり、衛生上宜しからず、マラリヤ其他の病氣の爲めに多くの犠牲者を出した。最初の開拓が出来、衛生設備も漸次整ふようになり、白人労働者が續いて入り來つた。白人等は斯様な危険な場所へは容易に近寄り得なかつたのである。斯くて開墾後全島廿五萬英加の内約二割は日本人が耕作するに至り、牛島は此地を中心としてポテト王となり大に日白人間に氣を吐いた。

優秀の農村經營

加州内に於て日本人が開拓し、立派な農村を經營してゐる所は數箇所あるが、其内傑出してゐるのは大和コロニーである。同植民地は中加マセード郡リヴィングストンにあり、一九〇六年日本人を株主とす

る米國殖産會社が創設したるものであるが、當時はセイジ・ブラシユの一面に繁茂しゐる荒野に過ぎず、他國移民によつて兩三回の開拓が試みられたが、到底目的を達し得ず抛棄されてゐたものである。然るに此荒野が一度日本人の手に入るや、幾多の困難を突破して今日の立派な葡萄園と化したのである。現在戸數七、八十戸、所有地三千英加幼稚園、邦語學校、教會、集會所等あり、また事業上からは産業組合あり、農産物荷造所あり、全く農村として諸設備が完備してゐると云つてよい。而して日白人間が頗る親善であつて、産業組合員中には附近の白人も加盟してゐると聞く。斯くて同村は日白人間に於て有名なるのみならず、白人間に於ても亦模範村として稱讃されてゐる。

コーテズ村

大和コロニーに隣りしてコーテズ村と云ふのがある。これは一九一八年の頃日白人合資の下に創設されたものであるが、主として安孫子久太郎が設立の任に當つた。而して實際の任に當つたのは島内良延である。此地の有名であることは垣一重を境として、官營デルハイ植民地と比較されることに於てである。官營デルハイ植民地は矢張り一九一八年頃州費百數十萬弗を投じてデルハイに八千英加の土地を購入、近代式植民地を設立し、ダンシングホールまで造つて、設備實に堂々たるものであつたが、數年を経過するも成績一向に擧がらず、屢々議會の問題になつたが、遂に繼續し得ずして州は非常な損失を蒙り、創立十年内外にして競買に附して終つた。然るに邦人による其隣のコーテズ村は徒手空拳、貧困の中にも作物は美事に育ち、其年々の收穫を以て地代を拂ひ、二千英加が立派に日本人の所有に歸し、葡萄、苺、果實、野菜が美事に出來、今は教會、學校も建てられ約五十戸の我農家は豊かに暮してゐる。時々ターラック町の商業會議所員を中心とした町の有志を招いたり、また招かれたりして日米親善の實を擧げてゐる。

中加に入りフレスノ附近にボールス、クラザーに互る農村があるが、これは一九〇六年頃フレスノ佛教會朝枝開教使が熱心に鼓吹したことから始まり、現在土地所有面積四千英加、戸數約五十戸、邦語學園あり、青年會、婦人會の

組織がありて、豊かに生活してゐる。其他バリア、クロロビス、リードレー、マデラには日本人農村があり、其多くは邦語學園を建て教育に努め、親しく白人とも交はり生活上に努めつつある。

北加に至りてはスタクトン市附近にフレンチ、キャンプの日本村があり、フロリンには有名の日本人村がある。またサクラメント市の北方ルミスには餘り名前が知れて居らないがルミス日本人村がある。これは一九〇四年頃少數の基督教信者が土地を購入したのが、同村の土地購入の濫觴であり、爾來土地購入者が増加し、現在では約五十戸その所有土地千五、六百英加に及んでゐる。此所にも邦語學園教會が建てられ、平和な生活が送られてゐる。

加州に菊花栽培

八月の候から十一月頃まで米國人の家庭を飾る菊の花は、ローズのように昔から加州に栽培されたものではない。それは一八八七年長野縣小諸郡鹽田村の吉池寛に依て始められたものである。吉池は明治十五年に渡米したが、同十九年の秋日本の菊を米國に移植すべく歸國、東京に於て菊種約百種を蒐め、翌廿年即ち一八八七年一月再渡米し、オークランド市チエスナツ街と廿二街角に少許の土地を借り、そこで小規模な菊作りを始めた。而かして五ヶ年後第十六街へ移轉し本業を繼續したが、事業は延びる一方であつた。吉池花園は斯く發展したが、これを新式チース、クロースの柵内で作り始めたのは榎本榮一で、これは一九〇八年のことであるが、これと前後して上利與一、澁谷良弼、錦本、山本等が栽培を試み、櫻府では佐藤力太郎が小菊の栽培に苦心其發展に貢獻した。斯くして順次發展して今日の盛況を來すに至つたのである。年産四十萬弗餘同胞花園業中でも、ローズに次ぐ重要花卉産業となつたのである。

柿の移植及改良

一九一五年——一六年頃岡山縣人藤井澄人は加州大學農科に學んでゐたが、柿を専門に研究し、加州大學より柿品種蒐集の爲め日本へ派遣され、日本の優秀なる柿を加州に移植し、其後品種の改良を行ひ柿を知らなかつた米國人に美味に富む新果物を提供した。今日は立派な加州産出果物の一種となり、東部へも輸送さ

れることになり、またルミス方面では乾柿まで造つてゐる。其他邦人によつて一般農作物の品種を改良し或は成熟の季節を變化せしめ、他州産の移入を防止したことは非常なもので、單に良い品物を多く生産するといふことの外、實驗上技術的方面に於ても亦貢獻したことが頗る多い。

加州外の日本人農業

米國に於ける日本人農業と云へば素より加州を指すのであるが、他州に於ても同胞の農業は着々進展を示してゐる。是等各州に點在してゐる同胞農業の個々を尋ねて詳述することは出来ないが、左にその主なるものゝ状態を述べらるであらう。

山中部

ユタ州は一八四七年夏頃からモルモン教徒に依て開拓せられた地であることは、餘りにも有名であるが日本人の同州並びにアイダホ州に入つたのは一九〇三年頃からである。同年日米勸業社とユタ・アイダホ砂糖會社との間に労働供給に關する契約が成立し、多くの同胞労働者はユタ・アイダホ州の砂糖大根園に就働した。後ち労働者の供給はハワイ轉航禁止によつて中絶を餘儀なくされたが、是等農園に就働した同胞は蓄財と共に獨立農業を營むやうになつた。併し同胞の獨立農業は單作に偏した爲め、財界の變動の爲め脆くも行詰る傾向を帯びてゐた。例へば歐洲大戰後財界變動時の如きは甚しき痛手を受けた。茲に同胞も覺醒するところがあり、從來の方針を一擲して多種類耕作に従事することになつた。當時ユタ州オグデンの北部ユタ聯合農會は専務理事を派し管下各地方農業組合等を歴訪せしめ、多種栽培、收穫並に販賣の方法等に至るまで其研究の結果を發表、大に運動に努むるところがあつた。斯くて同胞間に多種の作物が栽培されるやうになつたと同時に、各其同業者組合が出来、産物の共同販賣が行はるやうになり、農業の基礎は一段と堅實味を帯ぶるに至つた。

同地方に於ける農業經營方法は現金借地、收穫分配、請負耕作が多く土地所有耕作は甚だ少ない。尤もアイダホ州は一九二三年日本人の土地所有を禁ずる法律を制定したが、ユタ州は然らず土地を得んとせば今日でも得らるゝ譯である。今日同胞の主要農作物は砂糖大根、トマト、アスファルフア、小麦、ポテト、豆、玉葱、セロリー、キャベヂ、レタス、カリフラワー等で、同胞の特技が現はれるセロリー、カリフラワーの如きは加州へまでに送られて有名となつてゐる。

ユタ州 一九一〇年（明治四十四年）ユタ州に於ける日本人耕作面積は六千三百卅九英加（砂糖大根五、五五〇英加、野菜四六四英加、果物五英加、大麥五三英加、牧草五〇英加、養雞一〇英加、其他二〇七英加）であつたが順次發展して一九二五年頃には、所有地九百六十英加、小作地一萬七百英加で計一萬一千六百六十英加となり、日本人在住人口も約千五百名に達した。其後は寧ろ低下の状態にある。その理由はユタ州在住邦人が加州を慕つて移住するもの相次で現はれつゝあるからである。

アイダホ州 アイダホ州はユタ州と略ぼ同時に發達したもので、一九一〇年の統計によると、日本人耕作面積は八千九百七十五英加（砂糖大根七、四一五英加、麥、牧草一、一一五英加、ポテト、玉葱其他野菜四四五英加）而して同州邦人も順次發展して一九二五年頃には所有土地二千英加、小作面積は二萬英加を超えるの盛況を呈した。同州に於て有名なのはポテトで「アイダホ・ポテト」として東部は勿論加州までも送られ、今日日本人ポテト耕作者中にも仲々大農がある。

コロラド州 同州は外人排斥土地法の制定なく、日本人も自由に土地を所有し得るが、同州の邦人農業は少數の大農を除いては中農であり、一九二五年頃の調査に依ると、邦人農業者五百八十一人、内地所有者廿六人、其所有面積三千四百六十英加、現金借地百六十一人、耕作面積一萬二百七十五英加、歩合耕作者三百九十四人、耕作面

積三萬七千四百六十英加となつてゐる。而して耕作物の主なるものは砂糖大根、キャベヂ、玉葱、キャンタローブ等であるが、砂糖大根の邦人耕作面積は約一萬英加、キャベヂ千五百英加、これは主として砂糖大根耕作者が副業として作る。玉葱耕作者七十五人面積千二百英加、同州南部にはキャンタローブ約六千英加作られるが、其内邦人は四千五百英加の多きを耕作す。其他色々の農産物が出来るが最も有名なるは玉葱である。

ネバタ州 一九一〇年同州の日本人人口は八百六十四名であつたが、順次減少して現在は四、五百名に過ぎない。其内農業に従事するものは十數名で耕作面積は四、五百英加、作物は牧草、野菜瓜類である。

オレゴン州 オレゴン州の農業的價値は、加州のそれに比し遙かに低く、加州の一英加當り平均産額百四十一弗餘に對し、僅かに七十七弗に過ぎない。隨て加州の如く農業の發展を期待されないが、併し大麥、小麦、ポテト、ハップス、果實を産出し、特に苺、アップルは相當の發達を遂げてゐる。砂糖大根は一時メドフォード市附近を中心として栽培されたことがあるが、ユタ、アイダホの如き好成績を擧げるに至らなかつた。

一九一七年末の調査によると、同州の日本人農家は二百廿七戸で、土地所有三千二百六十四英加、總耕作面積は八千四百〇九英加、産額六十四萬八千八百弗となつてゐる。爾來多少の變遷があつても特記に價するものはないと思はれる。

ワシントン州 ワシントン州に日本人が農業を開始したのは何時頃であるかは審かでないが、同州農業の寶庫とも云はるゝホワイト・リヴァー流域に一九一七年頃倉本曾六、向井新太郎等が農業を始め、同胞の同平原に入るもの多く、一九〇八年頃は同胞農家數十戸に及び、農耕面積千四百七十英加に達した。元來ワシントン州は加州と比較して農業條件も低度であり、農園地域も狭小であるが、同胞農家の大部分はシアトル、タコマ兩市間の平野に存在し、主として小農組織の蔬菜耕作業者が多い。而して農業經營方法は借地耕作である。即ち同州は加州に倣つて

外人土地所有禁止法を制定し、總て日本人は土地を所有することが出来ず、蔬菜の如き短期作物のほか果樹園の如き永續性のものを栽培することが出来ない關係にあるからである。

日本人の耕作する作物は主として苜蓿、ポテト、其他の野菜、瓜類、小麦、牧草で、若干の牛乳搾取業がある。一九〇八年の同州邦人農業者数及び耕作面積は、三百七十七人、六千二百四十二英加であつた、越えて一九一三年には農園數五百八十五、所有地三百六十六英加半、借地一萬六千七百七十七英加半、總計耕作面積一萬六千四百八十四英加に進み、更に一九二〇年末にはタマス外十ヶ所だけでも苜蓿耕作面積千六百二十二英加、野菜五千六百九十英加、果物花卉百六十三英加に及び、一ヶ年の總收入約二百萬弗に及んでゐる。

而して従来より副業とされてゐた酪農、養鶏、養豚業と云つたものが相當な資本が投ぜられ專業化されんとし、同胞農家の収入を重厚ならしめんとする傾向を帯びて來た。爾來今日までは時代の進運に連れ、各同業者は組合を設け、各自の事業發展に努めて來た。これを要するに同州に於ける同胞農業は其數に於て必ずしも多くないが、均しく加州の邦人農家の如く其強固な意志力を以て耕作地を開拓し、獨特の技能を發揮し、以て同州農業に貢獻したること尠なからず、殊にトマト、胡瓜、菊、百合の花等を温室に於て栽培する方法は、一九〇九年頃より既に日本人によつて創始せられ、州外よりの輸入防止に努めたなどは特筆すべき一事である。

フロリダ州 同州には大和植民地があり、一九一八年六月現在所有土地四百卅六英加、借地五十一英加合計四百卅六英加であつた。耕作物の種類は早熟トマト、グリーンベツバー、ビーンズ、茄子等で、胡瓜、キャベヂも産出する。是等の野菜類は十一月中旬に成熟し、冬期用野菜として東部市場は勿論加州にまで出荷される。一英加の平均収量は、トマト四百箱、ベツバー五百箱、ビーンズ百箱、茄子四百箱である。

アリゾナ州 アリゾナ州に日本人の入つたのは可成古く、一八七六年大貫淺次郎はフィニックス市に到り、白

人を説いて五萬弗の資金を出さしめ、シカゴに至つて電氣動力機を購入し來り、同市に電燈と電車を通じさせたといふ痛快な史實がある。越えて一九〇六年日米勸業社員峰島儀一は、百廿名の同胞労働者を率ゐて同州精糖會社の大根園に入り、次に千九百十三年キャンタロープ及びレタス栽培に經驗を持つ十數名の同胞が入り來り、爾來年と共に同胞農業者の數を増し今日に至つた。而して同胞農業の最も發達したのはフィニックスとメサの二ヶ所である。

フィニックスはソールト・リヴァー平原中人口七萬を有する都會であるが、同市を中心として平原は四方に擴がり面積は卅五萬英加と云はれてゐる。日本人の農業労働者として入つた一九〇六年頃は荒涼たる沙漠同様な所が多く、同胞の手に依て開かれた箇所が甚だ多い。一九一〇年に石川三市外十數名は同地にキャンタロープを初めて産出し、之を州外に出荷し、一九一二年には松田勇助、石川三市、西銘徳太郎、小倉岩吉等はコロンダイク種苜蓿の大量生産に成功し、一九一四年には松田勇助はレタスの州外輸送最初の一貨車を送出した。而して現在重要視されるアスパラガス、トマト、キャベヂ、カリフラワーと云つた野菜が、初めて日本人の手により栽培されるようになった。一九二五年頃の調査に依るとフィニックスの同胞耕作面積はキャンタロープ約八千英加、レタス三千五百英加、苜蓿七十英加、メサ方面に於ては、キャンタロープ七百英加、レタス約二千英加、苜蓿七十英加、總計一萬四千三百英加餘となつてゐるが、其後邦人排斥等があり幾分減するに至つた模様である。同地方の排斥事件別篇排日史項に於て述べるが、一九三四年七月卅日同平原フール學校に於て外人土地法違反嫌疑を縱に起つた排日の焰は、八月下旬より暴動化し九月九日より十一月廿八日まで發砲、放火、爆彈投擲、其他暴動犯跡廿四件、被害人員六十九名に及んだ。時の羅府領事は十一月卅日事重大なりとして、アリゾナ州知事ムーアに宛て、抗議電報を發し、同知事の斡旋により漸く鎮靜するに至つた。

南部テキサス州

南部テキサスに初めて日本人が入り農耕に従事したのは一九〇三年（明治卅六年）九月、

高知縣人西原清東を嚆矢とする。西原は同州に入つて米作を試み、現在八百六十英加を所有し、借地四〇二英加を耕作してゐる。日本人在住者百八十六名。耕作面積二千五百五十英加他に耕作監督千三百英加、大部分は米作である。同州も加州外人排斥土地法に倣つて同様法律を制定、日本人は現在土地を所有することが出来ないのである。

叙位叙勳ノ恩典ニ浴シタル在米日本人

(功勞——日米貿易、産業成功、公共事業、日米親善)

大正一一・七・二三	正四位勳三等瑞寶章	工博	高峰	讓吉
一五・三・一七	勳四等旭日章	牛島	謹爾	
昭和 二・二・二三	勳四等瑞寶章	松見	大八	
三・二・一〇	正六位	堀越	善重	郎
、	勳五等瑞寶章	安孫子	久太郎	
一四・四・一一	正六位勳四等瑞寶章	新井	領一郎	
一五・四・一六	從六位	荒谷	節夫	

第二章 商業

日米貿易

緒言 日米貿易は、徳川幕府の末期に當り、新時代の黎明を告げる、轟々たる輿論に動かされて、一八五四年(安政元年)六月二日を以て米國と締結した第一日米和親條約に端を發し、米國は領事ハリスを日本に遣はし、幕府に向つて開港を迫り、一八五八年(安政五年)井伊大老と、ハリスとの間に日本五港二府を開放する下田條約を取結び、茲に日米兩國の貿易開始を見るに至つたものである。同條約は、大體に於て、

- 一、江戸及各開港場に外交官を駐在せしむる事。
 - 二、通商貿易を自由ならしめ、開港場を五港以上に増加する事。
 - 三、米國人は江戸及開港場に居住の權利を與ふる事。
 - 四、米國貨幣均一價格設定の事。
 - 五、宗教上の儀式自由の事。
 - 六、米國領事が在留米人に對する裁判權を有する事。
- 等が定められ、開港場として長崎、函館、神奈川、兵庫、新潟五港、江戸、大阪を開放した。即ち之に依つて日米通

商への開門は開かれたのであるが、日本人の海外事情に疎く、有無相通せんとする貿易事業に對する經濟的思想は極めて幼稚な時代であり、而かも該條約には治外法權の規定があつて、法律典章に不備であつた日本の法廷は、在留外人を審判するの權能を有せず、輸入關稅の如きものも、其奢侈品たるも、原料品たるも、未製品たるもを問はず、一律に従價五分率以上を課する事が出来ないといふ、片務的な條約の羈絆を脱し得ず、日本の對外貿易は甚だ不利益な立場にあつた。

初期の日米貿易 現在の如く輸出入貿易が縱横に發達し、通信、運搬機關、信用制度を最極度に發揮して貿易實績を擧げつゝある實情に比し、全く隔世の感があるのであるが、當時米國に於ても東洋諸國との貿易は「冒險的事業」の一種として、恰かも冒險家が先人未踏の地域に財寶を探ると同一の心理状態で事に當つておつた。従つて其取引は現物取引、物々交換の形式に則り、雜多な米國製品を大帆船又は黒船に満載して日本を訪ひ、支那、比律賓を経て往復一年、二年の長日子を費し、未開の土人に對するが如き態度を以て、港々に交易し莫大なる巨利を獲得し來つたのである。

明治維新と 然るに明治維新の偉業は完成され、國內の改造的雄圖が、段々と國民に理解されると共に、開國**日米貿易** 進取の氣象は湧然として起り、舊を捨て、新に就かんとするの舊弊打破と産業の振興は著しく進展を示し、加ふるに維新の大業に參與した當路の人々は、何れも年少氣銳、盛に經論を行ひ、木戸孝九、大久保利通、の如き建設的政治家は、伊藤博文、大隈重信、松方正義、井上馨等の新進政治家を指導して、國富民福を高唱し、通商貿易の獎勵に力を注いだ。一方海外事情に明るい福澤諭吉は經國済民の術は「花より團子」の實利主義にありと言論文章を以て旺んに通商の必要なる事を説き、**遊澤榮一**、**森村市左衛門**、**岩崎彌太郎**等が相踵いで對外貿易に従事するに至り、茲に日米貿易の地盤は開拓され、爾來日清、日露の大戦に依り、我國の實力は廣く世界に認識され、と共

に歐洲大戦に際會して我が對外貿易は更に飛躍的大進展を遂げ、國力の充實と産業の發展は實に有史以來の盛況を呈して。最近滿洲事件、日支事變の相次いで勃發するや日貨排斥の運動、通商條約の廢棄となり、日米貿易に幾分の支障を來したが、現在に於ては差したる變化もなく今日に及んで居る。今日日米貿易史を按ずるに、これを

- 第一期 一八六五年（明治初年）より、一八九五年（明治二十八年日清戰役）まで
- 第二期 一八九六年（明治二十九年）より一九〇五年（明治三十八年日露戰役）まで
- 第三期 一九〇六年（明治三十九年）より一九一四年（大正三年歐洲第一次大戦）まで
- 第四期 一九一五年（大正四年）より、一九二八年昭和三年）まで
- 第五期 一九二九年（昭和四年）より一九三九年（昭和十四年）までの五期に區劃して検討するが、その全貌を知るに最適なりと信じ、以下順次これを叙述する事とした。

日米貿易第一期

條約改正以後 日米貿易の初期は極めて幼稚な時代であり統計其他の資料は殆んど皆無と謂ふてもよい位であるが。米國統計局の發表に依ると一八六〇年（萬延元年）米國から日本への輸出額は萬とあるのみで、其内容を審みる事は出来ない。降て日米通商を開始七年後の一八六五年（慶應元年）の米國對外貿易總額は、輸出四億七千萬弗其中米國の亞細亞諸國との貿易は輸出八百五十三萬弗、輸入一千一百廿一萬三千弗で、當時米國と東洋との貿易が如何に微々たるものであつたかを知る事が出来る。

日本政府が國別輸出入統計を取り初めたのは、一八七三年（明治六年）からで、それ以前は國別に依る輸出入額は判明しない。

一八六八年(明治元年)より一八七三年(明治六年)の日本の對外貿易は左表の如くである。

自一八六八年 至一八七二年 日米の對外貿易 (單位圓)

年	輸出	輸入
一八六八(明治元年)	一五、五五三、四七三	一〇、六九三、〇七二
一八六九(同 二年)	一二、九〇八、九七八	二〇、七八三、六三三
一八七〇(同 三年)	一四、五四〇、〇一三	三三、七四一、六三七
一八七一(同 四年)	一七、九六八、六〇九	二一、九一六、七二八
一八七二(同 五年)	一七、〇二六、六四七	二六、一七四、八一五

自一八七三年 至一八八二年 日本の對米輸出と總輸出比較

年	對米輸出	日本の總輸出
一八七三(明治六年)	四、二二六、一六二	一一、六三三、四四一
一八七四(同 七年)	七、四六四、八四四	一九、三一七、三〇六
一八七五(同 八年)	六、八九〇、一三二	一八、六一一、一一一
一八七六(同 九年)	五、七九七、八二八	二七、七七一、五二八
一八七七(同 十年)	五、二二二、三二二	二二、三四八、五二二
一八七八(同 十一年)	五、八四五、〇六五	二五、九八八、一四〇
一八七九(同 十二年)	一〇、八七九、〇五三	二八、一七五、七七〇
一八八〇(同 十三年)	一二、〇四一、一五一	二八、三九五、三八七
一八八一(同 十四年)	一一、〇八七、五五六	三一、〇五八、八八八
一八八二(同 十五年)	一四、二八〇、一九九	三七、七二一、七五一

右表の對米輸出の狀態を見るに、一八七四年(明治七年)大藏省貿易年表を照合すると對米輸出の主なる製茶は六百九十三萬圓を筆頭とし、生絲十二萬七千圓、扇子五萬七千圓、樟腦三萬八千圓、銅器三萬六千圓が順位であつた。

後年重要貿易品たる花菱は僅かに百六十圓、陶磁器一萬五百餘圓、絹織物衣類五千八百圓と云ふ僅少なるものであつた。

費府大博と 然るに一八七六年(明治九年)費府に開催された獨立百年萬國博覽會に、日本政府は三萬圓の**日本品宣傳** 加費を支出して生絲、茶、陶磁器其他の出陳を試み、始めて日本品を米國市場に紹介する所があつた。是が宣傳は忽ち效を奏して、一八八〇年(明治十三年)には其面目を一新し生絲は一躍二百二十六萬圓、炭

斗糸は百三十六萬圓、樟腦は十七萬九千圓、扇子十六萬九千圓、陶磁器十六萬七千圓、漆器十三萬四千圓。

生糸の輸出躍進 一八八二年(明治十五年)に至り茶の六百七十九萬九千圓、生絲は六百二十萬七千圓に達し

漸く對米輸出の大宗たる製茶の壘を廢するに至つた。

自一八七三年 至一八八三年 日本の米國よりの輸入と總輸入比較

年	米國よりの輸入	日本の總輸入
一八七三(明治六年)	一、〇一七、七六一	二八、一〇七、三九〇
一八七四(同 七年)	一、〇四七、二五〇	二三、四六一、八一四
一八七五(同 八年)	一、九二〇、三四六	二九、九七五、六二八
一八七六(同 九年)	一、一二四、八八二	二三、九六四、六七九
一八七七(同 十年)	一、七三六、七八一	二七、四二〇、九〇三
一八七八(同 十一年)	二、七二七、五八五	三二、八七四、八三四
一八七九(同 十二年)	三、二二二、二七三	三二、九五三、〇〇二
一八八〇(同 十三年)	二、六六九、三三三	三六、六二六、六〇一
一八八一(同 十四年)	一、八一六、二〇〇	三一、一九一、二四六
一八八二(同 十五年)	三、一三三、六五五	三九、四四六、五九四

右表の品目別に依る對日輸出は一八七三年（明治六年）より一八七七年（明治十二年）迄は不明なるも一八八〇年（明治十三年）の主なる品目は石油百四十萬圓、時計類二十三萬圓、旋線銃十二萬五千圓、熟皮五萬八千圓洋燈五萬圓、機械類二萬五千圓、一八八二年（明治十五年）石油二百三十一萬圓で其他格別主なる商品は無し。

遅々たる外國貿易

當時の日米貿易は明治新政布かれ、國內改造に全力を挙げ、産業振興と對外貿易に努めたとは云ふものの極めて微々たるものであると共に、外國貿易の知識乏しく、關稅の自主權も無く、種々の不合理が行はれ、輸入品に對し一率の平均五分を課税するに止まるのみならず、政府の歳入を計る爲め、輸出品には滑稽にも「輸出税」などを賦課してをつたのである。

駐日米國公使の

日米貿易意見書

一八八三年（明治十六年）に麥粉類五萬四千圓が、米國より日本へ輸出されたと云ふ他、日清戰爭開始前の一八九二年に至る。日米貿易統計は茲に省略するが、其趨勢は大要、前記と同様の傾向を辿つておつた。一八八五年（明治十八年）日本駐在米國公使ハツバートが、米國政府に提出した意見書を見るに、日米貿易當時の狀態に關し左の如く述べておる。

日本の輸出入は總額六千八百八十三萬七千四百五十六弗にして、其中合衆國との取引は千五百五十七萬三千五百十弗に達し、日本は各國に輸出する總額の三分の一を米國に輸出し、而して米國は僅かに其輸出額の五分の一を日本に輸入するに過ぎず（中略）一八八五年（明治十八年）の輸出總額は千四百八十二萬四千圓にして、英國より日本に輸出したる額は、日本より英國に輸出したる額に比し、其超過一千萬三百四十二圓なり。要するに米國の物産は石油を除くの外日本の市場に上るもの殆んど絶無と云ふも可なる有様なり云々。

右駐日公使の意見書の如く、米國よりの日本へ輸入される商品は極めて小額であつたが、日本より米國へ輸出される商品目を見るに、

△一八八三年（明治一六）生絲六百五萬圓、製茶六百二萬圓とあり。

△一八八七年（明治二〇）生絲一千百十六萬圓製茶六百九十萬圓。

△一八八八年（明治二一）絹手巾八十三萬圓、陶磁器三十二萬圓、麥稈買田二十一萬圓。

△一八八九年（明治二二）生絲一千五百五十七萬圓、製茶五百三十萬圓、絹手巾百十萬圓、陶磁器三十九萬圓、硫黃三十萬圓。

△一八九〇年（明治二三）生絲九百三十一萬圓、製茶五百三十萬圓、絹手巾百八十七萬圓、陶磁器四十萬圓、花菱二十九萬圓。

年と共に激増を示してゐる。

日米貿易最初の統計

日本領事館の初めて紐育に設置されたのは一八七三年（明治六年）であるが當時顧問として在任した米人ウキリアム、イー、チャーチ氏の手記に依ると一八七三年七月一日より一八七四年六月三十日に至る一ケ年間の日米貿易は左の如くで之が最古の記録である。（紐育日本人發展史）

△日本へ輸出せる品目及金額

品目	金額	品目	金額
製煉汁類	九、四一〇	懸時計諸器	七二、三一〇
生物（馬、豚、綿、羊）	一九、三〇〇	石炭	二、八七六
打球盤	一、七一八	木綿	三五、三四五
書簿	四五、二〇三	藥劑及製藥	二二、〇五八
ブレード並ニ同種	六三、七九〇	小間物類	七、六一八
大小麥、玉蜀黍、麥粉	一一、五六九	果實（生物熱物、干物）	二八、四一〇
汽車			

品目		金額	品目		金額
人	参	二二、七七〇	秤	量器	二、六〇二
硝子	硝子器	五八、四四九	種	物	一、五四〇
金	銀	六、四九六、〇八六	縫	物	一九、五四二
帽子(羊綿毛、皮バラム)		四、一八六	ウキ	スキ、アラ	四、一三三
生	革	二、九〇七	ソ	ール	四、四二九
ホ	ツ	二、四四二	白	糖	八五四
イン	デ	六、八五四	黄	糖	一一、一三二
鑄、鋼、鐵	諸品	一一八、九八四	モ	ラ	四三五
ラ	ン	五八、四九五	白	ツ	七、二八〇
製	大理石及石炭	一七〇、二二七	衣	類	二九、七〇四
音	樂器	三、三三八	酒		二、六一七
油	紙文房具類	二、四四二	木	材(家具用)	一一、五三〇
紙	文房具類	一四一、九五六	木	製家具	一六、六四二
印	刷器	四四、〇四一	羊	毛並羅沙	二、六七四
食物(ベーコン、パツ		六、六八〇	羊	絲製諸品	三、一三二
トル、チーズ魚獸肉)		六八、四〇四	羊	絲製諸品	二二、六五八
水	銀	二、一八〇	米	諸類	以下不明
樟	腦	七、一〇一	錫	諸類	三四〇、九六四
茶	具	八八三	生	木家銀	二、七三六
毛	類	一八、〇六三	木	家銀	不明
金	類	不明	家	銀	不明
銀	類	一〇〇七、六三〇	銀	貨	不明
		六、四五〇	貨		不明

品目		金額	品目		金額
衣類	及銅物		果實	板	
銅	銅		硝子	類	
銅	器		鐵	類	
木	綿器		油	(オリーブ)	
陶	器		紙	類	
小	物		絹	類	
魚	(鱈)		巻	類	

前記の如く日本より米國への輸入は明治維新政府の努力に依り、貿易幼稚時代にも拘はらず相當額に達しておるが米國より日本への輸出は依然僅少であつて、一八八八年(明治二十一年)石油三百二十萬圓、機械類三十八萬圓、麥粉穀粉を合せて十三萬圓等で、後年米國の對日輸出の大宗となつた棉花の如きは僅々一萬二千圓であつた。然し其後日本の紡績業發展に伴ひ一八一九年(明治二十四年)には百一萬圓同一八九二年には百四十三萬圓に増額して來た。當時日本政府は海外貿易の發達助長の目的を以て其の保護誘掖に大に努めたが、多くは失敗の歴史を止むるの狀態にて米國側は長兄の幼弟を扶翼する態度であつた。爲めに日本の對米貿易は順調の發展を爲すべき基礎を十分に固める事が出來た。即ち一八七三年(明治六年)より一八九三年(明治二十六年)に至る、二十一年間の日米貿易は左表の如く、貿易残高は常に日本の爲め大に利する所あり、新時代に目醒めた日本の國運開發に預つて力があつた事は争はれない事實である。

明治六年 日米貿易總額
 至同廿六年
 對米輸入總額 三億三千廿六萬圓
 對日輸出總額 七千三百一十一萬圓

日米貿易第二期

日米貿易史上、日清戦役より（一八九四年）日露戦役（一九〇四年）に至る十年間は、我が對外貿易の劃期的時代とも云ふべく日清戦役の大勝に依り、一躍世界的新興國となつた日本が政治に産業に著しき發展を遂げ、國力は急速に膨脹するに至り、明治二年澤宣嘉外務卿時代よりの宿題であつた條約改正の事業は岩倉、井上、大隈等の失敗に鑑み、國內法典の完成、教育の普及、官制の確立に全力を擧げた結果、諸外國に於ても日本の國力充實を認識して條約改正の議は其の緒に就き、陸奥宗光の外務大臣となるや、一八九四年（明治廿七年）十一月廿日華盛頓に於て我が全權公使栗野慎一郎は法權と關稅の獨立を標的とした新條約日米通商航海條約を締結するに至り、日米貿易は面目を一新して益々其濃度を加ふるに至つた。

市俄古萬博參加

新條約締結の機運熱せる一八九三年（明治二十六年）市俄古コロンブスのアメリカ發見四百年記念萬國博覽會が開催されたのを機會として、對米貿易の緊要性に鑑み日本政府は金六十二萬圓を投じて、萬國博覽會に参加し、日本生産品の紹介に努めた爲め其の影響は大に見るべきものがあり、日清戦役に依る我軍の大勝も原因して、明治二十六年對米貿易總額二千七百七十三萬圓であつたものが、一八九四年（明治廿七年）には一躍四千三百三十二萬圓、翌一八九五年（明治廿八年）には五千四百二萬圓に達した。

日本より米國へ輸入

米國より日本へ輸出

一八九四（明治二七）年
一八九五（同 二八）年

四、三三三〇、〇〇〇弗
五、四〇二〇、〇〇〇弗

一、〇九八〇、〇〇〇弗
九二七〇、〇〇〇弗

臥薪嘗膽

日本は支那と戦ひ大勝を博して、李鴻章と伊藤博文の下關條約により遼東半島を獲得したのであるが佛露獨の三國干涉により、國民は涙を呑んで其の屈辱に服従せざるを得ず臥薪嘗膽の標語は、全國民の血を喚らし

て、發憤興起し、舉國一致富國強兵に邁進すると共に、海外貿易に力を注ぎ、有爲の人材は續々として實業界に活躍するに至り、日米貿易は著しく激増した。日露戦役に至る迄の日米貿易歴年表は左の通りである。

△日本の總輸出と對米輸出との比較表（單位圓）

年	日本の對米輸出額	日本の全輸出額
一八九五（明治二八）	五二、〇二八、九五〇	一三六、一一二、一七八
一八九六（同 二九）	三一、五三二、三四一	一一七、八四二、七六一
一八九七（同 三〇）	五二、四三六、四〇四	一六三、一三五、〇七七
一八九八（同 三一）	四一、三一、一五五	一六五、七五三、七五三
一八九九（同 三二）	六三、九一九、二七〇	一一四、九二九、八九四
一九〇〇（同 三三）	五二、五六六、三九五	一〇四、四二九、九九四
一九〇一（同 三四）	七二、三〇九、三五九	二五二、三四九、五四三
一九〇二（同 三五）	八〇、二三二、八〇五	二五八、三〇三、〇五六
一九〇三（同 三六）	八二、七二三、九八六	二八九、五〇二、四四二

△日本の總輸入と米國よりの輸入額比較表

年	米國より日本への輸入額	日本の全輸入額
一八九五（明治二八）	九、二七六、三六〇圓	一二九、二六〇、五七八圓
一八九六（同 二九）	一六、三七三、四一九	一七一、六七四、四七四
一八九七（同 三〇）	二七、〇三〇、五三七	二一九、三〇〇、七七二
一八九八（同 三一）	四〇、〇〇一、〇八九	二七七、五〇二、一五七
一八九九（同 三二）	三八、二一五、八九四	二二〇、四〇一、九二六
一九〇〇（同 三三）	六二、七六一、一九五	二八七、二六一、八四六
一九〇一（同 三四）	四二、七六九、四二〇	二五五、八一六、六四五
一九〇二（明治三五）	四八、六五二、八二五	二七一、七三一、二五九

一九〇三(明治三六)

四六、二七三、〇七一

三一七、一三五、五一八

△米國の總輸出と對日輸出との比較表(單位弗)

年	代
一八九五	(明治二八)
一八九六	(同 二九)
一八九七	(同 三〇)
一八九八	(同 三一)
一八九九	(同 三二)
一九〇〇	(同 三三)
一九〇一	(同 三四)
一九〇二	(同 三五)
一九〇三	(同 三六)

米國の對日輸出額

二六、〇一四、〇〇〇弗
一五、七六〇、〇〇〇
二六、二一八、〇〇〇
二〇、六五〇、〇〇〇
三一、九五〇、〇〇〇
二六、二八三、〇〇〇
三六、一五四、〇〇〇
四〇、一六〇、〇〇〇
四一、三六一、〇〇〇

米國の全輸出額

八〇七、五三八、二六五弗
八八二、六〇六、九三八
一、〇五〇、九九三、〇〇〇
一、二三一、四八二、〇〇〇
一、二二七、〇二三、〇〇〇
一、三九四、四八三、〇〇〇
一、四八七、七六四、〇〇〇
一、三八一、七一九、〇〇〇
一、四二〇、一四一、〇〇〇

△米國の總輸入と日本よりの輸入額表

年	代
一八九五	(明治二八)
一八九六	(同 二九)
一八九七	(同 三〇)
一八九八	(同 三一)
一八九九	(同 三二)
一九〇〇	(同 三三)
一九〇一	(同 三四)
一九〇二	(同 三五)
一九〇三	(同 三六)

日本より米國への輸入額

四、六三八、〇〇〇弗
八、一八六、〇〇〇
一三、五一五、〇〇〇
二〇、〇〇〇、〇〇〇
一九、一七五、〇〇〇
三一、三八一、〇〇〇
二一、三八四、〇〇〇
二四、三二六、〇〇〇
二二、一三六、〇〇〇

米國の全輸入額

七三一、九六九、九六五弗
七七九、七二四、〇〇〇
七六四、七三〇、〇〇〇
六六〇、〇四九、〇〇〇
六九七、一四八、〇〇〇
八四九、九四一、〇〇〇
八二二、一七二、〇〇〇
九〇三、三二〇、〇〇〇
一、〇二五、七一九、〇〇〇

日米貿易第三期

日露戦役後の日米貿易

日露戦役は、露國の極東侵略に對する政策が日清戦役後益々露骨となり、三國干渉に次で、旅順半島及南滿一帶の地を日本より奪取し、更らに朝鮮の獨立を威嚇するの暴戻に對し、臥薪嘗膽主義に依り、銳意國力の充實を圖つて來た日本は敢然起つて正義の聖戰を宣するに至り、國民は國運を賭し此の大戦に美事強露を屈服せしめたのであるが、兵力と財力を兩ながら銷盡するの危機に際し、米國大統領ルーズヴェルトの調停により一九〇五年九月五日ポウツマウスに於て講和條約の成立を見るに至つた。然るに日本は一錢の償金をも露國より獲る事能はず、自ら二十億を償還せざるべからざる破目となり、國力の恢復は一に生産力の増進と輸出貿易の隆盛によるより途無く萬難を排して海外貿易の進展に努力した。幸にも日露戦役の大勝に依り東洋の一孤島であつた日本は、一躍世界的強國として知れるに至つた結果、日本品に對する一種の宣傳は著しき効果を擧げ、海外貿易の實は着々として實現するの一方、横濱、神戸を中心とせる外國商館は續々として本國へ引揚げ、茲に始めて條約改正實施後の海外貿易は劃期的の成功を齎すに至つた。従つて日米貿易も旺盛を極め、戦後加州に學童隔離問題、土地所有禁止問題の如き排日氣運は擡頭し來つたにも拘はらず、日米貿易は何等の影響を蒙る事無く順調に進展して來た。日露戦役より世界第一次大戦迄の日米貿易は左表の如くである。

△對米輸出と日本の全輸出との比較表

年	代
一九〇四	(明治三七)
一九〇五	(同 三八)
一九〇六	(同 三九)

日本の全輸出額

三一九、二六〇、八九六圓
三二一、五三三、六一〇
四二三、七五四、八九二

日本の對米輸出額

一〇一、二五〇、七七三圓
九四、〇〇九、〇七二
一二五、九六四、四〇八

一九〇七(同 四〇〇)
 一九〇八(同 四一〇)
 一九〇九(同 四二〇)
 一九一〇(同 四三〇)
 一九一一(同 四四〇)
 一九一二(大正 元)
 一九一三(大正 二)

四三二、四二一、八七三
 三七八、二四五、五七三
 四一三、一一二、五一一
 四五八、四二八、九九六
 四四七、四三三、八八八
 五二六、九八一、八四二
 六三二、四六〇、二二三

一三一、一〇一、〇一五
 一二一、九九六、五八六
 一三一、五四七、一三九
 一四三、七〇二、二四九
 一四二、七二五、六四二
 一六八、七〇八、八九六
 一八四、四七三、三八二

△同上米國よりの輸入と日本の總輸入との比較表

年 代
 一九〇四(明治三七)
 一九〇五(同 三八)
 一九〇六(同 三九)
 一九〇七(同 四〇)
 一九〇八(同 四一)
 一九〇九(同 四二)
 一九一〇(同 四三)
 一九一一(同 四四)
 一九一二(大正元年)
 一九一三(同 二年)

日本の總輸入
 三七一、三六〇、七三八圓
 四八八、五三八、〇一七
 四一八、七八四、一〇八
 四九四、四六七、三四六
 四三六、二五七、四六二
 三九四、一九八、八四三
 四六四、二二三、八〇八
 五一三、八〇五、七〇五
 六一八、九九二、二七七
 七二九、四二一、六四四

米國よりの輸入
 五八、一六六、三四四圓
 一〇四、二八六、五二八
 六九、九四八、六八一
 八〇、六九七、三六二
 七七、六三六、五五六
 五四、〇四三、一七二
 五四、六九九、一六六
 八一、二五〇、九〇七
 一二七、〇一五、七五五
 一二二、四〇八、三六一

△日本より米國へ輸出品目

右表の日本より米國へ輸出されたる品目の主なるものを見るに、

○一九〇四年(明治三七) 生絲六千七十四萬圓△製茶一千百萬圓△羽二重一千三十萬圓△陶磁器百九十三萬圓△麥稈真田百六十萬圓△樟腦百二十五萬圓△刷毛六十二萬圓△硫黃五十二萬圓△薄荷腦三十二萬圓

○一九〇六年(明治三九) 生絲七千八百四十三萬圓△羽二重九百八十萬圓△製茶九百十萬圓△花延五百三十六萬圓△陶磁器四百三十三萬圓△絹手巾二百十九萬圓△樟腦百二十一萬圓△麥稈真田八十一萬圓△刷毛七十八萬圓△硫黃六十八萬圓△玩具四十五萬圓△竹製品四十三萬圓△玄米三十七萬圓△卓子掛け及紙類各三十五萬圓△扇子並に團扇三十三萬圓
 ○一九一三年(大正二年) 生絲一億二千五百九十萬圓△製茶八百七十萬圓△麥稈真田六百七十六萬圓△羽二重五百〇六萬圓△帽子主として東洋バナマ三百七十一萬圓△銅三百三十萬圓△花筵二百九十二萬圓△布帛製品百二十七萬圓△絹屑絲百萬圓

△米國より日本へ輸出品目

右表の米國より日本へ輸出されたる品目の主なるもの左の如し。

○一九〇四年(明治三七) 小麥及小麥粉千二百萬圓△棉花九百八萬圓△石油七百七十六萬圓△機械類三百五十九萬圓△革類三百三十六萬圓△鐵及鋼材二百八十四萬圓△牛革水牛革二百六十六萬圓△棉布類二百十七萬圓
 ○一九〇五年(明治三八) 棉花三千五百十六萬圓△小麥同粉一千二百萬圓△革類一千百萬圓△牛革及水牛革七百三十三萬圓△鐵及鋼材四百二十萬圓△綿布類二百二十萬圓△葉煙草二百十萬圓△鐵針類百十七萬圓
 ○一九一三年(大正二年) 棉花六千四百二十二萬圓△小麥同粉一千百萬圓△機械類七百三十一萬圓△建築材料三百五十八萬圓

日米貿易第四期

歐洲大戰と日米貿易 一九一四年六月二十八日澳洪國皇儲フェルヂナンド及び同妃殿下が、ボスニヤの首府

サラゾー市で、塞耳比亞の一青年に狙撃せられ、其の一發の銃聲は、

交戦國廿六△總人口十六億一千九十二萬人△面積合計四千三百四十萬二千七百六十二方哩△戰費約三千七百二十億圓△死者七百七十八萬人△負傷者一千八百六十八萬人△捕虜若くは失踪者七百八萬人

と云ふ大犠牲を拂ふの世界大戰は勃發したのである。日本は日英同盟の誼により、東洋平和を維持するの必要上、

一九一四年八月二十三日獨逸に對し宣戰を布告したのであるが、大なる戰禍を被る事無く、却つて歐洲の動亂により

經濟界は大活況を呈し對外貿易は有史以來の激増を見るに至り、日米貿易も亦異常なる發展を遂げた。戰時及戰爭直

後に於ける例外的な貿易額の膨脹は必然であるとしても、大戰後の一九二三年（大正十二年）の日本の對米輸出は戰

争直後の一九一三年（大正二年）のそれより多き事三二〇パーセント、米國よりの輸入は同じく四二〇パーセントの

激増を示してゐる。

△日本の對米輸出並に總輸出比較表

年	對米輸出	總輸出
一九一四（大正三）	一九六、五三九、〇〇六圓	五九一、一〇一、四六一圓
一九一五（同四）	二〇四、一四一、八四四	七〇八、三〇六、九九七
一九一六（同五）	三四〇、二四四、八一七	一、二七、四六八、一一八
一九一七（同六）	四七八、五三六、八四五	一、六〇三、〇〇五、〇四八
一九一八（同七）	五三〇、一二九、三九三	一、九六二、一〇〇、六六八
一九一九（同八）	八二八、〇九七、六二一	二、〇九八、八七二、六一七
一九二〇（同九）	五六五、〇一七、一二六	一、九四八、三九四、六一一
一九二一（同一〇）	四九六、二八三、八七九	一、二五二、八三七、七一五
一九二二（同一一）	七三二、三七六、六〇七	一、六三七、四五一、八一八
一九二三（同一二）	六〇五、六一九、四三六	一、四四七、七五〇、七二〇

△米國より日本へ輸入並總輸入

年	米國よりの輸入	總輸入
一九一四（大正三）	九六、七七一、〇七七圓	五九五、七三五、七二五圓
一九一五（同四）	一〇二、五三四、二七九	五三二、四四九、九三八
一九一六（同五）	二〇四、〇七八、九五〇	七五六、四二七、九一〇
一九一七（同六）	三五九、七〇七、八五三	一、〇三五、八一、一〇七
一九一八（同七）	六二六、〇二五、五三〇	一、六六八、一四三、八三三
一九一九（同八）	七六六、三八一、四三八	二、一七三、四五九、八八〇
一九二〇（同九）	八七三、一八二、二五一	二、三三六、一七四、七八一
一九二一（同一〇）	五七四、四〇〇、九一五	一、六一四、一五四、八三二
一九二二（同一一）	五九六、一六九、四九〇	一、八九〇、三〇八、二二二
一九二三（同一二）	五一、九七七、一三六	一、九八二、二三〇、五七〇

右表に示す如く、日本は一八九四年（明治二十七年）以來一九一三年（大正二年）に至る二十年間を通じて、輸入超過國であつたが、日清、日露の二大戦役が原因となり、左表の如く容易に輸出超過國たるには至らなかつたのである。

年	輸出（平均年額）	輸入（平均年額）
自至	一四〇、八五六千圓	二〇五、三七一千圓
自至	二五三、九七七	二八七、三七六
自至	三九二、三四九	四五二、九〇〇
自至	五一六、三五九	五六四、六七三

然るに一九一四年（大正三年）歐洲大戰の勃發するや頓に形勢は逆轉し、一九一四年には輸出總額六億一千三百十二萬九千圓、輸入六億千四百二十二萬二千圓となり、二百七十萬七千圓の輸出超過となつた。一九一五年（大正四年）に

於ては輸出七億二千九百四十三萬八千圓に對し五億四千五百二十七萬六千圓を以て輸出超過は一躍して、一億八千四百十六萬二千圓に上り、爾後左の如き驚くべき躍進を示して居る。

年次	輸出	輸入
一九一六(大正五)	一、一五三、一八七千圓	七七〇、五三七千圓
一九一七(同 六)	一、六〇三、〇〇五	一、〇三五、八一
一九一八(同 七)	一、九六二、一〇〇	一、六六八、一四三

之を對米貿易に觀るに、一九一四年(大正三年)日本の對米輸出總額は一億九千六百萬圓であつたが、一九一五年(大正四年)には二億四百萬圓、一九一六年(大正五年)は三億四千萬圓、一九一七年(大正六年)は四億七千八百萬圓、一九一八年(大正七年)は五億三千萬圓に激増してゐる。

輸出の一大躍進

右の如く日本の輸出が一大躍進を爲した原因は、歐洲交戦國は戦局の進展に伴ひ、軍需品製造に忙殺され殆んど他を顧みるの暇なく伊太利の生絲、英國の各種工藝品、佛蘭西の絹織物の如き孰れも米國市場の需要を滿すに足るの生産力を有せず、必然の結果として日本品が歡迎され、生絲、羽二重、製茶は勿論、獨逸品の陶磁器、玩具、帽子、金箔、白耳義の硝子、柳竹製品、佛國の刷毛、釦の如き市場は日本品の爲めに開放されたるかの觀があつた。即ち日本より米國へ輸出されたる主なる品目は、

- ◎一九一四年(大正三年)生絲一億三千四百七十九萬圓△製茶一千百萬圓△麥稈眞田類七百一十一萬圓△羽二重六百七十五萬圓△陶磁器三百四十四萬圓△帽子三百八萬圓△銅塊鎚二百九十萬圓△花筵百八十六萬圓△豆類百五十七萬圓△米百五十四萬圓△刷毛百四十九萬圓△罐詰罐詰食料品百三十九萬圓△卓子掛百二十二萬圓△玩具百三萬圓○一九一六年(大正五年)羽二重一千三百萬圓△豆類四百五十二萬圓△木臘其他油類二百六萬圓

歐洲大戰以後の日米貿易

歐洲大戰に依る好況と物價騰貴に、大膨脹を來した日米貿易は、一九二二年

(大正十年)の經濟界の大反動により、急轉して、一九二一年度には、對米輸出約二割、米國よりの輸入約三割五分見當の激減を見た。之は歐洲各交戦國の産業復活により、戦時中無競争の狀態にあつた日本製品が米國市場より驅逐せらるゝものが多數あつたからであるが、同年以來の日米貿易は、逐年増加の傾向を示し、戦後米國人の生活程度が向上し、絹製品を廣く用ゐらるゝに至り、其の普遍化は絹を輸出する日本の對米輸出が、益々増加する事になつたのである。

△日本の對米輸出並に總輸出額比較表

年次	日本の對米輸出	日本の總輸出
一九二四(大正十三)	七四四、九二三、〇〇〇圓	一、八〇七、〇三四、八三七圓
一九二五(大正十四)	一、〇〇六、二五二、〇〇〇	二、三〇五、五八九、八〇七
一九二六(昭和 元)	八九〇、一〇二、五七六	二、〇四四、七二七、八九一
一九二七(昭和 二)	八六六、七四八、五四〇	一、九九二、三一七、一六五
一九二八(昭和 三)	八二六、一四一、〇九七	一、九七一、九五五、三五二

△米國より日本への輸入額並に總輸入額の比較表

年次	日本の米國よりの輸入	日本の總輸入
一九二四(大正十三)	六七一、〇〇五、〇〇〇圓	二、四五三、四〇二、二五六圓
一九二五(大正十四)	六六四、九九二、〇〇〇	二、五七二、六五七、八六三
一九二六(昭和 元)	六八〇、六八五、七六一	二、三七七、四八四、四九三
一九二七(昭和 二)	六七三、六八五、九〇六	二、一七九、一五三、八五八
一九二八(昭和 三)	六二五、五〇三、〇八二	二、一九六、三一四、七二七

右表に依り、日米貿易は一八七三年(明治六年)に於て、其輸出入額五百二十三萬圓、日本對外貿易總額の一割強であつたものが、一九二八年(昭和三年)度に於ては、其輸出入額十四億五千二百萬圓と云ふ巨額に達し、日本對外

貿易總額の、約三割五分を占むるに至るの、重要地位を示すに至つた。

△米國對外輸出と日本への輸出割合表

年	米國の總輸出額	日本への輸出額	日本の割合
一九二〇—一九二四年平均	二、一六六、〇〇〇千弗	四四、二〇〇千弗	二・〇%
一九二一—一九二五年平均	四、三九七、〇〇〇	二三九、二〇〇	五・四
一九二三	四、一六七、〇〇〇	二六四、二〇〇	六・三
一九二四	四、五九一、〇〇〇	二五〇、三〇〇	五・五
一九二五	四、九〇九、〇〇〇	二二七、二〇〇	四・六
一九二六	四、八〇八、〇〇〇	二六一、〇〇〇	五・五
一九二七	四、八五六、〇〇〇	二八八、一〇〇	五・三
一九二八	五、〇三〇、〇〇〇	二八八、一〇〇	五・七

△米國對外輸入と日本よりの輸入割合表

年	米國の總輸入額	日本よりの輸入額	日本の割合
一九二〇—一九二四年平均	一、六五八、〇〇〇千弗	八四、九〇〇千弗	五・〇%
一九二一—一九二五年平均	三、四五〇、〇〇〇	三三五、五四〇	九・七
一九二三	三、七九二、〇〇〇	三四六、九〇〇	九・一
一九二四	三、六一〇、〇〇〇	三四〇、〇〇〇	九・四
一九二五	四、二二八、〇〇〇	二八四、一〇〇	九・一
一九二六	四、四三一、〇〇〇	四〇一、〇〇〇	九・〇
一九二七	四、一八四、〇〇〇	四〇二、〇〇〇	九・六
一九二八	四、〇九一、〇〇〇	三八四、〇〇〇	九・四

日米貿易第五期

未曾有の盛況

一九二九年より、一九三九年（昭和十四年）の日米貿易は、戦時に於ける特種期間を除く未曾有の好況を呈した。其輸出入額は一九二八年度を凌駕する二千萬弗であつた。日本への輸出に於ては約二千九百萬弗の減少ありしに拘らず、日本よりの輸入は五千八百萬弗の激増となつた。即ち米國よりの輸出は一九二八年度二億八千八百萬弗に對し、一九二九年度二億五千九百萬弗であり、日本よりの輸入は、一九二八年度三億八千四百萬弗に對し四億三千二百萬弗の巨額となつてゐる。戦前に於ける日本への輸出は僅々四千四百萬弗、輸入は八千四百萬弗であつたが、これを一九二九年度と比較すれば、對日輸出は約六倍、日本よりの輸入約五倍の激増を示して居る。

△米國對外輸出と日本への輸出割合表（單位千弗）

年	米國の總輸出額	日本への輸出額	日本への百分率
一九二〇—一九二四年平均	二、一六六、〇〇〇	四四、〇〇〇	二・〇
一九二一—一九二五年平均	四、三九七、〇〇〇	二三九、二〇〇	五・四
一九二三（大正一二）	四、一六七、〇〇〇	二六四、二〇〇	六・三
一九二四（大正一三）	四、五九七、〇〇〇	二五〇、三〇〇	五・五
一九二五（大正一四）	四、九〇九、〇〇〇	二二七、二〇〇	四・六
一九二六（昭和 一）	四、八〇八、〇〇〇	二六一、〇〇〇	五・五
一九二七（昭和 二）	四、八五六、〇〇〇	二八八、一〇〇	五・三
一九二八（昭和 三）	五、〇三〇、〇〇〇	二八八、一〇〇	五・七
一九二九（昭和 四）	五、一五七、四〇九	二五九、一二九	五・二

△米國の對外輸入と日本よりの輸入割合表

年	米國の總輸入額	日本よりの輸入額	日本よりの百分率
一九二〇—一九二四年平均	一、六五一、〇〇〇	八四、九〇〇	五・〇
一九二一—一九二五年平均	三、四五〇、〇〇〇	三三五、五四〇	九・七

一九二二(大正一一)	三、七九二、〇〇〇	三四六、九〇〇	九、一
一九二四(大正一三)	三、六一〇、〇〇〇	三四〇、〇〇〇	九、四
一九二五(大正一四)	四、二二八、〇〇〇	三八四、一〇〇	九、一
一九二六(昭和一一)	四、四三一、〇〇〇	四〇一、〇〇〇	九、〇
一九二七(昭和一二)	四、一八四、〇〇〇	四〇二、〇〇〇	九、六
一九二八(昭和一三)	四、〇九一、〇〇〇	三八四、三〇〇	九、四
一九二九(昭和一四)	四、四〇〇、二二六	四三一、八七三	九、八

最近の日米貿易

一九二九年度は日本に於ける節約政策のため物價下落並に圓爲替騰貴し、米國の對外輸出に約三千萬弗の減少を來した。此減少を對日輸出主要商品別に見ると、棉花の輸出は米國對日輸出減少の大部分を占め二千萬弗に上る減少であつた。其他一品につき、百萬弗以上の減少を示したものは、燈油百三十萬バール五百四十六萬弗、鍍せざる鐵板五百九十萬封度百九十三萬弗、精銅塊及棒七百九十萬封度百五十萬弗、錫塊百十萬封度六萬弗、乗用自動車五千四百臺三百八十萬弗、ダグラスファア材一億二千八百萬呎二百三十六萬弗。

而して、増加した重なるものは、小麥七百萬ブッセル、八百五十萬弗、ティンフレート一億三千八百萬封度六百九十九萬弗、組立用自動車部分品一千萬弗であつた。

次に日本品の輸入は、一九二八年度に比し四千七百萬弗の増加であつたが、それは日本貿易品中の大宗たる生糸の輸入三千八百萬弗の増加に依るものである。即ち日本生糸の輸入は、一九二八年六千四百十萬封度三億一千八百萬弗に對し、一九二九年度六千九百七十萬封度三億五千六百萬弗に達し、日米貿易品中第一に居る生糸は、米國の諸外國より輸入する全商品中に於ても第一位を占めてゐる。

日本より輸入せる主要品中一九二八年度と略同額輸入をなしたものに、茶五百十五萬弗、大巾絹布六百七十萬弗、粗製樟腦百五十七萬弗、蟹繭詰五百萬弗等あり。減少したものはシルクウエスト、絹衣類、半製及粘製セルロイド品

除蠶菊等であつた。

一九三〇年(昭和五年)以降一九三九年度に至る日米貿易は別表の示す如く世界的不安のため一般財界の不況に伴ふ結果として輸出入共に激減し、一九三二年より今日に至るまで殆んど差したる變動も無く其間支那事變のため日本品ポイコットの運動はあつたにも不拘大體に於て同一歩調を辿つて來たのである。一九三九年(昭和十四年)度の日米貿易は日本よりの輸入は一、二、三月の三月間は、前年度に比し減少を來したが、其後歐州第二次大戰の餘波を受けて米國の各工業は好況を呈し、需要激増の結果次第に増加し、十、十一、十二月の三ヶ月間に於て前年同期に比し、約五割五分の激増を示して居り、一ヶ年を通じて約二割七分の増加である。

△日本より米國への輸入比較

年 代	總 輸 入 額	日本よりの輸入
一九三七(昭和一二)	三、〇八三、六六七、七三一弗	二〇四、二〇一、〇三三弗
一九三八(昭和一三)	一、九六〇、四二八、一八〇	一二六、七六二、三七八
一九三九(昭和一四)	二、三一八、二五八、三七九	一六一、一九五、五四八

△米國より日本への輸出比較

年 代	總 輸 出 額	日本への輸出
一九三九年度の米國より日本への輸出は前年度に比し二分四厘の減少を示して居る。		
一九三七(昭和一二)	三、三四九、一六七、一七九弗	二八八、五五八、一七〇弗
一九三八(昭和一三)	三、〇九四、四三九、七六九	二三九、六六二、四五九
一九三九(昭和一四)	三、一七七、三四四、一三八	二三一、四〇五、一〇六

之は内地側の輸入統制の強化に依るものであるが、日本は一ヶ年間に米國に對し、約一億六千萬弗を輸出してゐる之に對し米國より二億三千万弗を輸入し、其輸入超過額七千万弗は米國が世界各國百五ヶ國(領土を含む)に對する

輸出超過の九パーセントに當るものである。

而して日本以外の國よりの輸入額中、獨逸、伊太利、ポーランド等の數字のみが減少し、其他の諸國は殆んど全部増加し居る事は注目すべきである。

日支事變と日米貿易

日支事變の勃發以來日米貿易は其影響を受けて減少したと云はれてゐるが、其の實盛んに新聞紙上等で宣傳せられた、日本品の「ボイコット」運動なるものは案外に其效果を示さず、一九三八年（昭和十三年）日本より米國への輸入、即ち日本の輸出は統計によれば一九三七年に比して更に大減少し、毎月平均三割九分七厘の激減であつたが、此減少は單に日本計りの減少でなく、英國よりの分も丁度同じく三割九分七厘の減少を見、其他、佛國も二割六分強、獨逸二割七分五厘、加奈陀三分三厘、ブラジル一割八分、智利三割四分、和蘭三割七分、白耳義四割一分強、蘇聯二割二分五厘、更に甚しきは「アルゼンチン」よりの輸入は六割と云ふ大激減を示してゐる。即ち日本品ボイコット運動は案外効果を奏せず、却つて米國も最も親善なりと認めて居る國からの輸入が、遙かに日本よりの輸入額よりも多く減少してゐるのである。殊に最近に於ては一九三八年に多少ながら増加し二分だけ多く輸入せられ、歐洲の國際的不安が影響して、日支事變も自然的解決の遠からざるを思はしめ漸次好轉しつつある現狀である。

米國より日本へ輸出表

輸出及再輸出ヲ含ム計	單位	數量		金額	
		一九三八年	一九三九年	一九三八年	一九三九年
牛 及 猪 皮	一、〇〇〇封度	二二三、一三三	一六、一三七	二二九九、六六二	二二一、四〇五
菓 (葉)	同	六九八	三〇	二、四三五	一、六一六
				一九三九	一九三九

棉	一、〇〇〇パールス	一、〇二八	八二九	五二、八五〇	四二、四八八
木 材	木材呎	五、〇二八	七、八一七	六二	九四
ダ グ ラ ス	同	一、九一四	三、二五六	二一	三九
ツ ッ	同	八五三	六二四	一六	八
杉	同	二七、〇四二	四二、四三二	四二六	七〇二
縦 材 木 (挽 割)	同	三、〇〇四	二、四四四	六三	六七
ダ グ ラ ス 縦 板 類	噸	六一、五三三	三一、二五一	五、六六三	一、九四八
ウ ッ ド パ ル プ	噸	二一、二七二	一六、〇八六	二九、八五八	二〇、九二四
石 油 類	バレル	一、〇五九	一、一九八	七、七一一	七、三三二
原 ヤ ス リ ン	同	五、二九七	六、〇二〇	六、六七五	七、〇七一
燈 料	同	三、〇三〇	三、八八九	二、五三二	二、八四七
燃 シ デ ュ ア ル	同	三〇七	五一四	二、七八九	五、一八四
機 械 油	同	三一六	一〇	四、八八六	一四六
洗 鐵 屑	一、〇〇〇噸	一、三八二	二、〇二七	二二、〇六一	三二、五九三
鐵 塊 及 鐵 片 類	同	九一	九七	三、〇八五	三、六六四
鐵 及 鐵 屑	同	二四、〇五二	七、〇六四	五五一	一二六
針 鐵 板 (黒)	一、〇〇〇封度	三、三九三	三、〇九三	三六七	二一七
鐵 及 鐵 板	同	二七、〇四六	一、六三九	七、一四	四六
錫 及 銅	同	二八、六六九	六四二	一、六四九	二九
精 銅	同	二一七、八八〇	二四九、二七七	二一、八一三	二七、五六七
古 銅 及 銅 屑	同	三、八〇五	九、八八二	三五一	九八三
鉛 類	同	六〇、四〇六	六九、五七九	二、一〇〇	二、一五四

金屬機械類	自動車部分品附屬品計	乘用車	貨物車及バス其他	自動車部分品(組立用)	自動車エンジン	飛行機及部分品	硼砂	カーボンブラック	磷	苛性カリ肥料	日本より米國へ一般輸入	消費輸入	ツナフイツン罐入油	解肉、ソース、糊	貂皮	毛類	茶	ゴム底靴	プレサームフロワース	ベリラオイル	木棉布(晒)	同(晒サズ)	木棉製床覆	木棉ボロ	
	臺	臺	臺	臺	噸	噸	噸	噸	噸	噸	封度	封度	封度	封度	封度	封度	封度	封度	封度	封度	封度	封度	封度	封度	封度
	一、六三三	五、八〇四	七、八〇九	一四、一六七	九、一七三	一五九、二七〇	三、二九〇	一四、一六七	一、〇九二	一〇、六四三	二一七、七二九	五二、七六六	七、七六四	一〇、七一〇	七、七六四	七、七六四	七、七六四	七、七六四	七、七六四	七、七六四	七、七六四	七、七六四	七、七六四	七、七六四	七、七六四
	四八〇	二、四二九	六、九四〇	一一、〇九二	一〇、六四三	二一七、七二九	五二、七六六	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二	一一、〇九二
	二、三、六二七	一〇、一八〇	六、九四〇	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九	二、四二九
	二、四、五七八	六、四二〇	一、九三三	一、〇〇七	二、五九一	九七一	二、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四	一、五七四

帽子用桿麥真田	生糸	絹織物	帽子ポネット及フツド	薄葉紙	磁器(食卓用)及臺所器物	陶製及磁器	ジイパース	電燈用ランプ	薄荷	未製樟腦	精製樟腦	人形及部分品	其他ノ玩具	刷毛類
千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千	千
八〇三、一四四	五、三三三	五、六九八	五、八七	五、八七	五、八七	五、八七	五、八七	五、八七	五、八七	五、八七	五、八七	五、八七	五、八七	五、八七
七〇一、〇四九	四四、五八五	六、五四三	五七一	五七一	五七一	五七一	五七一	五七一	五七一	五七一	五七一	五七一	五七一	五七一
一、二五四	八三、六五一	九七五	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇	四二〇
一〇六、九三六	一、九八九	一、一九九	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八
一、一一八	一、九八九	一、一九九	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八	三三八

日米貿易と在米同胞

日米貿易の過去及び現在に於ける概観は、大略右記の如くであるが、近世通商史を繕く者の等しく知る如く、貿易の進展は其の植民地の發展と相俟つこと極めて深いものがある。然るに國外的に眼を開くこと遅々たりし日本は、國外の何處にも英國及其他歐洲諸國の如き植民地を有せず、本國の貿易的發展への基礎を築くことが出来なかつた。然し米國に於ては明治開國と同時に渡米した移民在米邦人が、過去五十年間に互り、其の役割の一端を承つて來たのである。即ち日本移民が米國に殺到した日露戦役前後の米國市場は、左の二つの理由より、日本商品の消費を奨励した

と云ひ得るのである。

一、在米同胞の要求に依る特種日本商品の出現

二、在留同胞の嗜好に依る諸種日本商品の紹介

前者は、日本在住時代の習慣に依る、米、味噌、醤油の主要食料品より、箸、たわし、箆に至る迄の日用品を要求した結果、それ等の輸入者が沙港、桑港等の同胞間に開店した事、後者は、前述の如き日用品以外、日本製陶磁器、漆器、綿布、織布類及び其他美術雜貨類の如きを在米邦人が、米人に對する贈物用としてこれを紹介し、卸商又米國市場へ販路を開拓して今日の基礎を築いたのである。在留邦人相手の食料商品は、在留邦人の減少と共に正比例して衰退すべき運命にあるが、之等を取扱ふ卸商は敢て日本食料品、雜貨類のみの取扱ひに満足せず、多年の経験を基として、米人向き商品の輸入に目醒しき活動を續けてゐる。蟹罐詰、除蟲菊、糸寒天、刷子類、豆類、權權類、薄荷等の大商品の米國進出は皆之れ在留邦人の卸商店の努力に依り今日の成果を擧ぐるに至つたものである。就中年々巨額の輸入をなしたある蟹罐詰の如きは、在留邦人の先達であり、今猶鑿鑿として日米貿易界に活躍してゐる桑港北米貿易株式會社の創設者堂本馨之進が、總ゆる苦心と努力を以てその販路を開拓したものである。

堂本馨之進は、和歌山縣那賀郡田中村に生れ一八八四年（明治十七年）十一月渡米し、一八九四年（明治二十七年）桑港に堂本商會を創め後北米貿易株式會社を起し、日本食料品の海外市場開拓に努力する事四十有餘年一日の如く具さに艱難を嘗め、蟹罐詰を始め密柑、淺鯛貝、除蟲菊、其他の日本海産品、罐詰類の輸入に従事し克く日米貿易の進展に貢献してゐる。

日本美術雜貨商方面に於て桑港は、近來米國市場に於ける、日本美術雜貨の中心地たる名實を備へんとしてゐる。米國に輸入せられる諸種の日本雜貨約三千萬弗の中、紐育森村兄弟商會の陶磁器で、其他卸商の輸入にかゝる大巾絹布類、五仙十仙店等に依り輸入さるゝ安物玩具雜貨類を除くれば桑港卸商の取扱の其の大半を占めてゐる。嘗て米國を風靡した日本キモノ、ランチ、クロース、日傘、ハッピーコート等の類は皆之等在米同胞卸商の不斷の努力に俟つ

事が多い。現在桑港には之等美術雜貨を取扱ふ卸商、輸入卸商が十店、小賣四十五名の多きに達してゐる、何れも日本より資金を仰がず、所謂日本移民が獨力奮闘の結果今日の盛況を見るに至つたものである。

就中日本ドライグース商會の創業者故小池實太郎（山梨縣西山梨郡清田村出身）の如きは、一八九三年（明治二十六年）ピクトリアに上陸以來總ゆる艱難辛苦を嘗め、一九一〇年現在の日本ドライグースを創立し、紐育市俄古に支店を設け、専ら日本美術雜貨及絹物木綿加工品の輸入卸及び米國製品の輸出に従事し、日米貿易初期以來その奮闘を續けて來た。

此の外羅府、沙港にも卒先して貿易發展に努力したる在留同胞が多數あり、以て今日の隆昌を招來したのである。

日米貿易歴年統計表（サンフランシスコ日本貿易斡旋所）

年度	單位——千弗		
	日本ヨリ輸入	日本向輸出	
一九一一	七八、五二七	三六、七二一	
一九一二	八〇、六〇七	五三、四七八	
一九一三	九一、六三三	五七、七四二	
一九一四	一〇七、三五六	五一、二〇六	
一九一五	一〇八、三一五	四五、七三二	
一九一六	一八二、〇九一	一〇九、一五六	
一九一七	二五三、六七〇	一八六、三四〇	
一九一八	三〇一、九四三	二七三、七七五	
一九一九	四〇九、八五三	三六六、三六四	
一九二〇	四一四、五七九	三七七、九四二	
一九二一	二五一、二六八	二三五、四二四	
一九二二	三五四、二九八	二一八、四〇三	
一九二三	三四六、九四〇	二六四、二二八	
一九二四	三四〇、〇六一	二五〇、三〇六	
		一九二五	三八四、一一二
		一九二六	四〇〇、六九三
		一九二七	四〇二、一〇五
		一九二八	三八四、四五〇
		一九二九	四一三、八七三
		一九三〇	二七九、〇四〇
		一九三一	二〇六、三四九
		一九三二	一三四、〇一一
		一九三三	一二八、四〇六
		一九三四	一一七、九六三
		一九三五	一五一、三九七
		一九三六	一七二、五三五
		一九三七	一九五、〇八六
		一九三八	一二六、七六二
		一九三九	一六一、一九五
			二二七、九七七
			二六〇、七五四
			二五七、五七〇
			二八八、一五八
			二五九、一二七
			一六四、五七〇
			一五五、七一五
			一三四、五四五
			二〇九、九二五
			一四三、四五二
			二〇二、六一一
			二〇四、三一三
			二八七、五六六
			二三九、六六二
			二三一、四〇五

海 運

緒言 日米兩國をつなく太平洋は、その廣表、地球海陸總面積の約三分の二を占めてゐる。而して太平洋の海波に洗はるゝ諸國及び群島は將に世界陸上面積の五割五分に當り、人口實に世界總人口の七割を數へ、此處に伏在する天然資源の豊富なることは殆んど無盡藏で原料品、食料品の産出亦無量と云はれてゐる。従つて此間に出入する船舶貨客も亦莫大であつて、輒近世界經濟の中心たるは勿論のこと、政治文化の中心さへも漸次太平洋に向つて移動しつゝあることは、之れ當然の歸結と謂はざるを得ない。列國が夙に太平洋への海運進出に努力する所以である。

太平洋の海運は、第一次歐洲大戰を契機として一大躍進を遂げた、就中太平洋を差挾んで東西に位置する日米兩國の發展は著しく、その産業貿易は一躍世界に重きをなすと同時に、海運の勃興も亦目覺しく、太平洋に於ける經濟、産業の發達に伴ひ、我が國力は伸張し太平洋一帯に互つてその勢力を増進した。

日本商船隊の進出

日本海運の太平洋進出は、一八九六年（明治二十九年）八月、日本郵船のシアトル航路が開設されたのが、我國の太平洋航路樹立の嚆矢である。爾來一八九一年（明治三十二年）東洋汽船が桑港航路、一九〇九年（明治四十二年）大阪商船のビューゼット・サウンド航路と相次いで擴充されて來たのである。斯くて第一次歐洲大戰の勃發と共に、太平洋の海運は一大躍進し、日本も亦從來の方針を變へて、航路經營の中心を經濟的優秀貨物船主義に採り、日本郵船、大阪商船、國際汽船、三井船舶部、川崎汽船、大同海運、山下汽船等は、太平洋上に於ける英米海運の地盤を切

崩すべく快速優秀貨物船で積極的活動を開始し、太平洋橫斷海運商船隊を現出するに至つた。從來橫濱紐育間の航海は英國の優秀船を以てして猶ほ平均三十五日を要したのであるが、一九三〇年大阪商船の極東紐育急航船内丸は僅か二十五日を以て紐育に達し、これまで大陸橫斷鐵道を経由して紐育へ送られてゐた我國の輸出生糸は、パナマ運河を経由して紐育まで海上直通輸送が短日時の間に行はれる事となり、貨物輸送系統上に一大革命を齎したのである。

極東紐育航路定期船總數

極東紐育航路に於ける各國の定期船船腹總數は八十一隻、五十六萬餘噸であるが、此内本邦船は五十隻、三十四萬七千噸に上つて居る。

△紐育航路各國船舶比較表

國名	就航船舶	船齡五年未滿內燃機船
日本	五〇隻	三四七、〇九〇總噸
日米	一一	一一三、五五九
米	一四	六八、三四三
丁	一	三、六一〇
諸國	五	三四、六一〇
合計	八一	五六三、六〇二
		四三
		二八〇、二四〇

右表の如く各國の配船八十一隻の内四十三隻、二十八萬總噸は船齡五年に滿たざる優秀内燃機關貨物船であるが、此内三十七隻、二十四萬八千總噸、即ち八割八分迄は實に本邦船舶がこれを占めてゐる。

太平洋の三大幹線

現今太平洋には三大幹線八大航路がある。これに浮々する各國の定期船の數量は約四百餘隻三百餘噸に上つてゐる

(一) 太平洋橫斷線

イ、極東⇨北米東岸航路

△日本 五〇隻、三四七、〇〇〇總噸

△米國 一二隻、二二三、五九九△丁抹 一四隻、六八、三四三△諸威 五隻、三四、六一〇、合計、八一隻、五

六三、五五二

ロ、極東北米西岸航路

△米國 二五隻、二一九、一〇五△日本 一八隻、一七三、〇六二△英國 七隻、一一三、一四六△諸威 四隻、

一九、一〇三△丁抹 一隻、七、〇一四△計 五五隻、五三一、四三〇總噸

ハ、世界一周航路(パナマ運河經由)

△英國 三八隻、二五〇、七〇〇總噸△米國 一八隻、一四七、九六〇△日本 一三隻、九七、一五四△英蘭共同

九隻、六一、三三一總噸△丁抹 四隻、四〇、〇七八△瑞典 八計、三四、六九五△諸威 八隻、三四、六九五

△計 九八隻、六七〇、〇一六總噸

ニ、極東ガルフ航路(パナマ運河經由)

△米國 八隻、四〇、四二三△英國 六隻、三九、五九二△日本 五隻、三五、九五四△計 一九隻、一一五、九

六九總噸

(二) 南太平洋橫斷線

イ、歐洲⇨濠洲、新西蘭航路(パナマ運河經由)

△英國 三四隻、三六九、〇七三△佛國 四隻、三三、八八六△計 三八隻、四〇二、九五九總噸

ロ、北米⇨濠洲新西蘭航路

△英國 四六隻、三四一、六五七△米國 一二隻、九五、三一△瑞典 八隻、三八、〇九八△英獨共同 六隻、

三五、八三五△計 七二隻、五一〇、九〇一總噸

(三) 太平洋縱斷線

イ、極東⇨濠洲、新西蘭航路

△日本 二〇隻、一一二、〇六五△英國 一七隻、九〇、二二三△和蘭 四隻、二九、一一七△獨逸 二隻、四〇

八一△計 四三隻、二四五、四七六總噸

ロ、極東⇨南米西岸航路

△日本 一三隻、九三、九八七

總計 四一九隻、三、二三一、四四四總噸

右表に示す如く、北米航路は日本商船隊の牛耳る所であり、國際海運の大勢上から見て、太平洋の覇權を我が掌握するの速くはあるまい。四十年前廣漠たる太平洋上に、僅か三千噸級の船舶三隻を以て定期航路を營んで居つた我が日本の海運に比し、寔に驚異すべき進出振りでであると云はねばならぬ。

太平洋を中心とする海運の鍵を握る、在米同胞と關係のある諸會社の沿革及び配船は左の如くである。

日本郵船

紐育支店、一九一四年(大正四年)巴奈馬運河開通を機として同運河經由日本⇨太平洋航路開設を企圖し、馬耳塞代理店アンチヨウ、ラインを大西洋及ガルフ諸港の代理となし、ジョン、タッドが其の事務を取扱

ふ。一九一六年(大正五年)六月二十一日紐育航路第一船對馬丸横濱を出帆するに當り、同年十二月一日紐育市プロ

ドウエイ二二〇に出張所を設け、前記タツドを所長とす。其後業務發展し、一九二〇年（大正九年）一月一日出張所を支店に昇格今日に至つて居る、初代支店長は大谷登であつた。

市俄古出張所 一九二二年大正二年五月市俄古に出張所を設置す右は一九二二年（大正十一年）廢止したが、一九二七年（昭和二年）再開し爾來今日に及んで居る。

沙港支店 一八九三年（明治二十六年）一月大北鐵道米大陸横斷の完成を契機として、一八九六年（明治二十九年）日本郵船と大北鐵道貨客接續契約成り、大北鐵道を郵船の代理店となし、一九一一年（明治四十四年）十二月一日代理店制度を廢し、シアトル出張所としスタッドレーを所長に任命す。一九二〇年（大正九年）一月一日出張所を支店に昇格す。歴代支店長左の如し。

渡邊水太郎（一九二〇年）石澤民衛（一九二二年）坂本宗藏（一九二三年）堀田勝吉（一九二五年）澤井謙吉（一九三〇）生駒實（一九三五年）田岡彌平（一九三八）長谷川友賢（一九四〇年）

桑港支店 一九二六年（昭和元年）四月東洋汽船との合併成り四月十三日入港の太平洋丸より郵船支店としての事務を開始し今日に至つて居るが、歴代支店長は、山本武夫、中瀬精一、高橋一雄、田岡彌平

配船名及噸數表

- 桑港線 淺間丸（客一六、九七五噸）△龍田丸（客一六、九七五噸）△鎌倉丸（客一七、五二六噸）△新田丸（客一七、一六三噸）△櫻原丸（昭和十七年就航豫定二七、〇〇〇噸）△出雲丸（同上二七、〇〇〇噸）
- 沙港線 米川丸（客一一、六二二噸）日枝丸（客一一、六二二噸）△平安丸（客一一、六一六噸）△三池丸（昭和十六年就航豫定二二、〇〇〇噸）△三島丸（同上二二、〇〇〇噸）
- 南米西岸線 平洋丸（客九、八一六噸）△樂洋丸（客九四一九噸）△那古丸（七、一三九噸）△鳴門丸（七二四噸）△濟國丸（臨時客一一、九三〇）
- 紐育線 佐渡丸（七、一八〇噸）△崎戸丸（七二二噸）△赤城丸（七三三噸）△佐倉丸（七二六噸）△廣岐丸（七、一

- 五八噸△相模丸（七一六噸）
- 中南米ガルフ線 能代丸（七、一八四噸）△龍野丸（六、九六一噸）△有馬丸（七、三六七噸）赤城丸（七三三噸）△栗田丸（七三九八噸）△吾妻丸（六、六四六噸）

大阪商船會社

大阪商船會社では米國關係航路として紐育、南米世界一周、南米東航路の各線に左の如くその優秀船を配船してゐる。

- 紐育急航貨物線 十隻（總噸數各八、五〇〇噸級）△船名、畿内丸、東海丸、山陽丸、北陸丸、關東丸、關西丸、東山丸、九州丸、南海丸、北海丸
 - 南米世界一周線 二隻（總噸數各一三、〇〇〇噸級）△船名あるぜんちな丸、ぶらじる丸
 - 南米東航線 二隻（總噸數各九、六〇〇噸級）△船名ぶえのすあいれす丸、りおてぢやねいろ丸
 - 紐育線 南米東航線は往復ともロスアンゼルス寄港、南米世界一周線は南米よりの歸途ロスアンゼルス寄港
- 國際汽船會社** 國際汽船會社は優秀船主義を採用老齡不經濟船の整理を斷行し現在では九千噸型ディーゼル貨物船を以て、左の航路に當つてゐる。

東洋紐育航路 最新型ディーゼル優秀貨物船にて二週一回の定期の運航、横濱紐育間を二十四日乃至二十五日を以て航破す十二名の一等船室を設備す△支店紐育にあり支店長は溝口泰造

川崎汽船會社 川崎汽船會社の米國航路は左の如く主として貨物船を配船してゐる。

- 紐育線 比律賓、北支、日本、桑港、羅府、クリストバル、紐育（毎月一回二回配船）
 - 桑港羅府線 比律賓、北支、日本、桑港、羅府（毎月一回二回配船）
 - 沙市晚香坡 北支、日本、沙市、晚香坡（毎月一回配船）
 - 中南米線 北支、日本北米、中米、南米西海岸終點、バルパライン
- 右の外に「タンカー」は建川丸及び數隻の外國儲船を以て「オイル」運送に従事す（加州積月一回二回）

配船名 宏川丸(九六〇噸) △聖川丸(九、六八七噸) △君川丸(九、六八〇噸) △國川丸(九、六七九噸) △うまる丸(九、七五〇噸) △もんとり丸(九、七二八噸) △のるほう丸(九、七二八噸) △べにす丸(九、七二七噸) △ぼるど丸(九、八一〇噸) △玖馬丸(九、一一三噸) △ふろりだ丸(九、一一四噸) △いんてあ丸(九、〇七四噸) △おれごん丸(九、〇三七噸) △ていむす丸(九、〇八四噸) △和蘭丸(九、〇九〇噸) △ちやいな丸(九、〇七二噸) △諸威丸(九、〇八八噸) △照川丸(九、二九七噸) △靖川丸(二〇、一九一噸) △五洋丸(二〇、四三三噸) △五州丸(二〇、四三五噸) △建川丸(二三、〇〇〇噸) △山里丸、山霧丸、山月丸、山浦丸、山風丸、山彦丸(何れも一〇、〇〇〇噸) △南滿丸(九、〇〇噸) 朝影丸、健洋丸、日本丸(二〇、〇〇〇噸)

三井ライン 三井物産會社の三井ラインはフキリツピン、新嘉坡、日本線、加州、紐育、パナマ線、紐育、ボストン、バルチモア、費府、紐育線、日本沙港線の各線を有し左の諸船を就航せしめてゐる。

配船名 阿蘇山丸(一〇、九三三噸) 青葉山丸(一〇、九一五噸) 淡路山丸(一〇、七五八噸) 有馬山丸(一〇、五二三噸) 淺香山丸(一〇、四六七噸) 熱田山丸(一〇、四六二噸) 天城山丸(九、八二五噸) 吾妻山丸(九、八〇九噸) 綾戸山丸(一〇、八〇〇噸) △タンカー、菅葉山丸(一、九二五噸) 御堂山丸(二一、九一三噸)

金 融

在米同胞金融機關 在米邦人の金融機關は、一八八六年(明治十九年) 横濱正金銀行が桑港支店を開設し、一般銀行事務を取扱つたのを嚆矢とするが、當時の在米邦人は所謂初期移民時代で徒手空拳の上に異動甚しく辛うじて生活を糊すのが、第一と云ふ時代であり、僅少の貿易商、商店のみで存在して居たに止まり、金融界は極めて寂莫たるものであつた。

然るに一八九七年(明治三十年)頃を前後として在米邦人の生活も漸く根柢を固め、農園や鐵道の勞働に従事した

連中が事業界に進出すると共に金融の必要を感じ、各種の金融機關、頼母子講の如きものが設けらるゝに至つた。その最初のものは、一八九九年(明治三十二年)三月八日日米金融社が植田憲三等に依り組織され次で會社は、一九〇三年(明治三十六年)九月一日業務を擴張、加州銀行法に據る銀行となし、これを日米銀行と改稱資本金を二萬弗に増加した。常務取締役植田憲三、取締役林崎龜太郎、監査竹川峰太郎、奥野徳松、支配人中村東吉等であつた後一九〇五年(明治三十八年)十一月廿三日再び組織を改め資本金を十五萬弗に増資し盛んに活動した。一方同年日米銀行の外に資本金十萬弗の日米銀行が桑港に開設され、沙港方面でも資本金五萬圓の東洋銀行が開かれ、次で一九〇七年(明治四十年)日本商業銀行(資本金二萬五千弗)沙市正金銀行(資本金二萬五千弗)櫻府方面には櫻府銀行、グアカピルの扶桑銀行、同金融社、と同胞社會には銀行が簇生するに至つた。然るに一九〇六年の桑港大震災後の一般經濟界は非常なる大打撃を受け極めて不安の状態にあつた。一九〇八年(明治四十一年)一月の調査に依ると、

桑 港。日米銀行、金門銀行(日本銀行と金門銀行と合同増資せるもの)帝國銀行
櫻 府。櫻府貯蓄銀行、櫻府銀行
王 府。日本銀行、王府貯蓄銀行
バカピル。扶桑銀行
布 市。フレノスノ勸業銀行

の諸銀行が營業して居たが、一九〇八年乃至一九〇九年に財界不況の餘波を受けて破産又は營業を休止するに至り、同胞預金者に多大の損害を與へる結果となつた。金門銀行の如きは預金四十五萬弗附け三十八萬弗と云ふ状態で、一九〇八年三月廿六日取付けを受けて同年八月破産した。斯くして幾變遷の後、一九二〇年に正金、住友兩行を除き櫻府日本銀行と布市勸業銀行、沙港日本商業銀行の三つのみが同胞の銀行として残つてをつた。一九二〇年櫻府日本銀行が閉鎖の止なき状態となつたのを、大阪平林組が廿五萬弗を以て買収し預金者を救ふて經營を續けたが、これも

一九二四年加州住友銀行に譲渡するに至り、残存する同胞銀行は沙港日本商業銀行と布市勸業銀行の二つのみとなつた。然るに此の二行も、一九三二年の不況に際し遂に閉鎖を命ぜられ、此處に全く在米邦人により經營される銀行は全滅し、現在に於ては正金銀行と住友銀行及其連系銀行が同胞社會の金融機關として活躍してゐるのみである。

在米邦人の商業

緒論 在米日本人の商業は、同胞社會の初期時代に於てその大部分が、家庭労働者と農園労働者であつて、商業に携るものは極めて僅少であつた。其後前者は主として都會の米人家庭に入込み語學の練習傍ら、米國の事情に慣れると共に、幾分の貯蓄も出來それを資本に小規模ながら商店を經營するに至つた。これらの外に日本との連絡を取つて貿易品を販賣する者、又は日本よりの出張店である會社、銀行等が商業に従事してゐるもの等で、自然在米日本人の商業は、米人を相手とする商業と、邦人を相手とする商業との二つに區別されてゐる。

米人相手の卸賣商

米人向き商業としての卸賣商は、大抵直輸入商によつて行はれ、その取扱ひ商品は主として雜貨、食料、製造品原料、罐詰、美術雜貨、穀物、油類、絹物、茶、手工品、等で大規模の會社商店は、店內に完備した見本室を設け、米國全體の得意先と聯絡し、又は販賣員を各地に派遣して注文を取らしめて卸賣商を行つてゐるが、其の主なるものは、紐育、桑港、羅府、沙港で全米を通じる支店を有してゐる。此の外農産物仲買商、野菜市場、切花市場等で米人相手に盛んなる取引を爲し、特に加州に於ては野菜市場、切花市場の如きは、邦人商業としては最も大なるものである。

る。(農業備參照)

米人相手の小商賣

米人其他外人相手の小商賣として全米的のものは日本美術雜貨商である。現在百數十戸を算するが、其中大多數は桑港名所チャイナタウンと謂はる、グラントアベニューに軒を並べ、何れも相當に巨額の資本を投じ、各方面の觀光客、旅行者を相手に盛大に營業してゐる。其の取扱ひ品は日本美術品、ドライグーズ(雜貨)陶磁器、細工物、玩具、裝飾品、日本着物等で、其實上年額は大商店は十數萬弗、小規模商店にても年額二萬弗以上に達してゐる。猶桑港の外に紐育、シカゴ、セントルイス、ニューオールレアンス、エルバソ、羅府、王府、サクラメント、ボートランド、シヤトル其他の都市皆それ／＼邦人の美術雜貨店があり、相當の成績をあげてゐる。

美術雜貨商

美術雜貨店が米國に始めて開店されたのは一八八六年(明治十九年)甲斐織衛が、桑港第六街に開店したのを嚆矢とする。之れ太平洋沿岸日本人商店最古のもので、同年横濱正金銀行も出張所を桑港に開いてゐる。當時在留日本人は百五十名内外であつたと傳へられてゐる。一八九一年(明治二十四年)時の領事珍田捨巳を會長として初めて日本人會が組織されし當時在米同胞は全體にて約三千人と謂はれ、其中桑港附近に在住する者約千五百名に達し、美術雜貨を營業とする店が數軒あつた。一九〇〇年(明治三十三年)頃には在米日本人の數は激増し、同時に美術雜貨店も増加すると共に、一九〇三年(明治三十六年)頃には商賣上の競争激烈となり、互に亂賣する結果日本製品の時價を落し、引いては各店の利益を阻害する事夥しくなつて來たのでお互の利益を保護し、一面日本雜貨の聲價を高める方法として組合組織の必要を認め、同年八月エリス街の小川亭に同業者相會して美術雜貨商組合を設立する事となり、一九〇四年(明治三十七年)一月總會を開いて同組合を「桑港日本美術雜貨商同盟會」と改稱

し、今日に及んでるが、現在五十有餘の會員を有し、桑港名所のブランド街を中心に日本美術雜貨を米人間に販賣して年々莫大なる賣上を見てゐる。

グロサリー及果物野菜業 米人相手の商業として近年著しく發展して來たのは、グロサリー及果物野菜店である。殊に果物野菜店は日本人の農園に於ける卓越した技能の信用と相俟つて購買者は競つて日本人商店に來り、羅府の如きグロサリー野菜果物は日本人商店に限るとの評判を贏ち得て現在一千餘戸が盛んな營業を續けてゐる。其次はシアトル市でグロサリーのみでも凡そ九十六軒あり、其他桑港、王府、櫻府には何れも數十軒の店が米人相手に營業し、何れも相當の成績をあげ、其賣上げの大なるものは年額十數萬弗に上るものがある。

切花植木業 グロサリー、野菜果物店に次で、盛大を極めてゐる商業は切花店である。全米で切花及び植木小賣店は其數百三十餘を算してゐるが其元祖は一八八五年（明治十八年）和歌山縣人堂本兼太郎が王府第三街の角で營業したのが嚆矢で就中羅府に最も多く約七十軒、桑港は十餘軒、王府、麥嶺等にも數軒あり、何れも日本人花卉業者から直接供給さるゝ點に於て他同業よりも優れたる切花を提供し得られるのであつて、菊花の如きは日本人商店のみの獨占的營業と云つても良い位である。殊にローズ、カーネーション等は日本人耕作者多年の苦心により、種々珍奇なる花卉を市場に提供し、他の追従を許さないものがある。

金魚店 花卉に次で、小鳥金魚店も日本人商店のものが歡迎されてゐる。小鳥及金魚類其他の家庭用ペットを營業とするものは目下米國內で約三十軒あり、何れも日本、支那、南洋、南米の奇鳥、奇獸等を輸入し、それを繁殖せしめて營業してゐる。金魚は一九一一年桑港村田耕が日本より大量輸入し、一時は年額二十萬圓を突破する盛況を呈したが、其後南加州地方及びミゾリー州地方に於て日米人合併の大規模なる養魚場が起り、其處で産する日本金魚が全米に販賣され、日本よりの輸入は激減してゐる。現在は右金魚の外にメダカ、鱒、等が歡迎され特に鱒は日本獨特

のものとして最近頗る需要が殖えて來てゐる。金魚が日本から米國が輸入されたのは一八九〇年（明治二十三年）兵庫縣人森銀之助が數千尾の金魚を携へ再渡米したに始まる。森は最初一八八五年（明治十八年）及同廿二年に貿易を目的に渡米し、金魚の有望なる着目し輸入を開始したのを嚆矢とする。

自動車及附屬品店 自動車の取次販賣は、一般自動車工業の發達と共に日本人代理店の數も殖え同時にグラージを經營するものが年々増加して來た。目下全米でグラージを經營し、傍らその附屬品並に取次販賣をなす店は約百四十軒あり、羅府シヤトル、王府櫻府、布市、須市、佐市、サリナス、山中部等の都市では邦人が巨資を投じて盛大に營業してゐる。殊に二世の社會的進出特にビジネス方面の仕事としてはグラージが一番多く、最近に至つては桑港に於ても數萬弗を投じたグラージが二軒二世に依つて經營され、好成績を擧げてゐる。

小鳥店 小鳥類も金魚と同様米人方面への商業として相當の成績を擧げてゐる。目下流行してゐるのは主にローラカナリーと山雀である。一九一九年桑港の安井惠喜太等により日米ローラ會が組織され、英國、獨逸方面より取寄せた親鳥を師匠鳥とし、其の養成したローラカナリーは一羽五十弗より百弗と云ふ高値で販賣された。其後桑港石田太造等に依りセントフランシス、ローラカナリー俱樂部が組織され、現在多數の米人會員を擁して、毎年品評會を開き優秀なるローラカナリーを養成しては市場を賑はしてゐる。山雀は日本獨特の小鳥で種々なる藝當を仕込み家庭に於て、ローラカナリー同様歡迎されてゐるが、最近輸出禁止の爲め日本よりの輸入は減少してゐる。

日本人相手の商業

食料品及美術雜貨卸商

日本より直輸入食料品雜貨卸商は主に桑港、羅府、沙港にあるが、全米的に知られる卸商は約二十五店で、之等は主として在米邦人に日本食料品、罐詰、美術雜貨を直輸入し各地方の小賣店に供給してゐるので、何れも株式又は個人經營であるが十數萬弗の資本を投じ、日本と聯絡して營業してゐる、美術雜貨輸入商も桑港、羅府、シアトル、シカゴ、紐育等にあり、その元祖である森村組、茂木桃井組の巨擘が莫大な資本を投じて直輸入し邦人、米人、支那人の美術雜貨小賣店に供給してゐるのである。

食料雜貨の小賣商 日本人を相手とする各種小賣商は、同時に米人其他をも顧客として營業してゐるので、其の主なるものは食料雜貨店が最も多く、各地到る處に散在してゐる、現在加州のみでも其數五百店以上に達し、グロサリーと同様これらの店で扱ふ日本食料品は、大部分を日本人卸商より受けて、これを其土地の居住邦人農家、キャンプ等に供給販賣してゐるので、最近に於ては野菜果物店の如く二世が此方面に進出すると共に、日本食料品雜貨以外に米國食料品の販賣にも従事し好成績を擧げてゐる。

和洋雜貨小間物吳服店 現在和洋小間物及び吳服店は米國中約二百戸あるが、都市では獨立の商店及びデパートメント・ストア形式で仲々盛大に經營してゐる。殊に二世少女婦人に日本着の需要激増し來り、目下羅府桑港には日本着専門の吳服店が、絶えず新柄を取寄せて營業してゐるが、何れも相當巨額の商賣をしてゐる。邦人が米國に始めて和洋雜貨店を開いたのは、一八九七年（明治三十一年）愛知縣人市橋俊三が桑港ブッシュ街グランド街で、小間物屋を始めたのが元祖とされてゐる。

藥劑店 邦人經營の藥劑店は到る處に在り目下全米で約五十、桑港、羅府、櫻府、須市、沙港、ボーランド其他重要都市には可なり大規模の藥店を開業し、其顧客は都市の日本人街にあるものは邦人が八分以上を占め、日本賣藥も相當擧がれ、地方へは通信販賣の方法より營業してゐる地方のものは邦人と白人と顧客相半ばする所もある。藥劑

師は邦人免許のものと、白人藥劑師を雇ふ店もあるが最近では二世の優秀なる藥劑師が進出し獨力經營に當るものが續出して來た。邦人で始めて賣藥に従事したのは、一八九五年（明治二十八年）和歌山縣人木野民助が波米し、一八九八年（明治三十一年）フレズノ市に賣藥店を開いた、木野が始めてフレズノ市に賣藥店を開いた頃は中加地方は瘴癘の氣が熾んであつて、日本人が同地方に葡萄摘人夫として働いてゐた者の中から、年々死者七十名以上を出し、フレズノの働きは命がけの仕事と云はれた程で、木野は此間熱さまし、おこりの妙藥妙振出し等、日本賣藥を販賣したものである同年滋賀縣人森俊肇が桑港に藥店を開いたが森は後モントレイに赴き漁業に従事した。

時計寶石眼鏡店 時計、寶石、貴金屬品、眼鏡店も最近同胞間に増加し、現在全米で五十二店あり、眼鏡店の如きは主に大學出身の視科醫が經營し、邦人及び白人其他の外人を相手にし仲々繁昌を來してゐる。時計、寶石、貴金屬も同様顧客は邦人六分、外人四分位の割合で地方に於ては殊に農園方面は邦人商店が信用を博してゐる時計、寶石品の邦人元祖は、一八九五年（明治二十八年）桑港デュボン街に渡邊四郎が時計店を開業したに始まり、一九〇二年（明治三十五年）廣島縣人財満孫次郎が同様デュボン街で時計寶石店を開業したのが老舗とされてゐる。

書籍雜誌店 邦人間に日本の書籍雜誌類が愛讀せられる事は夥しく、目下米國に於て日本の書籍及び文房具類を扱ふ店は三十店あり、其中の大なるものは桑港、羅府、沙港、櫻府等であり、日本より書籍、雜誌、文房具、日本新聞等を輸入或は取次販賣してゐる。顧客は云ふ迄もなく日本人であるが最近では英書英文雜誌類をも取扱ひ相當巨額に上つてゐる。在米邦人の大多數は語學の關係より、日本の書籍雜誌の讀書慾は旺盛なもので、書籍店が設けられな以前は貸本屋により、その慾望を満しておつた。日本人が米國で貸本屋を始めたのは、一八九二年（明治二十五年）の頃桑港に三有樂亭といふのが出來た、これは甲州人竹川藤太郎の經營で、當時は本國より新刊書を取寄せて賣捌く程の實力もなく、一三十冊の古本を貸貸し、一週間五仙の料金を取つてゐた。次で三友社が起り、一八九五年（明治

二十八年) 桑港ゼシー街に水藤某貸本店が始めて日本から雑誌を二三種を輸入した。

書籍店として稍體裁を備へたものは、一八九九年(明治三十三年) 愛媛縣人青木道嗣が桑港デユボンド街で開業したのを書籍商の最初とする。次で一九〇二年(明治三十五年) 新潟縣人小林與太郎がデユボンド街に書籍店を開き、これより日の本商店、五車堂が起り今日の盛況を呈するに至り、羅府では佐藤良吉が、一九〇二年に開業してゐる。現在では米國雜誌書籍商組合を組織し全米同業者一致して營業してゐるが、同組合は一九一五年(大正四年) 組織され、一九三〇年(昭和五年) 全沿岸書籍商を網羅して、鞏固なる組合となし、支部を東京に置き大日本輸出商組合に加盟した。東京支部は米國向け書籍、雜誌の元締となり、輸出を管理統一し、文化報國を目的として活躍してゐる。同組合の本年度(一九四〇年) 役員は、組合長岡田治郎△副組合長青木炯吉△幹事野田實造△小野昇六△會計入隆夫△矢崎久である。

家具、金物、寫眞機店

日本人の新舊家具專業の大部分は、桑港、羅府、沙港等の都市にあり、金物、電氣品寫眞機店も多く都市に散在して家庭品を扱つてゐるが、地方では大抵食料雜貨店等で之等の品を販賣し、新舊何れも巨額を要する金物、家具等は米人大會社、商店と連絡を取りて月賦販賣の方法により年々相當の商賣を營んでゐる。

肥料種物種苗類商

農家に必要なる肥料、種物、種苗商は目下全米で約四十五店ほどあり、肥料は大抵米人の大會社と連絡を取り、種物類は外國より直輸入で邦人農家に供給してゐる。肥料専門業者は桑港、羅府、沿岸、櫻府、須市、布市等にあり、相當巨額の資本を投じ營業してゐるが、農産相場の影響等に依り時には互利を博する場合もあるも亦不況の影響を蒙る事もあり、其の消長常ならざるも邦人農家の奮闘と共に年々着實なる方針のもとに營業を續けてゐる。

在米邦人の商業團體

目下全米國には邦人の商業組合團體は約百五十に上るが、其中最も大なるものは桑港日本人商工會議所で、合所は約二十五年の歴史を有し會員は三百餘名、桑港北加州都市の大商社を悉く會員に有し、桑港市内では美術雜貨商、輸入商、日本の大會社支店、各邦人銀行支店、食料品店、和洋雜貨店、其他有力なる商店、商業家を概ね會員とし、專業は日米貿易の増進、日本産商品の紹介、在米邦人商業家の保護及び福利増進、商業上の調査報告、日本商人の仲介、商業紛争の仲裁解決、其他商業上に關する凡ての公共事務に當つてゐる。此の外各都市には雜貨商、旅館等産業、美術品、食料品、グロサリー、農産品、洗濯業、洗染業、理髮業、製菓業、料理屋業、湯屋、醫師、切花商、靴工、藥店、其他諸種の組合があつて、少きも三十名、多きは數百の會員を有して皆企業者一致の歩調を執り、相互の利益増進と業務發展に努めて居る。

各種商業

洗濯業 米國に於ける日本人の洗濯業は、一八八九年(明治二十二年) 桑港の對岸チプロンで鹿兒島縣人榎本某が始めて手洗洗濯業を開始した。これが邦人洗濯業の元祖である。次で一八九〇年(明治二十三年) 和歌山縣人畑中松之助が東京ランドリー、佐藤周三が横濱ランドリーを何れも桑港で開業し、一八九一年(明治二十四年) 丹正之がサンクルーズで開業してゐる。同年千葉縣人塚本松之助が、前記チプロンの榎本洗濯店を譲受け、一八九九年(明治三十三年) 桑港に移轉し第二十三街で蒸氣機械による洗濯業を開始するに至り、各所に日本人洗濯店が何れも其技術の精巧と熟練と取引の正直とにより、米人の信用を増し一時は支那人を凌駕し着々米人同業者の顧客をも蠶食するの

勢ひとなつた。此の勢ひは忽ち排日運動者の乗ずる所となつて、一九〇七年（明治四十年）頃から猛烈な迫害を蒙つた。塚本松之助の如きは、檢舉投獄さるゝ事數十回に及んだが、日本人同業者はこれに屈する事なく同盟を作り、購買組合を組織してこれに對抗し大に奮戦した。（排日経緯の項参照）

猛烈なる米人同業者の迫害あるにも拘はらず、米人顧客は日本人の技術を信用すること篤く一九〇九年頃より日本人の米國に於ける洗濯業は益々發展し、桑港及灣東に於ける古參斯業者は更に資本を増し、電気動力を應用し大規模の設備を以て堂々米人同業者と對抗して今日に至つておるが、一九一三年には米國に於ける日本人洗濯業者の数は二百一十ヶ所に及び、其持主或は共同者数は三百十二、就業雇人千六百七十五人の多數に達する盛況を呈した。其後大資本を擁する米人同業者の進出に依り爾來一進一退しつゝあるが、日本人に對する技術的信用は何等影響なく依然邦人の實業として優良なる成績を挙げ、古參同業者は何れも巨萬の富を積んだ者多數を出し、益々鞏固なる地盤を築いてゐる。

庭園業 庭園業に従事する邦人は、主として米人家庭の庭園を月ぎめ或は週ぎめにして掃除し、樹木草花の手入れ等に從事してゐるが、邦人は小手先きの器用なると清潔を好む國民であり日本人庭園業者は、此點に於て一頭地をぬき現在米國到る所に邦人庭園業者が散在してゐる。分けて羅府方面には其數最も多く、同地方のみにても一千餘人に達し其他の諸都市及地方に就動してゐる庭園師の數を擧ぐれば恐らく數千人の多きに達してゐる。邦人庭園業の元祖は、一八八二年（明治十五年）渡米した長野縣人古川源吉が、オークランドに於て米人の庭園を造り庭園業を営んでおつたのが最初である。古川は最初の移民スノーレル一行中の殘留者柳澤佐吉妻女の弟で、柳澤の關係で初期に渡米した、日本庭園の職人としては立派な職人であつたと云はれてゐる。現在庭園業者の給料契約賃銀は他の仕事に比較し、其割合は高率で、平均一ヶ月二百弗以上二百五十弗を取つてゐる。之等所謂勞働級に屬する者の外に庭造り、庭

園請負師の數も相當多く米人の家庭、公設公園、公會場、映畫場、遊園地、邸宅等の邸園設計築造等に従事し、南加州方面で仲々大規模のものあり、巨資を投じ設備を完全にして米人より年々莫大なる金を取つてゐる。

旅館業 海外渡航と旅館とは最も密接な關係がある。殊に在米日本人が雄圖を懷いて故郷を出で、その第一步を印した太平洋沿岸の桑港、沙港、羅府の諸港は、所謂草鞋を脱いだ處として何人も思出深い處である。従つて其他の邦人旅館は榮枯盛衰こそあれ、我が海外植民の事業とは切り離す事の出来ない重要な役目を承つて居る。米國に始めて日本人旅館の出來たのは、一八八五年（明治十八年）當時横濱で旅館を経営しておつた和田彦が、其の支店を桑港オフアレル街五〇五番に設けた。これが旅館として最初のものである。次で一八八六年（明治十九年）九月渡米した鈴木政吉が、一八八九年（明治二十二年）桑港クレー街に大磯屋旅館を始め一八九九年スタクトン街に移轉し、煉瓦建室數四十一を有する邦人旅館中の最大のものとして稱せられた。此の外明治二十三年頃渡米労働者の増加すると共に移民宿の必要に迫られ、一八九一年（明治二十三年）桑港ブナン街の波止場近くに、和歌山縣人丸山富造が〇なる移民旅館を開き、後井木久次郎がこれを引受けて營業した。羅府方面ではこれより數年遅れ、一八九八年（明治三十一年）愛知縣人水野仙次郎が、羅府ローズ街一二番地にサンタフェーボーディングなる旅館を開いた。これが桑港羅府に於ける邦人移民旅館の元祖である。

爾來海外渡航者の數と比例して旅館業は發展し、目下沙港方面には百八十軒、桑港總領事館管内二百一十一軒、羅府方面二百二十軒の多きに達し、其他各地に散在する大小旅館、アパートメント、ルーミング（貸室）を合すれば、總數二千軒に近いものがあり、其の家族は三千五百を越え、投資額六百萬弗を超過するものと見られ、殊に桑港、羅府沙港等には相當規模宏大設備完全のホテル尠からず、就中沙港は同胞對白人ホテルの開祖とも云ふべく、今より二十年前既に堂々たるホテルが日本人の手に依つて經營されて居つた。羅府には對外人専門の中流ホテルが多く、これは

概ね數十或は百數十の客室を有し専ら米人其他の外人を顧客としてゐる。桑港、沙港、羅府は何れも移民局があり此地の邦人旅館は傍ら出入國移民税關等の手續に關する一切の代理事務を取扱ひ、桑港旅館組合の如きは一九二四年新移民法の通過後邦人出入國者の便宜を圖る爲め、移民法専門の米人辯護士を雇入れ其の衝に當らせてゐる。

洋服洗染業

洋服洗染業は現時米國に於ける邦人のなしつゝある手工業の中で、最も有望な事業であり、其の数は年々増加してゐる。一九〇九年（明治四十二年）桑港で、近藤桂蔭、金子謙三等によつて洋服洗染業同團が組織され現在に及んでゐるが、一九一五年全加州邦人間に百二十三軒の同業者が、一九四〇年には五百八十の多きに達し往年靴工業が邦人手工業の霸王たりし如く現在では大都市は元より、地方の小邑に至る迄必ず邦人の洗染業がその勢力を張り牢固拔く可らざる基礎を作り、米人の同業組合にも参加して益々發展を示してゐる。又邦人經營の大規模なる洗染會社を設け、邦人クリーニングの荒仕事を引受け盛大にやつてゐるものもある。桑港王府、麥嶺、羅府、シアトル等が最も盛んで桑港總領事館管内の同業者は二百四十三軒（昭和十四年調査）シアトル八十軒、其中には數萬弗の巨資を投じ、最新式の設備で米人同業者に對抗し盛に營業してゐる。各地の同業者は何れも組合を組織して其の發展に資してゐるが、最古の桑港日本人洋服洗染業組合は一九〇八年（明治四十一年）の創立にかかり爾來今日迄繼續し現在會員百十名を有してゐる、同組合一九四〇年度の役員は

理事長大森近義△副理事長有働常次郎△事務理事増田乙吉△書記小川重雄

理髮業

日本人の赴くところ必ず日本人の理髮業者がある。現時米國の各市邑中日本人の在留する所には殆んど理髮業者のない所は無い位であつて、多くは理髮業の傍ら浴場、球場等を副業とし中には曹達ファウンテン、水菓子店をも兼營してゐる。邦人理髮業は一八九〇年（明治二十三年）に渡米した西島勇（藝名勇蝶）が一八九一年桑港ゼシー街に理髮店を開いた。これが邦人理髮の最初であるが、顧客は邦人の外に米人、支那人、比島人其他の東洋人が

多く各地とも同業者は組合を設け、米人組合と連絡して營業してゐる、現在米國各地で知られてゐる邦人理髮店の数は約五百餘戸である。

洋服裁縫業

洋服裁縫業も早くより始められた邦人事業中の一つで、一八九〇年（明治二十三年）澤田半之助が渡米し、一八九一年桑港ミッシオン街と第七街の角靴靴工店と同居して洋服屋の看板をあげたのが最初で、一九〇五年（明治三十八年）頃には、邦人同業者は五十有餘あり、寫眞結婚等によつて新渡米者の増加と共に同業者は殖え、一九一七年（大正六年）には百廿六軒の多きに達した。其後寫眞結婚廢止新移民法等により入國者數の激減を來せる結果同業者は漸次其數を減じてゐるが、桑港灣東諸市、羅府、沙港等には米人を相手とする洋服裁縫業は、技術の精巧と誠實を以て信用され、高價なるもの特別注文等は邦人同業者に多く、何れも相當の事業を繼續してゐる。

家庭労働

邦人のデーウオーク業（日傭家内労働）は無資本、無經驗でも最初に取つき易い労働であり、多くの渡米者は先づ此の仕事から出發したものである。其の元祖は一八八九年（明治二十二年）渡米した鳥取縣人濱田義一が一九〇七年（明治三十年）桑港フェルモア街にてサクラメント街近くに専門デーウオーク屋の看板を掲げたのを嚆矢とし、多數の同業者が續々此の方面に發展して來た。現在デーウオーク業者の最も多いのは桑港で其數約七百乃至一千人、羅府も略同様である。其他、沙港タコマ、サクラメント、須市、灣東諸市、シカゴ、紐育等にも澤山あり全米斯業者の數は約四千から五千人の間に註されてゐる。これらのデーウオーク業は概ね米人家庭中に定めた得意を有し、週極め或は月極めで毎日掃除に廻るものが多く、又其日々或は時間極めで臨時傭ひとして掃除、窓硝子拭き其他の家内仕事を現金徴収でやつてゐるもので、これらデーウオーク等の月收は大抵五十弗以上三百弗位より、中には得意を澤山持つて多くの下仕事者を使役してゐるものもある。桑港の如きは『日本人労働協會』がこれら家庭働きの人々により組織され、賃銀協定、仕事口周旋等互の福利増進に努めてゐる（日本人労働協會の欄参照）

靴工業 日本人靴工業は最も早く同胞間に起つた事業であるだけに、最も早く其の迫害をも蒙つてゐるに拘はらず、悪戦苦闘克く難關を突破し、今日牢固として抜く事の出来ない堅い地盤を築くに至つた。米國に於ける邦人靴工業の盛衰は幾多の迂餘曲折を経てゐるが、日本人間で白人對手の商賣として靴工業は、佛國人の洗濯業に信用ある如く、又現今洋服洗染業が一般米人より歓迎さるゝと同様、過去に於ける邦人靴工業の隆盛は一頭地を抜いてゐた。其の沿革を見るに、明治二十年前後日本に於ける靴職工は、随分資本家より壓迫され、氣骨のある者は其の壓制に憤慨しておつた折柄明治十九年徳富蘇峰の主筆した「國民の友」誌上に、米國在留支那人が靴工業に成功してゐる記事があり同業者中の不平連は宜しく米國に航して新運命を開拓すべしとなし、實情視察のため、明治二十一年十月當時東京櫻組の社長であつた西村勝三の贊助を得て、新潟縣人城常太郎、依田六造の兩名が渡米する事となり、一時歸朝中であつた高木豊次郎（元福音會幹事）と共に先づ城常太郎のみが渡米した。これが在米日本人靴工の元祖である。城は渡米して靴工業の有望なるを確め得たが何分にも開店の資金もなく、己を得ず桑港第五街のコスモポリタン、ホテルに掃除人として働き、一八八九年（明治二十二年）六月同志關根忠吉が渡米し、城と共に桑港ミツシヨン街と第三街に小さな裏家の一室を借り受けて營業を開始した、これが邦人靴工業の嚆矢である。同年通辨森六郎の紹介によつて、製靴所を持つてゐたチースと稱する米人と懇意となり、チースは日本人の技術工として、優秀なる點を取つて、日本人職工の渡米を慫慂したので、一八八九年（明治廿二年）關根忠吉は歸朝し同志を糾合して同年十月左の人々と俱々渡米した。

櫻組靴工長伊藤金藏、大嶋謙司、平野永太郎、今村積五郎、岩佐喜三郎、片岡福藏、鈴木謹十郎、永倉米作、丹羽鍊次郎、高梨幸助、飯沼守三、小永井忠吉。

靴工業の中心人物 これ等は何れも後年邦人靴工業の中心人物として活躍した人々である。所が日本人の職工は

仕事迅速で奇麗であり、決して白人職工と遜色が無いのでチースは白人職工に秘して別に工場を設け、盛んに製靴に従事した事より端を發し、白人職工ユニオンより排斥運動が起り、經營者チースは非常な壓迫を受けて一時身を隠すの已なきに至つたので、關根忠吉を中心に日本人の獨立靴工場を桑港ミツシヨン街に設け、一八九三年（明治二十六年）亞市レールロードアベニューに友枝榮三郎が開業し、桑港に二ヶ所、亞市に一ヶ所の工場が設立された。同年東京靴工同盟副會長相原鍊之助が同志數名と共に渡米し、個人同業者二十名をも加へて、一八九三年一月靴工同盟會を組織した。當時其の主意として發表されたものは左の如く實に堂々たる名文であつた。

靴工同盟設立の主意

浦賀一聲の汽笛三千餘年の迷夢を覺破してより世界大勢の潮流は端なく東瀛の國を率ひ遂に優存劣滅の渦中に投ぜしむ。爰に於て乎氣運一轉亦昔日の退守に甘んずる能はず、輿論滔滔商工の興起を唱へ、移住殖民の急務を道ふ洵に故あるなり。吾人不肖固より敢て國民の率先たるに當らず、唯だ其業務の促すところ遠く故山を辭して萬里異域に航するに至れり。然れ共吾人の職業は業に已に白人の久しく執れる處、需給また久しく平均したる所なり。吾人今この間に起て亦これを營まんとす勢ひ必ず兩者の競争を避くべからず、吾人は幸に大和民族の特質を享け、製靴の技術に於て敢て對手に譲る所なしと雖も實白人種を異にし、東西言文を同ふせず、四邊の事物吾人に不利なるもの擧げて謂ふべからず、吾人は是等の障礙に克て、而して自己の發展を計らんとす。豈容易の事ならんや。説聞く毛髮の弱き之を束縛すれば以て千鈞を擡ぐべしと吾人亦相親和し、相應救し益々團結の鞏固を致し業力を利用せざるべからず、合資の力を以て大資本に當り、又時に此の柳壁に反抗するの覺悟なかるべからず。吾人は更に同業者をして各其身を修め、家を齋へ、居住の地盤を堅めしめざるべからず。蓋し大勢に順行して優存の地に立たんと欲する者の必ず取るべき道なりとす。而して吾人はこれを實行するの機關を要するは素より言を俟ざるなり。これ今回靴工同盟を組織したる所以なり。

一八九三年一月創立 發起人
渡邊伊喜松、相原鍊之助、明石精一郎、福島安兵衛、花井直次郎、平野永太郎、岩佐喜三郎、今村積五郎、城常太郎、城辰造、片岡富造、清田元三郎、岡本貞助、關根忠吉、鈴木謹十郎、島山徳造、友枝英三郎、依田六造、谷田部孝造、山本富造。
右の趣意書は愛國同盟會員巨篤治の起草で、菅原傳、大和正夫等の訂正を経たものであつた。

其後、同盟は益々盛大となり、會員三百名を有する沿岸唯一の邦人實業團體として共同購買及販賣組合を組織し、邦人間に重きを爲したが、世界大戦後經濟界の打撃と靴工機械の發達は手工の能率を封ずると共に一般的排日の影響を受けて漸次衰微し一九二九年には同盟も解散するに至つた。然し同胞の靴工業に従事するものは現在各市を通じて相當に在り、何れも最新式の靴工機械を使用し盛んなる營業を續け、桑港王府に於ては第二世の同業者もありその將來を有望視されてゐる。

邦人の製造工業

在米同胞の製造工業は他の農商方面に比較して未だ微々たるの域を脱しない。東部では故高峰博士の科學工業を繼ぐパークデビス會社があるも博士逝去後は追々縁遠くなり、沿岸の北部諸州には製材會社就業者多數あるがこれも自營の工業でなく、加州には家具製造會社、鐘詰會社、靴工、味噌、醬油、清酒醸造會社、精米所等があり、相當の成績は擧げてゐるが、その規模は餘り大なるものが少ないである。

家具製造會社と排日 邦人製造工業中稍見るべきものは、岡山縣人赤木信太郎が經營した「カリホルニア・ミツシヨン・フアニチュラー會社」である。同家具會社は、一九〇六年（明治三十九年）排日の最も盛んな時代に起業し、一九一一年資本金十二萬弗を投じて西パークレーに堂々一英町半に亘る大工場を設立し、従業員日本人七八十餘名、年産額二十五萬弗の營業を續けて來たが、執拗なる排日運動に禍され、二十年間の苦闘も酬ひられず刀折れ矢盡きて、遂に一九二八年閉鎖の止なきに至つた。

食料品製造所其他

目下米國內に在る日本人食料品製造所の主なるものは、味噌、醬油、清酒、糖、蒲鉾、乾餛飩、素麵、菓子等九十個所であるが、其中多少規模を大にしてゐるのは、清酒、味噌、醬油、乾餛飩等の製造所で、桑港、サンノゼ、王府、サクラメント、フレズノ、羅府其他に存在して、在米同胞及布哇の在留邦人を顧客とし、其の年産相當の額に上つてゐる。

右食料品の外に同胞製造業に一頭角を現してゐるのは曹達水の製造所である。櫻府、須市、フレズノ、羅府、帝國平原等には數萬弗を投資し最新式の設備の下に製造し、日米人を顧客として盛大に營業してゐる。精米所も在米邦人及布哇在留邦人を顧客として加州米の精米所が、桑港、櫻府等に數ヶ所あり、食料品卸商會社に屬して、何れも優秀なる精米機械によつて盛大に經營されてゐる。

第三章 漁業

北加州の邦人漁業

緒言 米國に於ける邦人の漁業は、その範圍に於ても北は遠くアラスカから太平洋沿岸を経て南はメキシコ、南米にまで至り、その歴史も亦カナダは一八八五年（明治十七年）加州は一八九二年（明治二十五年）の古きに遡り農業に次ぐ一大産業たるを失はない。而も邦人漁業家は各沿岸に於て各國人に率先、今日の漁業を開拓せるにも拘らず、陸地に於ける邦人農業者の如く常に排日法案に苦闘しつゞけて來た。加州議會の如きは排日法案提出を以て年中行事としてゐるが如くである。在米邦人漁業家は其の員數に於て伊太利人その他に幾分の劣勢はあるが、技術の點に於ては斷然他の追隨を許さないものあり、加州に於ける漁獲總高は絶對多數を占むる他人種のそれに比して勝るとも劣らざる好成绩を示してゐる。而して加州に於ける邦人漁業は北加モンントレーを發祥の地として漸次に南加州に及び更に桑港からオレゴン州、ワシントン州近海へと延張され、現在は第一世の老境入りと共に聊か退勢を示してゐるが一面に於ては、後繼者として第二世の進出漸増の傾向にあり、第二世の時代ともならば數十年に亙る執拗なる排日から漸く解放される時の到るべきを期待されてゐる。

初期の邦人漁業 米國に於ける邦人漁業は一八九二年頃（明治廿七、八年）北加州モンントレー灣に於て、邦人漁夫五六名が米人漁業家の使用人となつて、烏賊獲りに従事せるを以て嚆矢とする。而してモンントレー灣の漁業は

その後益々有望視され、一九〇〇年（明治三十三年）には八名の邦人が獨立して鮭漁業を開始し、更に翌々年（一九〇二年）には同地に米人資本家による海産物儲蓄會社が創立されるに及び邦人漁業家の數は逐年増加し、一九一〇年（明治四十四年）頃には中型ガソリン漁船七隻、スキーフ（鮭釣りに使用する小型漁船）百四十隻を所有し、これに乗組む邦人漁夫百四十五名を算し、その収入年産額十萬弗と推算される状態となつた。而してこれら邦人漁夫は單に鮭漁業に止まらず、鰯、鮪、シーバス、スマルト、ラツカド、鯛、バラクダ業の漁業にも範圍を擴張し、同地に於ける漁業は一時邦人漁業家の獨占に歸したかの觀があつた。

野田、小谷の採鮑業 これより先き即ち、一八九五年（明治二十八年）モンントレー市に近くカームルのポイント・ロバスには邦人の手による採鮑業が營まれてた。恰もこの事業は、當時加州在留同胞指導者の一人であつた佐賀縣人野田晋三郎が創策創始したもので、野田は一八九五年、太平洋開發會社の所有に屬する森林の伐採並に薪切りの爲、ワツソソビルより管野、今城の二邦人を同伴してモンントレーに赴き、彼らと前後して伐採の爲めに來着した和歌山縣人の漁師六七名と共同して、小規模な漁業を始め、半漁師、半伐木者として過してゐたがその中に井出百太郎なる者も一行に加つて専ら食料供給を擔當するに至り、野田は翌一八九六年採鮑業の有望なるに目を着け、井出と諮つて日本より専門家を呼び寄せることとし、日本で諸準備と機械の買付け等を磯部小哉に依頼した。磯部は農商務省へこのことを相談に及んだので、農商務省では當時千葉縣にゐた小谷源之助にこれを通じて渡米を促し、（小谷は當時千葉縣で潜水機を以て採鮑業を營んでゐた）小谷は早速渡米し一八九六年十月モンントレーに來つて野田と協力することになつたのである。兩人協力の採鮑業には日支人多數の漁夫が従事し、鮑は乾燥して日本にも送り、百斤（十六貫目）を三十二圓（米貨十六弗）で賣買し、その業績は良好であつた。然るに其後に至り野田と井出との協力作業は分裂し井出は獨立でポイント・ロバスに採鮑業を起し、日本より潜水機並に漁師を呼び寄せ、野田も亦日本より漁師

を雇つて事業を擴張し、茲に於て兩人は對立するに至つたが、井出は資金つゞかず、一八九八年頃より桑港の森肇の融資によつて事業繼續を圖つたが遂に及ばず、ポイント・ロバスに於ける井出の採鮑業は、森及び野田の協力者小谷の手によつて經營されることゝなつたのである。而して一方モントレーに於ける邦人漁業家の勢力は逐年漸増して、一九一四年（大正三年）頃には漁業従業員百六十名、五馬力のガソリン・ボート六十五隻、普通漁船三百二十五隻を數へる勢力となつてゐた。

排日と小谷の苦闘

森肇と共同で井出よりポイント・ロバスの採鮑業を引受けた小谷源之助は、事業を益々擴張してその業績頗る賑盛なものがあつたが、一八九九年頃に至り排日の聲漸く旺んとなり、小谷の採鮑業に對する壓迫も頓に加重され、加ふるにモントレーの辯護士のフキツツは邦人の採鮑禁止案を州議會に提出した。この法案は幸ひにして邦人側の辯護士ベスカに依つて阻止されたが、これに引續いてサリナスの郡參事會でも同様邦人の採鮑禁止案を提出するに至つた。邦人漁業家は再びベスカを辯護人としてこれに闘ふ一方小谷は同法案に反對の白人三百四十二名の署名をとつて郡參事會に訴へ、或は郡參事員並に英字新聞記者を招いて海上ビクニツクを催し、その眼前に於て採鮑の實況を見せて、鮑採取の無害なるを説き、或は呢懇の紐育コロンビア大學某教授に委嘱して州議會に出頭せしめ「鮑は一年四百萬個の卵を生み、この割で繁殖せしめたらば太平洋も鮑を以て埋もれるであらう。斯る繁殖率の夥しい鮑は幾ら採取しても全滅の憂ひは些かもないのである」と説明せしめ、採鮑禁止の法案は斯くして遂に阻止されるに至つた。（註—前記某教授はその排日運動の當時鮑の卵研究の爲にポイント・ロバスに來たり、小谷の潜水夫によつて卵を採集したことから小谷と昵懇になり、小谷は採鮑禁止案に對する苦衷を訴へて教授の後援を依頼したものである）然るに排日漁業法案はその後に至つても依然隔年毎に州會に提出される有様なので、小谷は排日の壓迫に打ち克つ爲に、一九〇二年（明治三十五年）彼の地主英人アレンと共同事業として續詰事業をも起し、年收四萬

弗を上げる殷盛さを呈するに至つた。而して當時加州内に於て販賣される鮑の續詰は悉く小谷工場の製造か墨國産品であつた。

最盛期のモ灣漁業

一九二五、六年頃のモントレー漁業は正に最盛期の觀を呈し、年産額三百萬弗の巨額に達し、同胞漁業家の年産額も鮑十萬弗、雜漁十萬弗、鮑十六萬八千弗總計三十八萬八千弗と推算された。而してその當時の勢力を示すと次の如くである。

鮑取六組 ▲漁網六投漁船大小廿隻 ▲漁獲量一日平均十五噸、月に廿日の出漁とせば三百噸 ▲六月より翌年三月まで八ヶ月間一組平均二百四十噸とし噸十一弗換（一組收入一萬弗）六組分十二萬弗但し邦人組の六組に對し伊太利人は六十組あり鮑取八組 ▲漁船八隻年收、十二萬八千弗（一隻年收一萬六千弗）▲一隻分配率八人分（一人前二千弗宛）漁夫五人前、潜水夫一人前エキストラ、船主一人前エキストラ、潜水船及附屬品一人前、即ち鮑採取船は主共五人乗組で八人前に分配するもの普通鮑取漁夫の年收は此分配一人前二千弗と他に種々のエキストラ漁業仕事料一千弗を加へ合計三千弗の年收
雜魚出漁 ▲鮭一人前年收千弗づゝとして六十人分で六萬弗その他南加州出漁收入等を合せ全部で約十萬弗

而して一九二九年度の調査によると、邦人漁業經營者の數七十九名、所有漁船六十隻、その投資總額百萬弗、年収入四十萬弗と報告されてゐる。

モ灣邦人の現況

モ灣の漁業を開拓した邦人も漸次に老境に入り、或は歸國、死亡等と相踵いで減少し、加ふるに後繼者（第二世）の補充十分ならず、モントレーの邦人漁業も近年に至つてやゝ凋落の傾向である。例へば前記小谷源之助の採鮑續詰工場にしても、小谷、アレン共に世を去り、而も後繼者なき爲つひに絶滅し、その所在地ポイント・コバスは公園地として加州政廳の買上げるところとなつてしまつた。而して現在の在留同胞漁業家年收額は二十 五萬弗乃至三十萬弗と推算されてゐる。

なほ小谷に次ぐ古老漁業家瀧川幾太郎は今なほモントレー市に手廣く漁業を營んでゐる。

桑港沖の初網 元來桑港沖の鰯群は實に豊富であつた。斯業の先覺者達も夙に同沖に於ける鰯漁業の有望なる目をつけてゐたが、天候不順の爲事業に着手するものなく、僅かに伊太利人が小型船を驅つて鰯漁業に従事してゐたのと、モントレー漁業家が小規模に遠洋漁業を試みてゐたに過ぎなかつた。然るに一九三〇年（昭和五年）モントレーの邦人漁業家和歌山縣人濱地克祐は所有の大型船を乗出して初めて桑港沖一帯に網を下ろし、鰯漁業の有望なるを確認し、桑港に於ける邦人漁業家進出の端を拓いた。爾來モントレー、南加方面より邦人漁業家の桑港進出は年毎に目醒しく、又現在では伊太利人並に北歐人の斯業に従事する者も巨數に達し、桑港は數年ならずして北加に於ける一大漁業地となるに至つたのである。而して當時の桑港に於ける魚獲高は例年二萬五千噸を下らず、これが硬化油は肥料として各地に輸出された。

桑港漁業の現況 桑港の漁業は現在、日、米、伊、瑞、諸等の各國人によつて行はれ、その漁船數約五六十隻に及び桑港沖を中心に南北百哩の圏内を縦横に活躍してゐる、而してその漁業期間は八月初旬に始り翌年二月下旬を以て終了するが、鰯漁業開始の一九三〇年より一九三八年に至る八年間の桑港に於ける魚獲高を示せば、

▲一九三〇年〓四八、四六八、九五七封度（以下單位封度）▲一九三一年〓五〇、六八四、六八四、▲一九三二年〓二九、三五七、七六八、▲一九三三年〓六二、二一四、五七〇、▲一九三四年〓一三五、四七五、九六五、▲一九三五年〓一四七、二五七、四三八、▲一九三六年〓二八三、七八九、四三七、▲一九三七年〓二五五、三六七、三五七、▲一九三八年〓三五八、八五二、四六〇

となつて居り、この中邦人漁業者は例年數十隻の履備船に約千五十名が乗込んで、各國人を睥若たらしめる魚獲高をあげてゐるのである。

アストリア漁業 アストリア漁業とは邦人漁業者が桑港以北即ちオレゴン、ワシントン兩州沿岸の漁業を總稱して名づけてゐる言葉である。このアストリア鰯漁業は桑港邦人漁業者によつて發達したもので、邦人漁業者達は

桑港沖の漁業を終了して同方面に遠征するを常としてゐる。然るにこゝに特記すべき事はオレゴン州政府は邦人漁業家の異常な進出ぶりに注目し、同州沿岸に於ける食料魚類保護の爲に無制限魚獲並に販賣を禁止し、又日本人漁業家の進入を禁止してしまつた。然しこの法令はオレゴン州産業の發達に甚大な影響を及ぼし、遂に暫定的解禁の止むなきに至り、一九三五年六月に至つてクース・ペー及びアストリア漁業を再解放するに至つた。これは畢竟するにオレゴン州沖の漁業は夏季晝間に行はれるもので、斯る特殊情況の下に行はれる漁業には、獨り邦人漁業者のみがよくその技術を發揮し、オレゴン州の海産業は所詮邦人漁業者の力に頼らざるを得ぬことを強く認識せしめた爲であつた。而して同地に於ける邦人の漁業高は（漁業期間四五ヶ月）

一九三五年〓二萬七千噸、一九三六年〓一萬四千一百噸、一九三七年〓一萬六千六百噸となつて居る。

ユニオンの問題 桑港の邦人漁業も大勢の赴くところ必然的にユニオンの影響を受け、ユニオン所屬問題、會社對ユニオンの協力可否問題、棉花油騰貴に對する鰯油値段の公定相場變動問題等々と、直接間接悉くその影響を受けざるはない。この問題は太平洋沿岸各港に於ける全漁業者（外國人も勿論含む）の齊しく蒙むるところの影響であつて、時には非常なる困難に逢着することも度々である。而して桑港の漁業家はOIOに、モントレー、南加の漁業家はAFLに加盟してゐる。又このユニオン問題以上に邦人漁業家の頭を悩ます問題は排日漁業法案であるが桑港邦人漁業家はこれが唯一且つ根本的な對策として二世繼續者の養成に努め、現在全沿岸を通じて百五十名の二世が就業してゐる現狀である。

桑港漁業俱樂部 而して邦人漁業者はこれら諸種の問題に關する對策を講じ、且つ同業者の福利増進を圖る目的を以て一九三八年（昭和十三年）六月二十六日、桑港日本人漁業俱樂部を創立、濱地克祐を會長に南加日本人漁

業組合と、密接な聯絡下に各方面の活動を開始するに至つた。現在は前副會長鹽崎清五郎を會長に、事務所を桑港市
ポスト街一七二七に設け、漸次に有力團體へと進んでゐる。

南加邦人の漁業

南加漁業の開拓 南加の漁業は一八八七年頃（明治二十年）ホワイト・ポイント附近に於て乾燥鮑を製造せ
るに始まつてゐるが、同胞の南加に於ける漁業界進出は、それより十三年後即ち一九〇〇年（明治三十三年）千葉縣人
佐野初次がボート・ロサンゼルスに入つて漁業を開始せるを始祖とする、當時南加州には未だ日本人の在留者甚だ少
なく、市場に於ける魚類の需要も稀れであつたので、魚獲の販路に苦しみ遂に事業中止の止むなきに立ち至つた。然
るにその後日露戦役の頃となつて布哇移民の轉航や寫眞結婚による婦人の渡米、或は桑港の大震災による同胞の移住
激増等によつて、南加州の同胞人口は急激に増加し、佐野は勞働力を得て更に大規模に事業を擴張した。而して佐野
の成功を傳へ聞いた同胞は各方面より集まり來つて漁業を始め、遂にはその數十六組、これに従事する漁夫六十餘名
を算するに至り、ボート・ロサンゼルスは宛ら日本人漁村の觀を呈するに至つた。彼らは更に各方面に進出を企て、
十六組の中その半數八組はボート・ロサンゼルスに残り四組はサンビドロに、一組はブレヤテルレーに、他の一組
はオクスナードに、而して二組はサンデーゴに別れ散つて、それ／＼斯業に従事して、遂に南加各地に於ける邦人漁
業の基礎を今日の如くあらしめるに至つた。一方一九〇〇年頃サンタバーバラの對岸に採鮑業を起した山田源吉は、
五六十名の邦人漁夫を使役してゐたが、邦人漁業家は斯くして漸次に海濱に沿ふてベンチュラ、オックスナード等に
進出したのである。

サンビドロ

漁業の沿革

サンビドロ港は加州に於ける邦人漁業家の最大根據地である。そも／＼同港に初めて日本人が入
込んだのは一八九九年（明治三十二年）の頃にして、その先驅者前田金藏、筋師重太郎、山本孝
太郎らは最初市内に於て靴磨き或は家庭働き等に従事してゐたが、一九〇二年（明治三十五年）に至り漁業に轉業し、
五馬力の漁船を驅つてクレメント附近に出漁し、主として底物漁獲に従事してゐた。一方彼らと前後して同港に移住
した畑下良次郎、巽幸兵衛、谷甚四郎、畑下要太郎ら十數名の邦人はホワイト・ポイントに於て採鮑業を始め乾燥鮑
及び罐詰め業を營んで七年間も繼續し、又一九〇〇年頃には濱下善吉なる者がホワイトポイントで蝦採りを始め、又
前記巽幸兵衛も採鮑業の傍ら蝦採りに従事してゐた、斯くして始められたサンビドロ港の邦人漁業も當時は第五街波
止場の近くに七八軒の日本人漁家あり、同胞數も僅かに十數名に過ぎなかつたが、その後、布哇轉航者その他によつ
て同港の邦人々口も著しく増加し漁業の勢力も頓に擴大されたが、未だ邦人間には一つの罐詰工場もなかつたので、
遠山則善らは同志と相諮つて一九〇八年（明治四十一年）鮑の罐詰會社を興し、個人事業家を通して販路を専らハワ
イに求め、その貝殻は主として獨逸に輸出するなど、大いに販路を擴張し、サンビドロに於ける邦人の漁業は茲に於
て愈々その基礎を固むるに至つた。

最初の排日壓迫

而して同會社は中原正一を技師格に淺利、吉田、矢部の所有する漁船三隻を雇傭して鮑の
みならず鮭の漁獲にも従事せしめ、會社は鮭罐詰をも併せて行ふに至つたが、二三年後に至り加州議會は鮑の大きさを
制限する新たな漁業制限法案を制定した爲、會社の採鮑業は茲に一大支障を來たし、邦人漁業の組織的發展の基礎と
して期待された同會社も遂に一九一〇年、創業僅か三年にして閉鎖の止むなきに至つた。茲に於て前記中原正一は會
社に代ふるに魚市場の開設を以てしたが、當時同地には既に二三の白人經營魚市場があつた爲、前記中原の魚市場に
對する壓迫も俄然猛烈を極め、遂には邦人漁業家に對する排斥運動とまで化し、投石事件、或はユニオンによる邦人

立退き要求状突つけ事件なども日に夜を次いで繰出し、サンビドロに於ける邦人排斥史に於ける最も激烈な排斥運動を展開するに至つた。

ターミナル島開拓

サンビドロ港に於ける邦人排斥運動激烈を極むる秋、一九一〇年同港の對岸ターミナル島に初めてサンビドロ・フィッシュ・カンパニーが設立され、同會社は單に鮪の罐詰のみでなく、南加州沿岸を始め墨國近海に無盡蔵と云はれる鮪の罐詰をも行ふと云ふので、邦人漁業者はサンビドロにより同島へ移住し、引つゞき各會社の續設されるに及び、邦人の數も益々増加し、更に小規模乍ら食料品店、漁具並に漁網店も開店され、全島砂石に覆はれ鈴蛇の巢となつてゐた同島も同胞の移住によつて今日の繁榮を來たし、現在日本人は三千餘に及ぶ盛盛である。鮪は今日でこそ海のチキンと稱しサラダにサンドウィッチに米人一般の食卓に供せられてゐるが、一千九百一十二年頃は誰も之れを顧みる者はなかつた。然るに前記のサンビドロ・フィッシュ・カンパニーが起り此種の罐詰を始むるや世の資本家もこの事業の有望なるに着眼し、ホワイト、スター、パンキャン、アンブルスト、カーズ等の諸會社が續出し、日本人漁業者も賣込相談が容易となり、漁船も五馬力のものには十馬力に、十馬力の船は二十馬力乃至三十馬力のものに擴大し、在留邦人も三百名から五百名、五百名より千名へと漸増し、亦戸數も殖えて三百戸以上となり、邦人漁業者が軒を列べて生活するに至り、宛ら日本の漁村そのまゝの觀を呈するに至つた。

飛躍時代の漁業

一九一五年頃は邦人漁業者の飛躍時代である。今南加州沿岸に於けるその勢力を示せば、
▲サンビドロ(ターミナル島を含む) 漁船一〇〇隻、漁業者三五〇名、▲ボート・ロサンゼルス(以下順序) 一
二隻、四二名、▲サンデーゴ 二八隻、八五名、▲オックスナード 二隻、七名
即ち右一九一五年度の調査ではサンデーゴを含む南加州邦人漁業者は四百八十四名であるが、其後年餘にして六百餘名に増加したと言はれ、其家族妻子を合すればサンビドロを中心とする南加州の邦人漁業者數は此頃既に千二百以上だ

つたと推算され、これ等の邦人漁業者が毎年南加州で得る漁獲高は七十五萬弗以上百萬弗に達し、個人當り一ケ年の収入は平均七千弗乃至一萬弗に上ると概算された。

日米鮪會商

然るに一九二九年乃至三〇年頃に至り南加州沿岸に無盡蔵とされた鮪漁獲は急に激減し、遠く墨國近海に行けば、多少の漁獲はあつたが墨國政府はこれに不法な輸出税を課した爲、此處に於ても漁業意の如くならず、邦人漁業者も罐詰會社も事業不振を啣つてゐた。斯る時に於て曾つてサンデーゴに於て漁業に經驗ある近藤浩一と三井物産會社に依り冷蔵鮪約五千噸と罐詰鮪數十萬箱が日本よりサンビドロ及びロングビーチに輸入された。勿論之れは日米兩當事者の合意協定の上になされた國際貿易ではあつたが、俄然米國水産業界の問題となり、日本鮪輸入防壁の聲は漸次に高まり、遂に一九三四年六月、所謂鮪會商なるものがサンビドロ港に於て開かれるに至つた。夫れは日米兩國の當業者、加州政廳の技師並に米國官憲等の協議會であつて、主として値段を協定せんとするにあつたが、日本側の主張まち／＼にして足並揃はず會商は遂に決裂してしまつた。然るにその後に至つて鮪漁業は再び股盛を來たし、剩へ鯖並に鮪の罐詰業も東部及び南洋、東洋諸國に市場擴大され、南加州の漁業界は茲に於て再び活況を呈するに至つた。

排日漁業法案と

日米人漁業組合

排日漁業法案は加州議會に於ける一つの年中行事の如きもので、議會には必ずこの法案の提出されるを慣例とする有様である。漁業家自身を始め同胞一致の協力によつて辛ふじてその通過を阻止しては來たが、この爲に蒙る邦人漁業者の物心兩面に於ける損傷は決して少なしとせず、剩さへ日米通商航海條約の失効は、この種排日法案の制定を妨げる條約的障壁を消滅せしめ、邦人漁業者のこの種法案に對する腐心は更に加重されたかの觀を呈してゐる。而して外には斯る對外法案に備へ、内には同業者の福利増進を圖る目的を以て一九一六年(大正五年)三月、法人として加州政廳の認可を受けて組織されたのが南加州日本人漁業組合で

ある。この組合が組織されるまでの南加州邦人漁業者は各地に何らの聯絡もなく個々に營業してゐるに過ぎなかつたが、先づサンビドロに於て遠山則善を中心としてサンビドロ日本人漁業組合を組織し、更にこれを擴大して前記の南加日本人漁業組合を組織したのであつた。而して同組合は創立當時より二百五十名の會員を有し、例年數千弗の豫算を樹て、創立以來二十五年間、南加に於ける一強力團體として存續してゐる。今その趣意書中より同組合の目的とするところを見れば次の通りである。

イ、白人漁業團體或は個人との間に起る紛争の圓滿解決

ロ、邦人漁業組合員の利權擁護、儲蓄會社並に同業者間の親善工作

ハ、組合員の爲め通辨、交渉、翻譯等に付一切の便宜を計る

ニ、毎年白人の諸團體と協力して、鮪、鰹、ツナ、鰯等各魚類の値段を協定し其實行に努力すること

ホ、加州議會及中央議會に提出されたる各種の排日漁業案に對して其對策並に研究調査を遂ること

ヘ、魚價協定の爲め儲蓄會社側との交渉を遂げサンデーゴ、北加モントレイ漁業團體と協調し營業者の立場を擁護し問題に善處すること

南加邦人漁業現勢

南加州に於ける邦人漁業者の數は第一世の老境入り、或は歸國等に伴つて減少傾向を辿つてゐるが、事業は寧ろ反對に擴張されつゝある現勢にある。即ち先づ人口方面より見れば、一九二〇年度に於けるサンビドロの各邦人漁業者數の比較は、

日本人 八二一名、埃國人 四八四名、米國人 一六二名、伊太利人 一四一名

となつて居り、邦人漁業家の勢力は絶對多數を占めてゐるが、その十五年後の一九三五年（昭和十年）には五百五十名に減じ、その使用漁船の如きも百四十餘隻より七十六隻に減少した。然し事業方面に於ては漁船こそ減少したが、これはその多數が従來は一萬弗乃至二、三萬弗の小型船であつたものを、一隻十萬弗乃至二十五萬弗の遠洋漁業用大

型船に取替へた事による數の減少で、寧ろ實質的には擴張であり、その投資額の如きも従來は九十萬弗乃至百萬弗であつたが、現今では二百萬弗以上となつてゐる。而してこれら大型漁船は其數十隻、二ヶ月若くは三ヶ月以上の日時を以て墨國より中南米の沖に遠征し鮪、鰹の漁獲に従事して居る者あり、亦その二十隻の中型船は主として沿岸漁業をなし、他の約三十五六隻の小型船は近海に於て魚市場用の雜魚の魚撈に従事してゐる。

サンデーゴ

サンデーゴはサンビドロと並び稱すべき南加邦人漁業の二大根據地である。然るに同地に於ける

漁業と日本

邦人漁業の沿革は、明確な記録に乏しく詳細を究めるは至難であるが前述の如く一八九九年（明治三十二年）の初夏、佐野初次と共にポート・ロサンゼルスに漁業を營んでゐた十六組の邦人漁業中より二組の邦人がサンデーゴに進出して、同地に於ける邦人漁業の基礎を開拓したのは事實である。而してその後に至り和歌山、廣島兩縣人並に四國人等によつてサンビドロと併行的に漁業を發展せしめて行つたが一九一〇年（明治四十三年）頃、我が農商務省水産局の高等官近藤政治は（後篤宏と改名）日本を去つてサンデーゴに來り、同地を根據地として日本より漁夫を招き、彼らをして墨國低加州沿岸に出漁せしめ、高速度の冷凍船を以て生魚その儘を日本の市場に送り込み、日本の同業者を驚愕せしめたこともあつた。近藤の事業はその後二年にして中絶した爲、彼は低加州に海産物罐詰工場を再興し、低賃銀による良質罐詰を大量製産して世界市場に雄飛せんと試みたが、墨國政府は國內労働者擁護を理由に罐詰工場に使用の労働者は悉く墨國人たるべき法規を定めた爲、近藤の工場は技能に秀でた邦人使用が不可能となり、遂には業績振はず、一九二六年（昭和元年）創立以來二十數年間の苦闘の地を棄て、近藤は日本に引揚げた。この間に於ける彼の投資は實に百萬圓の巨額に達したと云はれる。

漁業の昨今

而してサンデーゴ漁業の最盛期はサンビドロと同様一九二七、八年頃で、この頃は邦人漁業組合などを設けて大いに活躍するところあつたが、近年は邦人漁業者數も減少し、事業狀況も衰勢を辿つてゐる。蓋しサ

ンデーゴは米國太平洋沿岸最南端の都市にして人口約十萬、十六哩を距て、墨國チワナに接し、而も米國太平洋艦隊の根據地であり、飛行練習所でもある爲、人口の約二割は軍人のため、商業的にも餘り有力なものなく、都市の發達も今日以上を期し得ざる状態にある爲、漁業の販路も從つて狭く、遠洋漁業による海産物罐詰業、或は海産肥料等に着手する以外は漁業發展の路はこれ以上なしと云はれてゐる。

加奈陀在留邦人と漁業

ビーシー州の漁業はフレザー河、スキーナ河、ナース河等の各地に、於ける鮭漁業及びナナイモ灣内に於ける鯨漁であつて、これらは初期時代より在留邦人と密接な關係を有してゐる、就中フレザー河口のステブストン・キャナリ（罐詰工場）の所在地は邦人先驅者の苦闘開拓にかゝるものである。

ステブストン開拓

同地には一八八五年（明治十八年）既に鈴木龍平、早川重吉、北兼和助ら數名の邦人が鮭漁業に従事してゐた、彼らはバンクーバーのヘスチング製材所から轉住したものと云はれてゐるが、彼らの同地漁業開拓に刺戟された邦人漁業者は、その後續々同地方に進出を試み、一八八八年（明治二十一年）には既に百五十名を算すに盛況を呈するに至つた。然し彼らの大部分は土地の定住者に非ずして、漁業期終了と同時にバンクーバー乃至は米國ワシントン州のシャートルに引揚げるを常としてゐた。然るに同胞のこの地方への進出熱は年と共に益々旺盛となり、一八九五年（明治二十八年）頃には一ヶ所のキャナリに百名乃至百五十名の邦人が就働し、その總數約千名を算するに至つた。（註）邦人中正式に漁業鑑札を受けたのは一八九一年前記早川重吉を以て嚆矢とする）然るに同地は二萬餘の土人と海の荒武者の混合所帯であつた爲、勢ひ風儀も亂脈となり、工場附近に醜窟を構へ、歡樂場を設けて漁業者を顧客とするに至つた。偶々ポートルランド方面より轉住した齒科醫山村梅四郎はこの状態を痛歎し、

邦人キャンブの有志と諮つてフェニツク・キャナリに一教會堂を建立したが、間もなく流行黄熱病と下水不完全の爲にチブス病流行し、邦人難病者收容の爲に教會は急ち病院と化し、遂に時の領事能勢辰五郎らの斡施で同教會をフレザー河日本人病院と改稱維持するに至つた。而して同病院並に同地邦人漁業者の最も光榮とするところは、英帝在位六十年祝典に御参列の歸途、カナダを御通過遊ばされた有栖川宮殿下より、同地の邦人事業御聴取の上、同病院に救恤金二百弗を下賜せられた事である。

鹽鮭の日本輸出

一八九六年（明治二十九年）サツカイ・サモン（鮭）不漁の爲、今まで一顧もされなかつたドック・サモンは、急に珍重がられるに至り、和歌山縣人林貞之丞はこれを鹽漬けとして日本に試送し、豫想外の巨利を占めた。米國市場に於ても需要多く一尾七仙と云ふ高値を示すに至り、この方面へ邦人漁業者の進出急増し、一九〇〇年はその數百五十を算へるに至つた。而して日本への輸出高も二千六百十二噸の巨量に及び、キャナリに於ても製罐八萬箱に及ぶ有様であつた。

フレザー河漁師團

フレザー河に於ける邦人漁師團體は一八九七年十一月二十日の創立になるもので、本間笛吉を總理に漁業者の統一と病院維持に當つてゐたが、一九〇〇年には邦人々口三千四百十九名を數へると云ふ盛況を示し、斯る邦人の著しい進出と共に排日の聲は漸次に高くなり、且つユニオンより加盟勧誘も激しく、日本人漁師團體では此際寧ろ自重して内部を堅むるに如かずとして更に名稱を改めフレザー河日本人漁者團體とし、山崎寧を理事に推して更に一層團結を鞏固にした。而して同團體では人口の増加に伴ひ在來の病院では急に應じ兼ねる状態となつたので、數千圓を投じて病院を新築した。

日白漁師の大衝突

一九〇〇年の漁業期に於て、キャナリーの發表せる魚價は日白漁業家の満足するところとならず、且つ日白漁業者間に於ても利害關係一致せず、邦人漁業家がキャナリ側に組するや、白人側は銃その他